

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第381集

うるしばやし

もとしゆくむかいはた

# 漆林Ⅱ遺跡・本宿迎畑遺跡発掘調査報告

水沢ほ場整備事業関連遺跡発掘調査

水沢地方振興局水沢農村整備事務所  
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

# 漆林Ⅱ遺跡・本宿迎畑遺跡発掘調査報告

水沢市ほ場整備事業関連遺跡発掘調査

## 序

岩手県には、旧石器時代の遺跡をはじめとし、数多くの遺跡や重要な文化財があります。平成10年度現在で、10,278ヶ所に及ぶ遺跡が確認されており、平成12年度、岩手県埋蔵文化財センターで発掘した遺跡は、46カ所でした。

先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。その反面、それまで闇につつまれていた先人の営みに光明があたるのも事実であります。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によって、やむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する処置をとって参りました。

本書は、水沢農村整備事務所の委託による漆林Ⅱ遺跡、本宿迎畑遺跡の調査結果をまとめたものです。

遺跡は、北上川右岸段丘上に立地しており、今回の調査から、平安時代を中心とした集落跡、掘立柱建物跡などの各種の遺構や遺物が発見されました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財に対する関心と理解を一層深めることに役立つことを切に希望致します。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご協力とご援助を賜りました岩手県農政部や水沢市教育委員会をはじめとする多くの関係機関関係各位に深く感謝申し上げます。

平成14年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 村上勝治

# 例 言

- 1 本報告書は、岩手県水沢市姉体町字漆林ほかの所在する漆林Ⅱ遺跡と姉体町字鍛冶屋敷32-1ほかの所在する本宿迎畑遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 漆林Ⅱ遺跡と本宿迎畑遺跡は、「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区」の施行に伴い、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。調査は、水沢地方振興局水沢農村整備事務所と岩手県教育委員会文化課との協議を経て、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 岩手県遺跡登録台帳に記載される遺跡番号は、以下の通りである。  
漆林Ⅱ遺跡 ME 37 - 1182・UBⅡ-00  
本宿迎畑遺跡 NE 37 - 1198・MMH-00
- 4 野外調査の期間と調査面積・調査担当者は、次のとおりである。  
漆林Ⅱ遺跡調査 期 間 平成12年4月10日～4月26日  
調査面積 600m<sup>2</sup>  
調査担当 小笠原健一郎・金野 進  
整理担当 金野 進  
本宿迎畑遺跡調査 期 間 平成12年4月27日～6月2日  
調査面積 1.194m<sup>2</sup>  
調査担当 小笠原健一郎・金野 進  
整理担当 金野 進
- 5 室内整理作業は、平成12年11月1日～平成13年3月31日まで実施した。
- 6 野外調査及び報告書作成にあたり、次の方々にご協力・ご指導をいただいた。  
水沢市埋蔵文化財調査センター副館長 伊藤 博幸 調査員 佐藤 良和
- 7 石質鑑定にあたっては、花崗岩研究会に依頼した。
- 8 座標原点の測量及び航空写真撮影は、次の機関に委託した。  
測 量 株式会社 東開技術  
航空写真撮影 東邦航空株式会社
- 9 野外調査では、水沢農村整備事務所、水沢市教育委員会、水沢市埋蔵文化財調査センター、水沢市民のご協力をいただいた。
- 10 本書の執筆編集は金野進が担当した。
- 11 本遺跡で出土した遺物及び図面・写真等の調査資料は岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに保管している。

# 目 次

## 序 例言

### [本 文]

I 調査に至る経過	3
II 遺跡の立地と環境	3～7
1. 位置及び立地	3
2. 地理的環境	4
3. 地形・地質	4
4. 基本土層	5・6
5. 周辺の遺跡	6
III 野外調査と室内整理の方法	9～
1. 野外調査	9・10
2. 室内整理	10・11

### [図 版]

第1図 岩手県図に見る遺跡の位置図	1	第6図 周辺遺跡の分布図	7
第2図 遺跡周辺地形図	2	第7図 グリット配置図(1)	9
第3図 遺跡周辺地形分類図	5	第8図 グリット配置図(2)	9
第4図 基本土層柱状図(1)	6	第9図 実測凡例図	11
第5図 基本土層柱状図(2)	6		

### [ 表 ]

周辺遺跡の分布表(1)	8
-------------	---

### [漆林Ⅱ遺跡発掘調査本文]

#### IV 検出された遺構と遺物

1. 概要	15	5. 土坑	20・22・24
2. 竪穴住居跡(2棟)	15・16	6. 溝状遺構	24
3. 焼土遺構(1基)	17	7. 陥し穴状遺構	26・27
4. 掘立柱建物跡	18	8. その他の遺構(柱穴群)	29
		9. 遺構外出土遺物	29

#### V まとめ

1. 遺 構	38
2. 遺 物	39
参考分献	39
報告書抄録	56

## 〔漆林Ⅱ遺構図版〕

第1図	1号竪穴住居跡	16	第7図	7・8・9号土坑1号溝跡	25
第2図	2号竪穴住居跡	17	第8図	陥し穴状態遺構	28
第3図	1号焼土遺構	17	第9図	柱穴群(調査区東部)	30
第4図	掘立柱建物跡	19	第10図	柱穴群(調査区西部)	31
第5図	1・2・3号土坑	21	第11図	遺構配置図	32
第6図	4・5・6号土坑	23			

## 〔漆林Ⅱ遺物図版〕

第12図	1号・2号住居出土遺物	33	第14図	遺構外出土遺物	35
第13図	P22・P26・P58出土遺物	34			

## 〔漆林Ⅱ遺構写真図版〕

写真図版1	空中写真(遠景、近景)	42	写真図版6	掘立柱建物跡(2)	47
写真図版2	調査区現況・基本土層	43	写真図版7	1・2・3・5号土坑	48
写真図版3	1号竪穴住居跡	44	写真図版8	6～9号土坑	49
写真図版4	2号竪穴住居跡・1号焼土・1号溝跡	45	写真図版9	1・2号陥し穴	50
写真図版5	掘立柱建物(1)	46	写真図版10	3・4・5号陥し穴	51

## 〔漆林Ⅱ遺物写真図版〕

写真図版11	遺構内出土遺物(1)	52	写真図版13	遺構内出土遺物(3)	54
写真図版12	遺構内出土遺物(2)	53	写真図版14	遺構外出土遺物	55

## 〔漆林Ⅱ遺跡表〕

表1	掘立柱建物跡 柱穴表	30・31
表2	柱穴群表(1)(2)	29
表3	遺物観察表	36・37

## 〔本宿迎畑遺跡発掘調査本文〕

### Ⅵ 検出された遺構と遺物

1	遺跡の概要	59	6	溝跡	85
2	竪穴住居跡(7棟)	59～	7	陥し穴状態遺構	87・88
3	住居状遺構(1棟)	75	8	その他の遺構(柱穴群)	89
4	土坑(18基)	76～	9	遺構外出土遺物	89
5	円形周溝(1条)	84			
ま	と				
と	め	104・105			
1.	遺構	104			
2.	遺物	105～106			

### 〔本宿迎畑遺構図版〕

第1図	1号竪穴住居跡	61	第12図	9・10・11・12号土坑	80
第2図	2号竪穴住居跡	63	第13図	13・14・15・16号土坑	82
第3図	3号竪穴住居跡	65	第14図	17・18号土坑	83
第4図	4号竪穴住居跡	67	第15図	円形周溝	84
第5図	4号竪穴住居跡(断面)	68	第16図	1・2・3号溝跡	87
第6図	5号竪穴住居跡	70	第17図	1・2・3・4号陥し穴	88
第7図	6号竪穴住居跡	72	第18図	柱穴群(1)	90
第8図	7号竪穴住居跡	74	第19図	柱穴群(2)	91
第9図	住居状遺構	75	第20図	柱穴群(3)	92
第10図	1～3号土坑	76	第21図	柱穴群(4)	93
第11図	4・5・6・7・8号土坑	78	第22図	遺構配置図	94

### 〔本宿迎畑遺物図版〕

第23図	1・2号竪穴住居跡出土遺物(1)	95	第26図	4・5号竪穴住居跡出土遺物	98
第24図	2号竪穴住居跡出土遺物(2)	96	第27図	5・6号竪穴住居跡出土遺物	99
第25図	2・3・4号竪穴住居跡出土遺物	97	第28図	6・7号竪穴住居、7・15・18号土坑、P48・58 遺構外出土遺物	100

### 〔本宿迎畑遺構写真図版〕

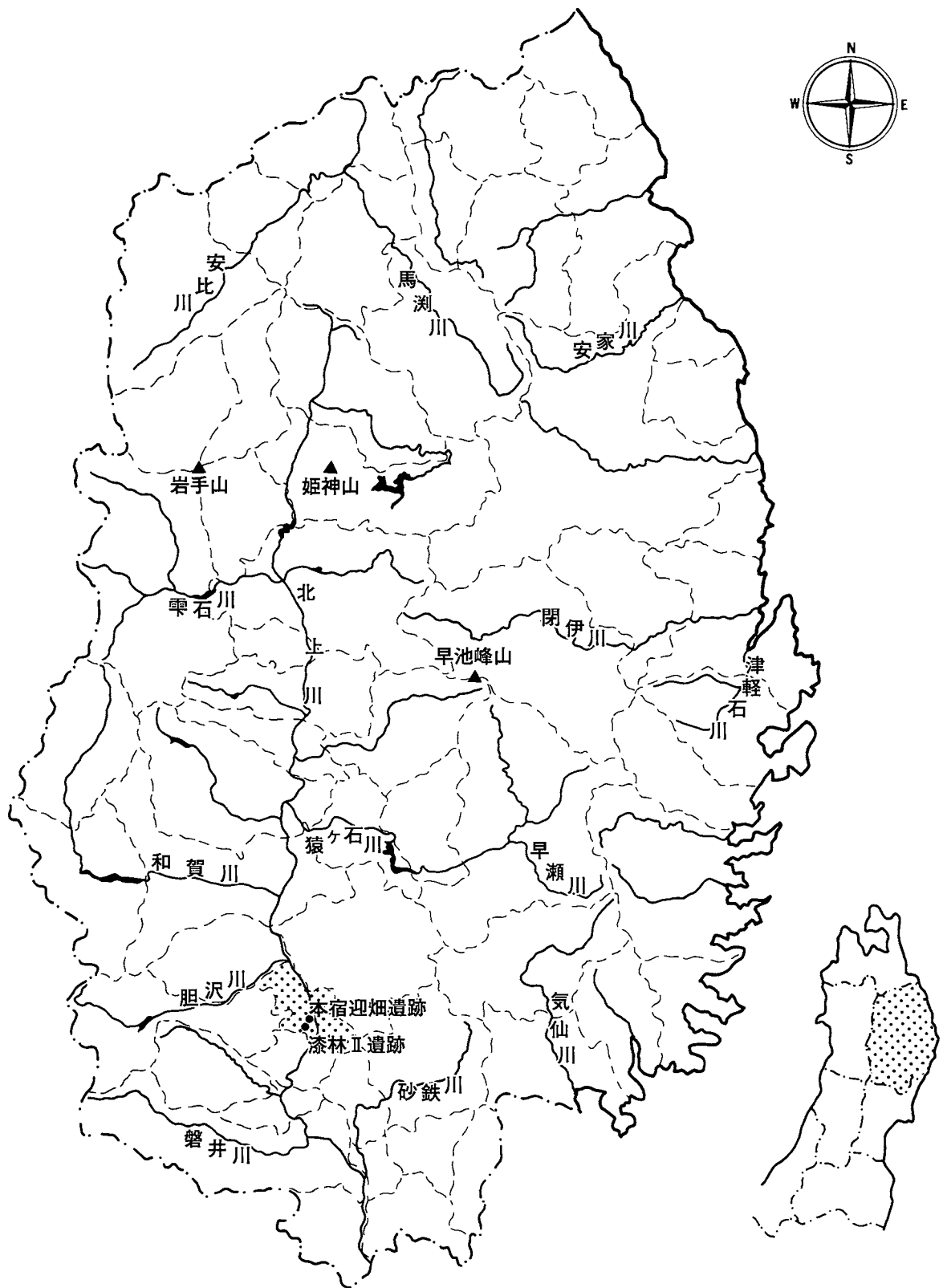
写真図版1	空中写真(遠景・近景)	108	写真図版9	7号竪穴住居跡	116
写真図版2	調査区現況・基本土層	109	写真図版10	1・2・3・4・5号土坑	117
写真図版3	1号竪穴住居跡	110	写真図版11	6・8・9号土坑	118
写真図版4	2号竪穴住居跡	111	写真図版12	10・11・12・13号土坑	119
写真図版5	3号竪穴住居跡	112	写真図版13	14・15・16・17・18号土坑	120
写真図版6	4号竪穴住居跡	113	写真図版14	円形周溝	121
写真図版7	5号竪穴住居跡	114	写真図版15	1・2・3号溝跡	122
写真図版8	6号竪穴住居跡	115	写真図版16	1・2・3・4号陥し穴	123

### 〔本宿迎畑遺跡遺物写真図版〕

写真図版17	1・2号竪穴住居跡出土遺物	124	写真図版19	4～6号竪穴住居跡出土遺物	126
写真図版18	2・3・4号竪穴住居跡出土遺物	125	写真図版8	7号住居出土遺物	127

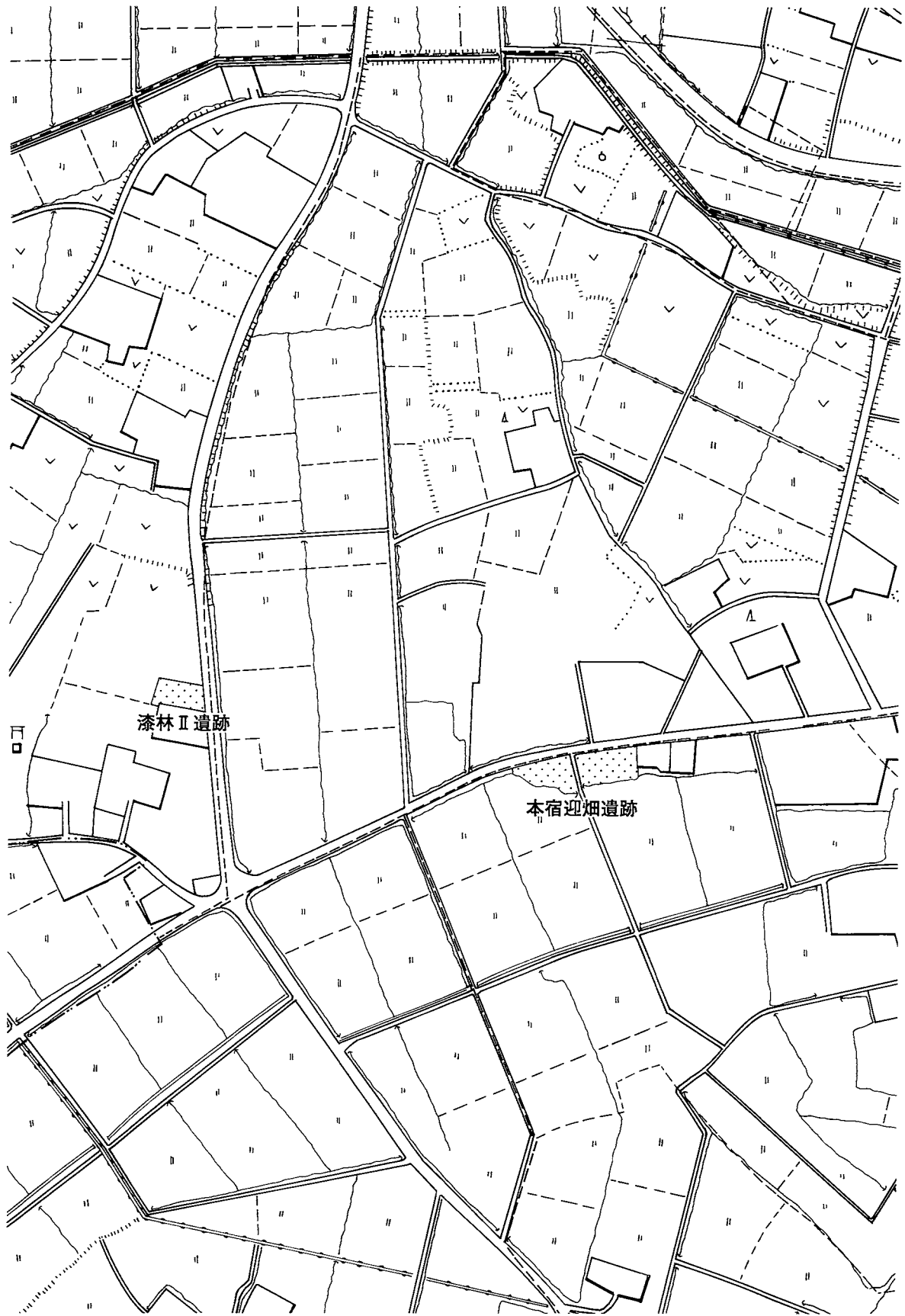
### 〔本宿迎畑遺跡表〕

表1	柱穴群(1)	90	表4	柱穴群表(4)	93
表2	柱穴群(2)	91	表5	遺物観察表	101～103
表3	柱穴群(3)	92			



第1図 岩手県図に見る遺跡の位置図





第2図 遺跡周辺地形図

## I. 調査に至る経過

漆林Ⅱ遺跡・本宿迎畑遺跡は、「ほ場整備事業（担い手育成区画整備型）姉体地区」の施行に伴って、その事業区域に位置することから発掘調査することとなったものである。

当事業は、水沢市姉体地区の受益面積373haの地区で、水田は昭和32年頃10ha区画に整理されたが、区画形状が小さく農道の幅員も狭い状況であった。

また小用水路は、土水路で漏水し、用水不足を補うために小排水路は、用排兼用で浅く、排水不良となって湿田化しているなど、営農の機械化、耕作の汎用化、さらには農地の流動化、生活環境の向上など、高生産性農業を阻害していた。

これらの阻害要因を除去し、効率的で安定的な経営体に農地を集積し、高生産性農業の確立を図り、併せて農村環境水準の向上を資するために、大区画ほ場整備を実施するものとして、平成9年度新規採択された地区で、平成12年度で4年目である。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、水沢地方振興局胆江土地改良事業所から平成9年5月15日付胆土地第146号「県営ほ場整備事業実施に伴う遺跡分布調査について（依頼）」の文章によって、岩手県教育委員会に対して分布調査の依頼をしたのが最初である。

依頼を受けた岩手県教育委員会では、平成9年6月12日・17日・19日調査を実施したが、その結果は、平成9年7月15日付け教文第353号「県営ほ場整備事業実施に伴う遺跡分布調査について（回答）」で水沢地方振興局胆江土地改良事業所へ回答し、その際、工事施行範囲内が漆林Ⅱ遺跡・本宿迎畑遺跡の範囲内であることが付記された。

回答を受けた水沢地方振興局水沢農村整備事務所では、漆林Ⅱ遺跡・本宿迎畑遺跡を含む面工事実施年度である平成11年10月25日付け水農整第530-6号「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」の文章によって、岩手県教育委員会に対して試掘調査を依頼した。

依頼を受けた岩手県教育委員会では、平成11年11月1日・2日・8日に試掘調査を実施したが、その結果は、平成11年12月6日付け教文第892号「ほ場整備事業（担い手育成区画整備型）姉体地区における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」で水沢地方振興局水沢農村整備事務所へ回答し、その際漆林Ⅱ遺跡・本宿迎畑遺跡の発掘調査が必要である旨が付記された。

## II. 遺跡の立地と環境

### 1. 遺跡の位置及び立地

漆林Ⅱ遺跡・本宿迎畑遺跡は、岩手県南部の水沢市に所在し、東日本旅客鉄道株式会社東北本線水沢駅より南東約3.3km、北上川右岸の河岸段丘上標高約32mに立地している。調査前の状況は、水田及び畑である。

本遺跡は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図「水沢」（NJ-54-14-14）の図幅に含まれ、漆林Ⅱ遺跡（北緯39°05′20.858″東経141°10′17.359″）本宿迎畑遺跡（北緯39°05′19.855″東経141°10′27.759″）にある。

## 2. 地理的環境

本遺跡のある水沢市は、岩手県南内陸部のほぼ中央に位置している。県庁所在地の盛岡からは南へ約65kmの距離にある。

水沢市は、北に金ヶ崎町、東に江刺市、南に東山町前沢町、西に胆沢町と境を接している。水沢市のほぼ中央部を北上川が縦断し、市の北部金ヶ崎町とほぼ境界線沿いに胆沢川が東流している。

面積は96.92 km<sup>2</sup>で、人口は60,676人（平成12年11月30日現在）と県内5番目の人口を擁する。地目別面積は、田畑36.6%、宅地12.2%、池沼0.1%、山林原野22.3%、雑種地その他28.8%となっている。

交通に関しては、東北新幹線、東北本線、東北縦貫自動車道、国道4号線が、市内の南北に走っている。東西には、太平洋と日本間を結ぶ国道343号線と国道397号線が走り、さらに水沢市を中心に一般県道が放射状にのびている。

産業は、小売業・飲食店・サービス業等の第3次産業が59.6%と最も高く、建設・製造業等の第2次産業は、30.0%、農林業等の第1次産業は、10.4%の割合になっている。

気候は、東日本型に属し、平均気温（昭和53年～平成9年までの過去20年間の年毎の平均気温の平均値）は、10.6℃と低い。年平均降水量は、（昭和53年～平成9年までの過去20年間の総降水量の平均値）は、1156.5mmである。冬期間の最深積雪は、20～30cm台の年が多く、県内では少ない方である。

## 3. 地形・地質

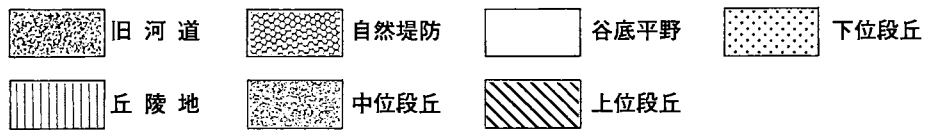
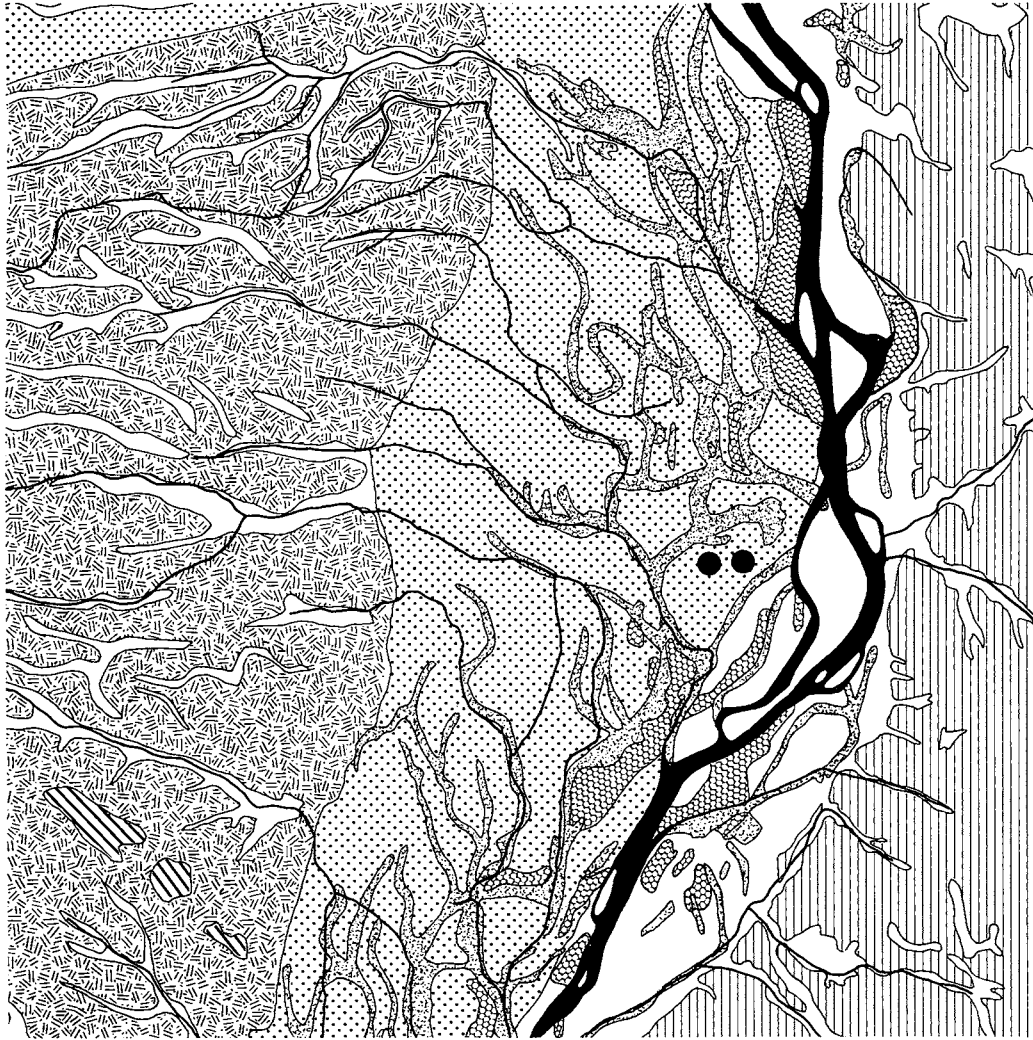
本遺跡のすぐ東側に流れる北上川は、主流部の延長243km、流域面積10,720km<sup>2</sup>、支流数216を有する東北地方最大の河川で、西側に連なる奥羽山脈と東側に広がる北上山地の間の低地帯を流れ、宮城県石巻湾に注いでいる。流域は、盛岡市北部の四十四田溪谷と一関市狐禅寺溪谷を境に上・中・下流に分かれていて、水沢は中流域の下流部に当たる。

また、本遺跡の西側に位置する奥羽山脈は、新第三系および火山岩類を主体とする褶曲山脈で、各支流に多量の土砂を供給し、大小の扇状地が複合する広い平野部を北上川西岸に形成している。これらの扇状地は、更新世中・後期に形成されたものである。

このうち胆沢川扇状地は、胆沢川が形成した高位・中位・低位の3段丘が、南から北へと高度を下げている。南から一坂段丘、胆沢段丘、水沢段丘と呼ばれ、遺跡はこの低位面である水沢段丘上に位置する。

水沢段丘の標高は30～50mで、北に向かって高くなる。扇状地先端部に当たる水沢段丘は扇状地特有の多くの網状河川によって開析されるが、同段丘は、さらに上位面と下位面に2分され、下位面は、いわゆる谷底平野と呼ばれる扇状地最下位の沖積面である。この面は、弥生時代以来の水田耕作地であることが発掘調査によって判明している。

水沢段丘上位面は市内南部のほとんどを占めるが、地形場は網状河川が開析した低地とそれにより形成された微高地とからなり、本遺跡もこの削り残された微高地上にある。



第3図 遺跡周辺地形分類図

#### 4. 基本土層

漆林Ⅱ遺跡と本宿迎畑遺跡の調査区の高差は、約0.5mで、ほとんど変わらない。それぞれの基本土層については、次の通りである。

##### 漆林Ⅱ遺跡

調査区の現況では、東側が西側に対し約50cm低くなっている。

東側の低い水田部分では、以前の土地改良事業によるほ場整備の際に遺構面が削平され、残存状況はよくない。また、西側の高い水田部分では、表土下に認められる遺物を少量含む包含層（暗褐色土）はやや厚く、遺構面も良好に保護されている。調査範囲のほぼ中央に幅3m程度の旧河道と考えられる礫層が確認された。

調査区北西隅（グリットⅠA-1内）に長さ約1m、深さ1mのトレンチを入れて、土層の確認をし、これをもって遺跡の基本層序とした。

## 本宿迎畑遺跡

調査区の現況から、調査区中央30～40cm高く、東西に向かってやや低く傾斜している。遺跡の基本層序は調査区の中央からやや西側にいったグリッド地点IV G地点の基準点付近にトレンチを入れてこれをもって、遺跡の基本層序とした。

(漆林Ⅱ遺跡；基本土層)

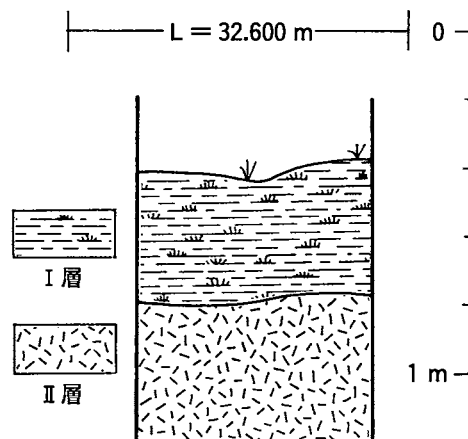
第Ⅰ層：10YR2/3黒褐色土。層厚約25～30cm。

(表土、耕作土)

第Ⅱ層：10YR3/4暗褐色土。層厚約10cm。

(遺物包含層。旧水田耕作土)

第Ⅲ層：10YR4/6褐色土（地山の層）層厚は、不明。



第4図 基本土層柱状図

(本宿迎畑遺跡；基本土層)

第Ⅰ層 10YR3/2黒褐色土粘性小。締まりかなりあり。

層厚 (30～36cm) (耕作土)

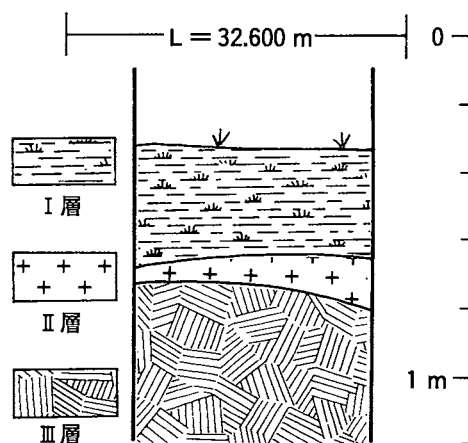
第Ⅱ層 1層 10YR2/3黒褐色土粘性小。締まりかなりあり。層厚 (6～36cm) (旧耕作土)

2層 10YR2/1黒色土。5YR5/6明赤褐色焼土

微量に含む。粘性小。締まりかなりあり。

第Ⅲ層 10YR4/6褐色土。粘性大締まりかなりあり。

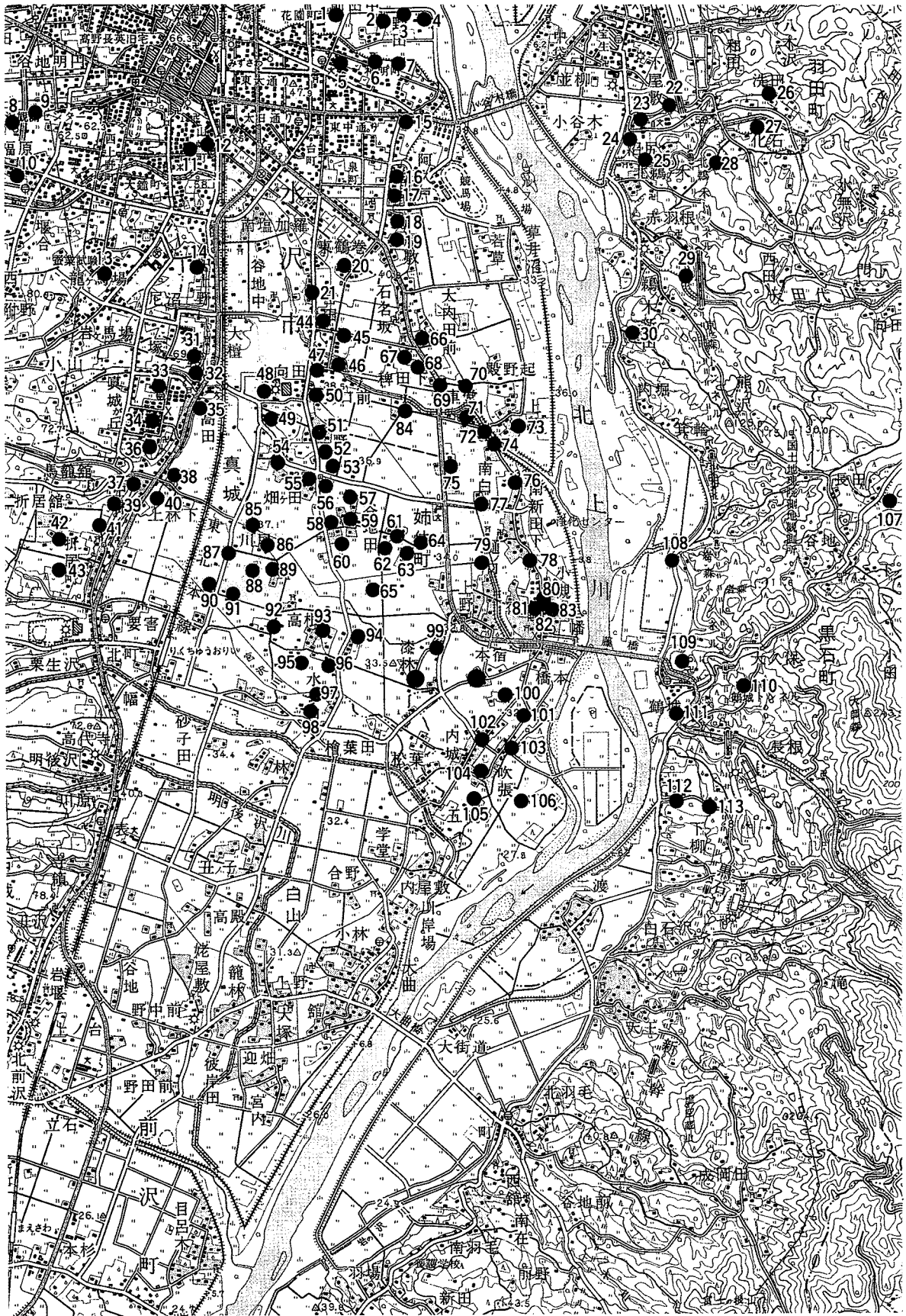
(検出面)



第5図 基本土層柱状図

## 5. 周辺の遺跡

平成11年度の岩手県教育委員会のまとめでは、水沢市内には約300箇所の遺跡が登録されている。そのうち、古代（奈良・平安時代）の遺跡（古代を含む遺跡）は208カ所登録されている。本遺跡も奈良平安時代を中心とする集落跡である。遺跡周辺地図には古代の遺跡の位置をしるし、表に表すことにした。



第6図 遺跡周辺分布図

## 遺跡周辺分布表

No	遺跡名	時代	種別	遺構・遺物等
1	常磐広町	弥生・奈良・平安	集落跡	弥生土器・鐵・アメリカ式管玉
2	野田	縄文・平安	散布地	土師器・石鐵
3	北田Ⅱ	弥生・奈良・平安	散布地	土師器・鉄滓
4	北田Ⅲ	弥生・平安	散布地	弥生土器・内黒土師器
5	常磐小学校	奈良	散布地	土師器・須恵器
6	跡呂井中陣場	奈良・中世	城館跡	土師器・須恵器
7	跡呂井	奈良	集落跡	土師器・須恵器
8	北田	縄文・平安	集落跡	縄文土器・土師器・須恵器
9	高屋敷	平安	集落跡	土師器・須恵器
10	福原	平安	集落跡	土師器・須恵器
11	小山崎	縄文・平安	散布地	縄文土器(中期)・土師器・須恵器
12	梨畑	縄文・平安	散布地	縄文土器(中期)・石器
13	龍ヶ馬場	縄文・平安	散布地	縄文土器・土師器・須恵器
14	須江	平安	集落跡	土師器・須恵器
15	杉の堂	縄文・平安	散布地	縄文土器(後・晩期)・大洲・夾形器・漆・深鉢目
16	沼尻	平安	散布地	土師器
17	大学Ⅰ	縄文・平安	集落跡	土師器・須恵器・フレーク
18	大学Ⅱ	縄文・平安	散布地	土師器・フレーク
19	垣ノ内Ⅱ	縄文・平安	散布地	縄文土器・土師器・フレーク
20	北余目	平安	散布地	土師器
21	林前Ⅰ	平安	集落跡	土師器・須恵器
22	新羽田小西	縄文・平安	散布地	縄文土器・土師器・須恵器
23	旧羽田中	縄文・平安	散布地	縄文土器・土師器・須恵器
24	沼尻南	縄文・平安	散布地	縄文土器・土師器・須恵器
25	北鶴ノ木	縄文・平安	散布地	縄文土器(後・晩期)・石鐵・石斧
26	外浦洗田	平安	窯跡	須恵器
27	外浦前田	縄文・平安	散布地	縄文土器・土師器・須恵器・石鐵
28	化石	縄文・平安	散布地	縄文土器(前・晩期)
29	鶴ノ木新田	縄文・平安	散布地・集落跡	縄文土器(前期)・土師器・須恵器
30	鶴ノ木新田南	縄文・平安	散布地	縄文土器
31	上野	平安	散布地	土師器・須恵器
32	大壇	平安	集落跡	土師器・須恵器
33	雷神Ⅰ	平安	集落跡	土師器・須恵器
34	真城ガ丘団地	平安	集落跡	土師器・須恵器・灰石・炭火木・粟
35	高田	平安	集落跡	土師器・須恵器
36	浜田	縄文・平安	散布地	縄文土器・土師器・須恵器
37	中林A	平安	集落跡	土師器・須恵器
38	上林下	古代	散布地	土師器
39	中林B	平安	集落跡	土師器・須恵器
40	中林下	平安	集落跡	土師器・須恵器
41	中林Ⅲ	平安	散布地	土師器・須恵器
42	堤ヶ沢Ⅱ	平安	集落跡	土師器・須恵器
43	堤ヶ沢Ⅰ	平安	集落跡	土師器・須恵器
44	林前南館	縄文・平安	城館跡	土師器・石器
45	林前Ⅱ	平安	散布地	土師器・須恵器
46	水の口	平安	散布地	須恵器
47	向田	平安	散布地	土師器
48	金田Ⅰ	平安	集落跡	土師器・須恵器
49	北野Ⅲ	平安	集落跡	土師器・須恵器
50	北野Ⅰ	平安	散布地	土師器・須恵器
51	北野Ⅱ	平安	集落跡	土師器・須恵器・陶器
52	畑田荒谷	平安	散布地	土師器・須恵器
53	東谷地	平安	散布地	土師器
54	館	古代・平安・中世	集落跡	土師器・須恵器・陶器
55	中平西	平安	散布地	土師器・須恵器
56	中平	平安	散布地	土師器
57	中平東	平安	散布地	土師器・須恵器

No	遺跡名	時代	種別	遺構・遺物等
58	寺ヶ前Ⅱ	平安	散布地	土師器
59	寺ヶ前Ⅲ	平安	散布地	土師器
60	寺ヶ前Ⅰ	平安	散布地	土師器
61	島田Ⅱ	平安	散布地	土師器・須恵器
62	島田Ⅲ	平安	散布地	土師器
63	島田Ⅳ	平安	散布地	土師器
64	島田Ⅰ	平安	散布地	土師器・須恵器
65	下植田	平安	散布地	須恵器
66	大内田前	平安	散布地	土師器・須恵器
67	小水ノ口	平安	散布地	土師器・須恵器
68	寺西南	平安	散布地	土師器・須恵器
69	姉体車堂Ⅱ	平安	散布地	土師器・須恵器
70	姉体車堂Ⅲ	平安	散布地	土師器・須恵器
71	元天神前Ⅱ	平安	散布地	土師器・須恵器
72	北白山Ⅰ	平安	散布地	土師器・須恵器
73	上鳥	平安	散布地	
74	北白山Ⅱ	平安	散布地	土師器・須恵器
75	根無	平安	散布地・環濠	土師器(平安時代)
76	北白山Ⅲ	平安	散布地	土師器・須恵器
77	沖	平安	散布地	土師器(平安時代)
78	小庄	平安	散布地	土師器
79	原抜	平安	散布地	土師器
80	西館	古代	城館跡	平場
81	道場館	古代	城館跡	平場
82	松川館	古代	城館跡	平場
83	内館(下姉体城)	古代	城館跡	平場
84	水ノ口前東	平安	散布地	土師器
85	真城落合	平安	散布地	土師器
86	土手比	平安	散布地	土師器・須恵器
87	二ノ淵	平安・中世	散布地	土師器・須恵器・陶器
88	二ツ湖北	平安	散布地	須恵器
89	土手南	平安	散布地	土師器・須恵器
90	谷地館	平安	散布地	土師器
91	二ツ湖南	平安	散布地	土師器・須恵器
92	高根Ⅰ	古代	散布地	土師器・須恵器
93	迎野Ⅰ	古代	散布地	土師器・須恵器
94	南下田	平安	散布地	須恵器
95	高根Ⅱ	古代	散布地	土師器・須恵器
96	迎野Ⅱ	古代	散布地	土師器・須恵器
97	堂田Ⅰ	古代	散布地	土師器・須恵器
98	堂田Ⅱ	古代	散布地	土師器・須恵器
99	漆林Ⅰ	縄文・古代	散布地	剥方・土師器
100	迎畑	平安?	散布地・館跡?	須恵器?・(中世陶器?)
101	庚申塚	平安	散布地	土師器
102	内城吹張	縄文~平安?	散布地	縄文土器?・土師器
103	吹張	平安	散布地	土師器
104	吹張鞘戸	平安	散布地	須恵器
105	鞘戸	古代	散布地	土師器
106	小谷下	古代	散布地	土師器
107	長田	平安	祭祀跡	土器・けんま破片
108	岩手堰神社	平安	散布地・集落跡	社祠
109	鶴城館(黒石古墳)	平安・中世	城館跡	土師器・須恵器・石器・平場
110	石橋	平安	集落跡	土師器・須恵器
111	鶴城	縄文・平安	散布地	縄文土器(後・晩期)・須恵器
112	下柳館(下谷木館)	中世	城館跡	土壘・空掘・単郭・平場
113	丹波山	縄文~中世	散布地	縄文土器・土師器・須恵器

### Ⅲ. 調査の方法と室内整理

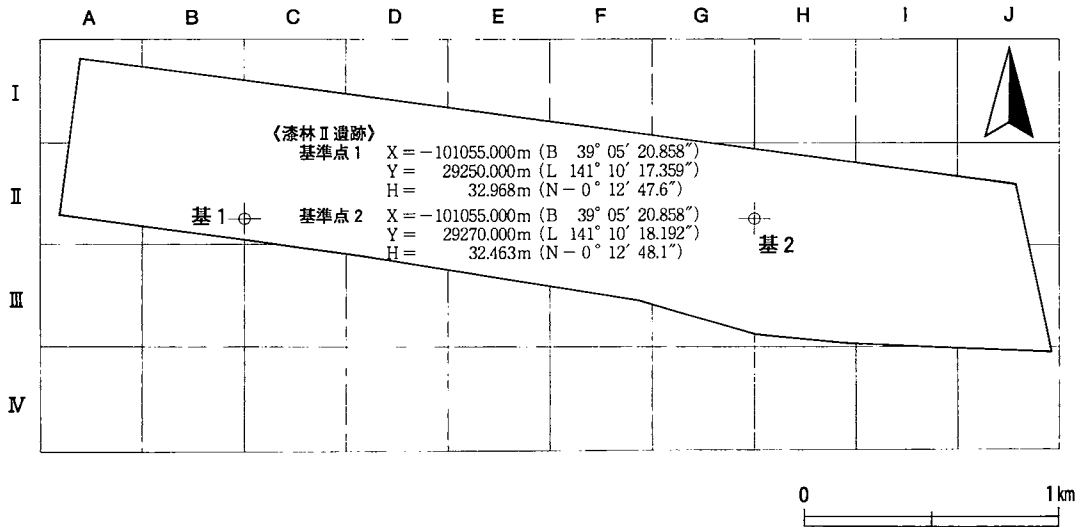
#### 1 野外調査

##### (1) グリッドの設定

グリッドの設定に当たっては、漆林Ⅱ遺跡・本宿迎畑遺跡両遺跡ともに、調査区内に基準点2点を設定し、第X系公共座標軸を利用してグリッドを設定した。

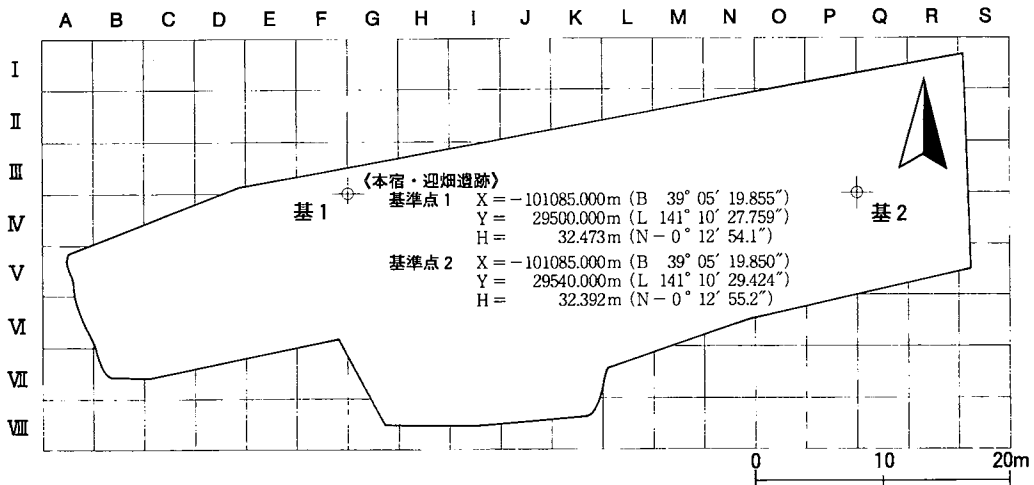
基準点1・2の成果値及び杭高は、以下の通りである。なお、基準点設置については、(株)東開技術に業務委託した。

グリッドは、起点(X=-101048.000m Y=29242.000m)北西角に置き、1辺4m×4mのグリッドを設定し、北から南へⅠ、Ⅱ、Ⅲ・・・とし、西から南へA、B、C・・・と付して、これを組み合わせて、ⅠA、ⅡB、ⅢC・・・というように表示した。



第7図 漆林遺跡グリッド配置図

本宿迎畑遺跡も、漆林Ⅱ遺跡と同様に起点を北西隅に置き、1辺4m×4mのグリッドを設定し、ⅠA、ⅡB、ⅢCというようにグリッドの表記をした。(次の頁図を参照)



第8図 本宿迎畑遺跡グリッド配置図



## (2) 粗掘・遺構検出

調査を開始するにあたり、文化課からの試掘結果と現地確認から、漆林遺跡の西側は遺物包含層はなく、表土及びⅡ層（黒色、黒褐色層）を掘り下げるとすぐ地山（Ⅲ層褐色層）であることをトレンチを入れて確認して地山の層近くまで重機で掘り下げ、その後人力で遺構検出を行うこととした。

## (3) 遺構の命名

検出された遺構の命名については、特に略号は用いず、1号竪穴住居跡、2号溝跡、3号陥し穴等の遺構名を付けている。ただし、表や図版のスペースの関係から、1号竪穴住居跡のことを単に1号住というように書いているところもある。

## (4) 遺構の精査と実測・遺物の取り上げ

原則として竪穴住居跡・竪穴状遺構およびカマドの燃焼部は4分法で、その他の遺構については、2分法で精査を行った。記録として必要な図面及び写真撮影は、精査の各段階において適宜行った。

遺構の平面実測については光波測定器を使い、密集している遺構ではオフセット測量で平面図を作成した。実測図の縮尺は1/20を基本とし、平面図・断面図を作成した。

遺構内出土の遺物は埋土の場合、埋土・床面に分けて取り上げた。遺構外出土遺物については、調査区ごとに出土した層位を記して取り上げた。

## (5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×8 cm判カメラ（モノクロ）、6×7 cm判カメラ（モノクロ）、35mm判カメラ（モノクロとりバーサルフィルム）を使用し、撮影にあたっては、撮影内容を記載した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。また、調査終了間近に航空写真（東邦航空に依頼）の撮影を実施している。

# 2 室内整理

## (1) 作業内容

遺物の処理は、遺物の注記、接合、復元を優先させて行った。次に仕分け・登録、写真撮影・実測・トレース・拓本の作成を平行して進めた。その後、実測図の点検とトレースを行い、図版・写真図版の作成を行った。

## (2) 遺 構

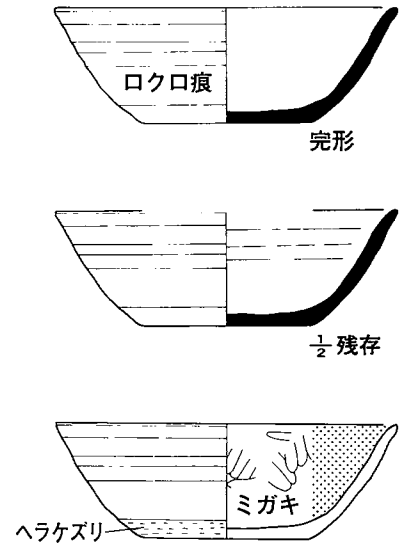
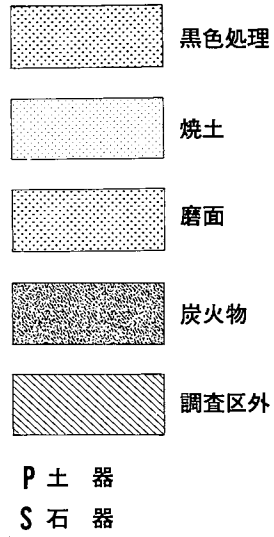
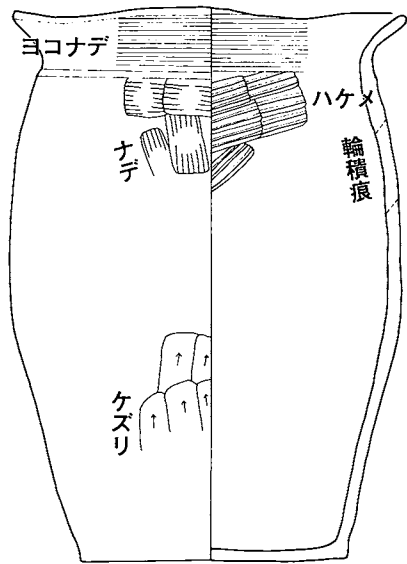
各遺構の図面は、それぞれスケール・縮尺率を付して掲載した。

## (3) 遺 物

土器の実測図は、原則として反転実測が可能なものに限ったが、一部は破片実測して掲載した。掲載遺物の縮尺率は、原則として1/3とした。なおそれぞれの図版にはスケールを付している。遺物写真の縮尺については、原則として1/3で掲載しているが、一部大きな遺物については、1/6で掲載している。

(4) 実測図版中の土器の調整方法については、実測凡例図に記した。

(5) 遺物観察表中の記号や分類については、「本宮熊堂遺跡第4次・鬼柳A遺跡第4時発掘調査報告書」  
「1999 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第308集」を参照し、分類した。



第9図 実測凡例図

# 漆林Ⅱ遺跡発掘調査

## IV. 検出された遺構と遺物

### 1. 概要

漆林Ⅱ遺跡で検出された遺構は竪穴住居遺構2棟、掘立柱建物跡1棟、陥し穴状遺構5基、溝跡1条、焼土遺構1基、土坑類63基である。

### 2. 竪穴住居遺構

登録した竪穴住居跡は奈良・平安時代の住居跡2棟である。1棟は貼り床の下から検出された。1棟はカマドのみの検出である。

#### (1) 1号竪穴住居遺構

遺 構 (第1図・写真図版3)

〈位置重複関係〉 調査区北東隅に位置し、グリッドⅡI～2Jに位置する。表土を除去した面から、1号住居の貼り床面を検出した。北側及び東側は調査区外で、北側は開田時に削平されており、東側も舗装道路になっており、住居の広がりを確認することはできなかった。また、南東隅は攪乱により破壊されている。

〈規模・平面形・方向〉 全体の規模は不明である。南西隅の形から隅丸方形の形をしていると思われる。主軸方向も不明である。

〈埋 土〉 埋土の断面は貼り床として使われており、10YR2/3黒褐色土と10YR4/6の混合土で堅く締まっている。貼り床の断面の下が旧住居跡で、その上に建て替えられた可能性が高い。

〈壁〉 本遺構の各壁高の残存値は西壁17cm、南壁21cmである。床面からの立ち上がりは西壁の傾斜は60度、南壁の傾斜は65度で立ち上がる。

〈床 面〉 第Ⅱ層を掘り下げて貼り床している。

〈柱穴・ピット〉 柱穴は東壁付近にPP1、PP2、南壁付近にPP3、PP4の4カ所で、貼り床の下部で検出した。

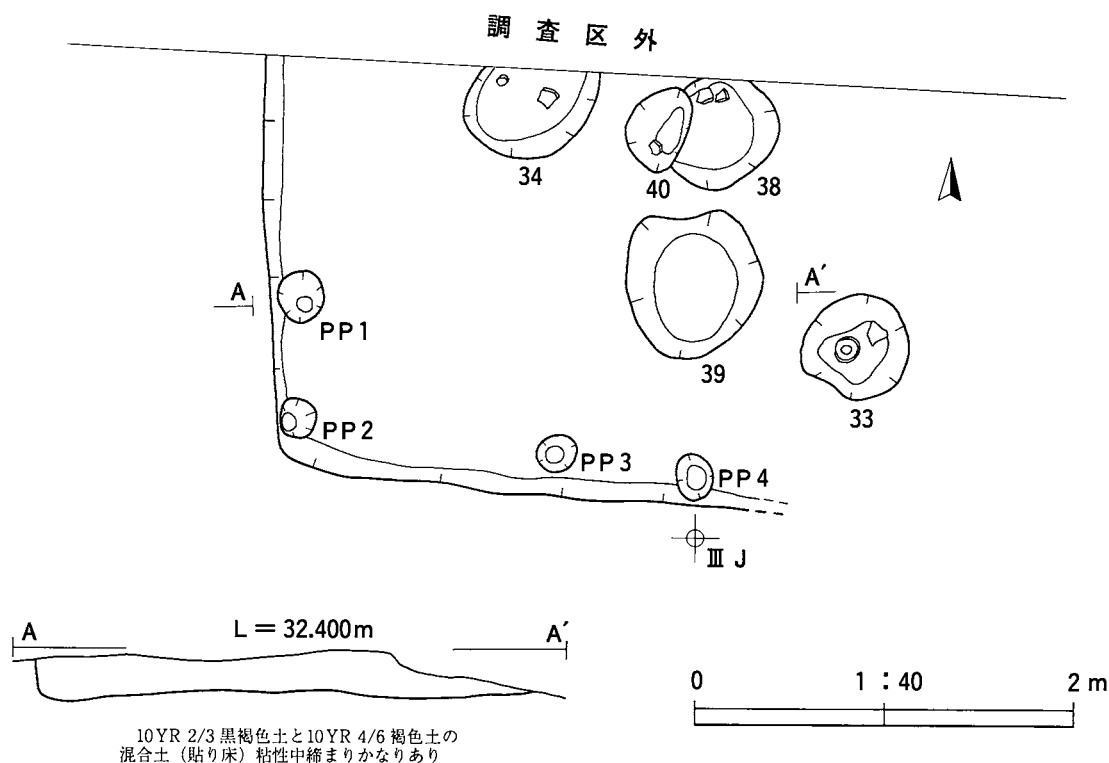
〈カマド〉 カマドの袖や煙道や煙出穴は検出されなかったが、住居西側畦畔近くより焼土を検出している。焼土内からは土師器片も出土している。

〈付属施設〉 張り出し部、出入り口のような施設は確認されなかった。

遺 物 (第12図・写真図版11)

1はほぼ完形の土師器の坏で、胴部外面中央に段があり、底部は丸底で下部にヘラ削りで調整している。内面は部分的にみがきの後黒色処理が施されている。器高(3.5cm)口径(11.3cm)と比較的小型の坏である。2は須恵器の坏の底部から胴部にかけての破片である。ロクロ成形で、底部にはヘラで切り離れた痕がある。3は土師器の甕の底部から胴部下半にかけての破片である。4は須恵器の底部から胴部下半にかけての破片である。破片の一部に墨書「写」がある。底部は回転糸切り痕がある。5・6は、土師器の甕?の底部破片。7は須恵器の底部破片で、削り調整痕がみられる。8は須恵器の蓋の破片で、外面の中央よりヘラで削り、調整している。9は小型の鉢の底部で、非ロクロ成形で、底部は削り調整が見られ、胴部下半にも削り調整がみられる。10は須恵器の甕の胴部破片で、平行タタキ目が施されている。11は須恵器の坏の口縁部破片。12は須恵器の壺の胴部破片で、灰袖(自然袖)がみられる。13は土師器の口縁部破片。14・15は土師器の口縁部破片で、内黒処理が施されている。16は土師器の甕の口縁部破片で、直線的に外傾しており、口唇部に浅い段がみられる。

時 期 出土した土師器・須恵器の年代から平安時代と思われる。



第1図 1号竖穴住居跡

## (2) 2号竖穴住居遺構

遺 構（第2図・写真図版11）

〈位置・重複関係〉 調査区南東端から約12mのⅢG区の南東端に位置し、2号陥し穴に近接する。南側は調査区外で畦畔になっており、カマドの精査のみで住居の広がり进行调查することはできなかった。

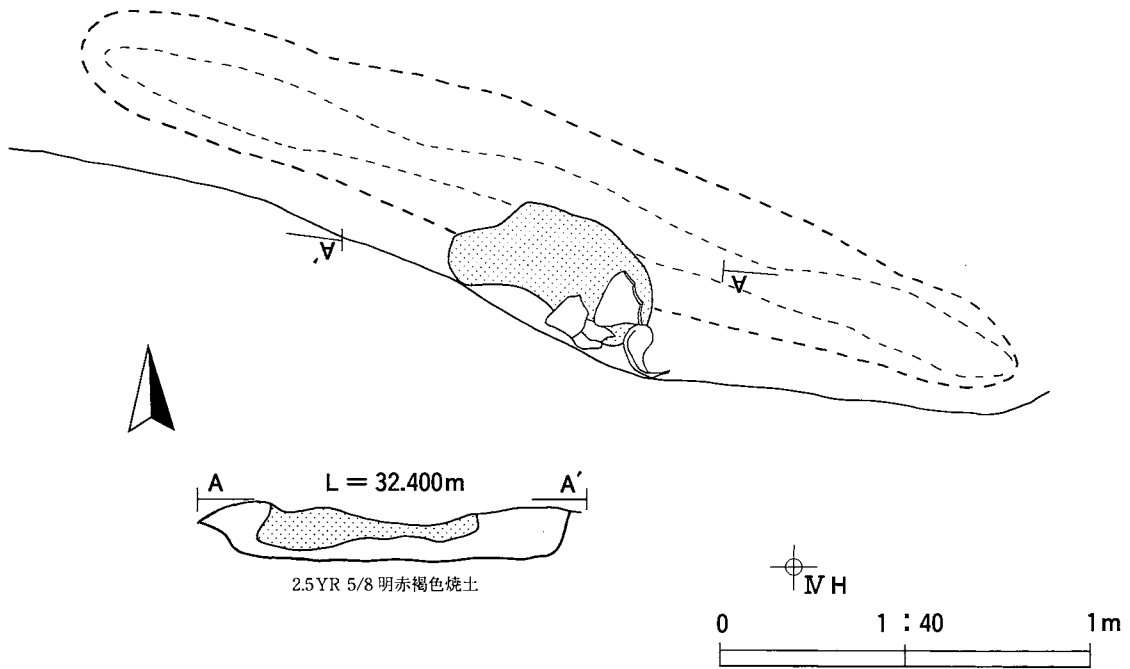
〈カマド〉 カマドは袖とそれに伴う土器、焼土を検出するのみであった。燃焼部の焼土は60×22cmほどの範囲で、深さは約15cmに広がる様相を示すことから、カマド燃焼部の規模もそれに近いものと推定される。また、カマドの袖は幅約20cm、高さ15cmで、地山ブロック主体の土で構成されている。奥行きは調査区外に延びており、確認することはできなかった。

遺 物（第12図・写真図版12）

2号陥し穴近くの南側畦畔にへばりつくように、2号陥し穴の検出面より5～10cm高い位置で、焼土を囲むように土師器の甕の土器片が出土した。

17は土師器の甕か甕である。底部はない。口唇部に段を有し、直線的に外傾する。胴部中央付近に最大径をもち、胴部外面にヘラケズリ・ハケメ調整が施されている。口縁部にはヨコナデ、内面にはハケメの調整が施されている。18は土師器の甕の口縁部から胴部上部の破片である。口縁部は直線的に外傾し、外面は横ナデ調整をしている。また、胴部はハケメ調整が施されている。19も土師器の甕の口縁部から胴部上部の破片である。20は、甕?の底部で、木葉痕がみられる。内外面ともにハケメ調整をしている。

時 期 以上の出土した土師器の甕から、奈良時代のものと思われる。



第2図 2号竪穴住居跡

### 3. 焼土遺構

遺構（第3図・遺構写真図版4）

〈位置・重複関係〉 調査区ⅡC区の南側に位置する。黒褐色土と褐色土の混合土中から、暗赤褐色の広がりとして検出した。南側は若干欠損を受けている。

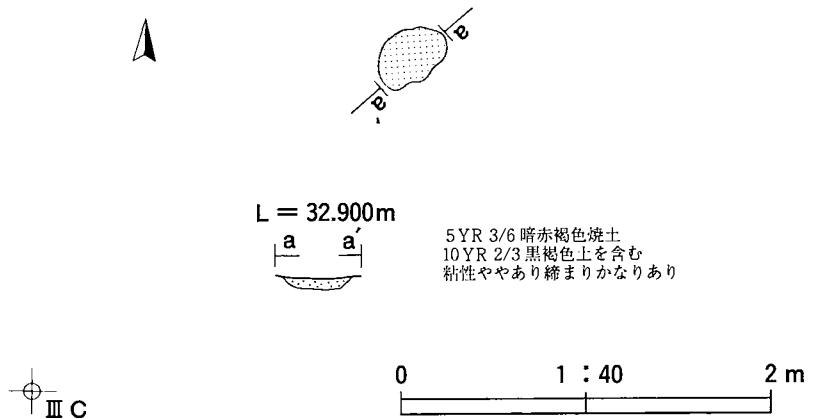
〈形状・開口部規模・深さ〉 形状は楕円形に近い不整形をしている。規模は40cm×30cmで、深さは、約6cmほどである。

〈埋土〉 黒褐色と褐色土の混合土を底面に、もや状に暗褐色の焼土が形成されている。

〈壁・底面〉 壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ水平である。

遺物・時期

〈出土遺物〉 出土していない。不明である。



第3図 焼土遺構

#### 4. 掘立柱建物跡

調査区に西側で1棟検出された。

##### 遺 構 (第4図・写真図版5・6)

〈位置・重複関係〉 調査区西側のⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB区に位置している。

〈規模・方向〉 調査終了時に西側盛土の一部を除去し、掘立柱の有無を確認したところ検出されなかった。したがって、調査区南北に延びている可能性もあり、全体的規模は把握できない。調査区内での規模は桁行2間で1.9m、梁行1間で2.3mで、棟方向は東西に対し約20度北に偏した東西棟である。

〈身舎・庇〉 庇の柱穴は検出されなかった。身舎の桁行柱間寸法は南西側のA3から1.90m+1.90m。北西側のB3から1.96m+1.90mである。また、身舎の桁行柱間寸法はA3～B3間2.92m、A1～B1間は2.98mである。

〈掘り方・柱穴〉 掘り方の規模は径55～70cm、深さ44～60cmを計り、平面形はB1の楕円形以外はすべて円形を基調とする。柱痕はB3の断面に表れており、柱の径はおよそ20cm前後である。

縦 穴No	A 1	A 2	A 3	B 1	B 2	B 3
直 径cm	70×70	74×65	60×55	70×64	65×62	60×60
深 さcm	5 1	5 1	3 7	6 0	4 4	4 4

〈埋 土〉 ほとんどが褐色土（地山）を含む黒褐色土で構成されて人為的に埋めたものと思われる。

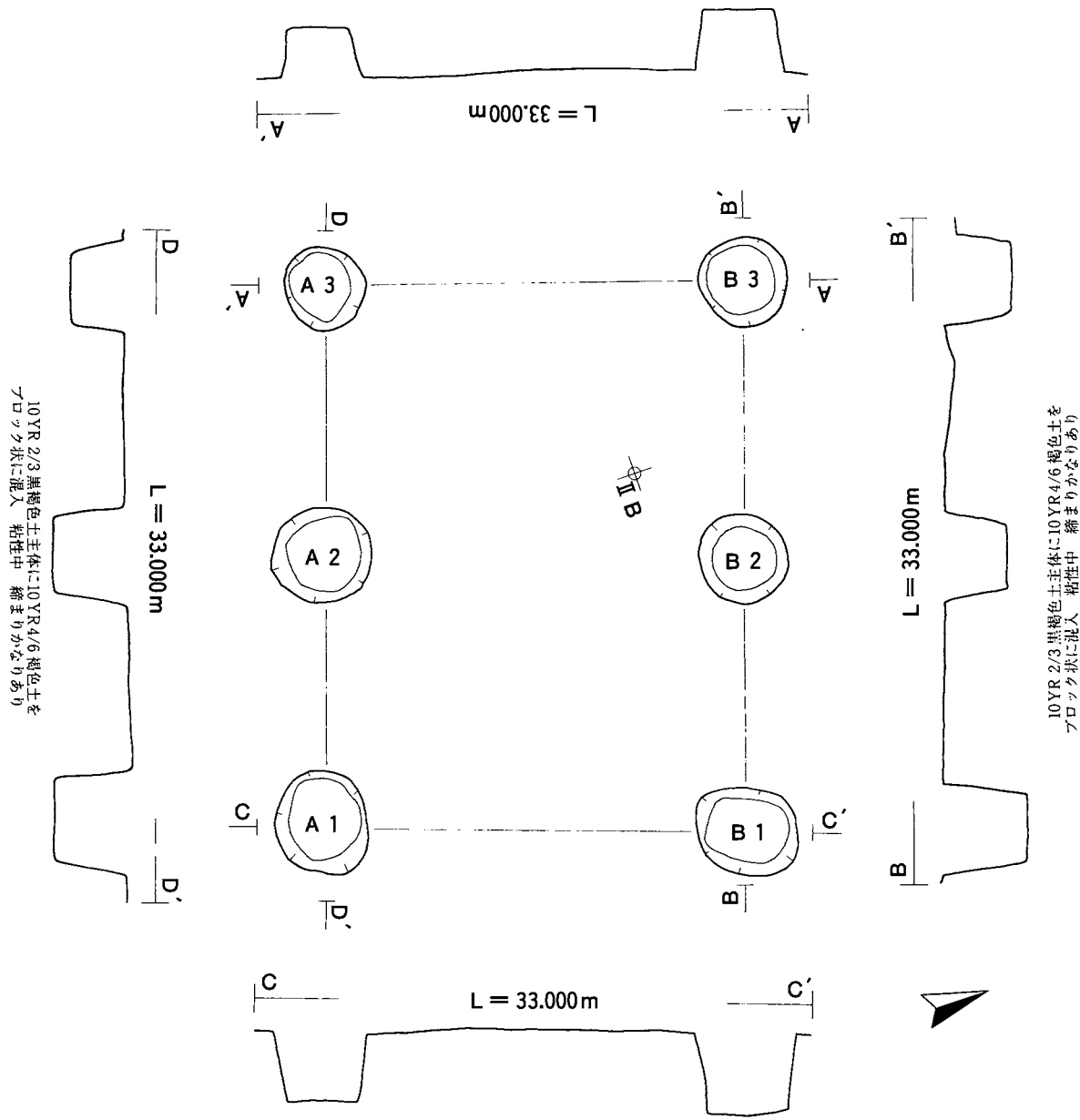
##### 遺 物

遺物は出土していない。

##### 時 期

時期を決定する遺物は出土していないが、周辺の遺構の関係から平安時代以降のものとして推測される。

- 1 10YR 2/3 黒褐色土主体に10YR 4/6 褐色土を10%含む 粘性中 締まりかなりあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色土と10YR 4/6 褐色土の混合土 粘性中 締まりかなりあり

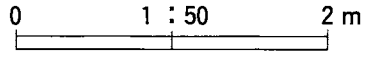


10YR 2/3 黒褐色土主体に10YR 4/6 褐色土を  
ブロック状に混入 粘性中 締まりかなりあり

10YR 2/3 黒褐色土主体に10YR 4/6 褐色土を  
ブロック状に混入 粘性中 締まりかなりあり

- 1 10YR 2/3 黒褐色土主体に10YR 4/6 褐色土7%含む 粘性ややあり 締まりかなりあり
- 2 10YR 4/6 褐色土 粘性中 締まりかなりあり

10YR 2/3 黒褐色土主体に10YR 4/6 褐色土を  
ブロック状に混入 粘性中 締まりかなりあり



第4図 掘立柱建物跡



## 5. 土 坑

開口部が60cm以上で、土坑の形状をしているか、遺物が出土しているか、もしくは掘立柱にはならないものを基準に土坑として8基登録した。

### (1) 1号土坑

遺 構 (第5図・写真図版7)

〈位置・重複関係〉 調査区ⅡD区に位置し、1号陥し穴と1号溝と重複している。1号陥し穴は1号土坑を切っており、この土坑は1号陥し穴よりも古く、縄文時代のもと思われる。

〈規模・平面形・深さ〉 長軸140cm・短軸130cmで、ほぼ円形を呈し、深さは15cmである。

〈埋 土〉 黒褐色土で、壁ぎわに地山のブロックが落ちた部分があり、自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は南西に向かい若干傾斜している。

遺 物

〈出土状況〉 出土していない。

時 期

1号陥し穴との切り合い関係から縄文時代のもと思われる。

### (2) 2号土坑

遺 構 (第5図・遺構写真図版7)

〈位置・重複関係〉 調査区ⅢI区に位置する。

〈規模・平面形・深さ〉 長軸76cm・短軸50cmで、楕円形を呈する。深さは、10cmである。

〈埋 土〉 単層で、黒褐色土に地山のブロック(褐色土)が混じる。

〈壁・底面〉 壁は外形ぎみに立ち上がる。底面はほぼ水平である。

遺 物

〈出土状況〉 出土していない。

時 期

不明である。

### (3) 3号土坑

遺 構 (第5図・遺構写真図版7)

〈位置・重複関係〉 調査区ⅡC区に位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・深さ〉 長軸82cm・短軸58cmで、楕円形を呈する。深さは約10cmである。

〈埋 土〉 黒褐色土で、礫を含む。

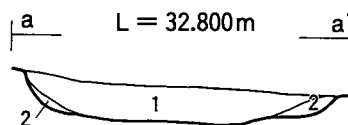
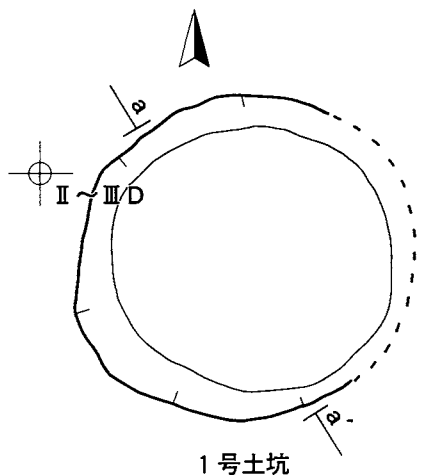
〈壁・底面〉 壁は外形ぎみに立ち上がる。底面はほぼ水平である。

遺 物

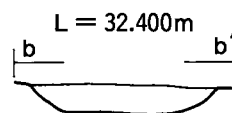
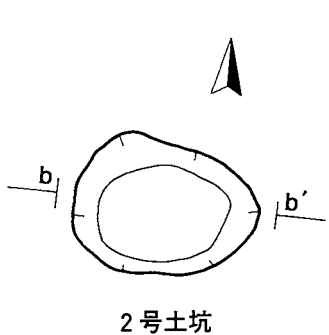
〈出土状況〉 出土していない。

時 期

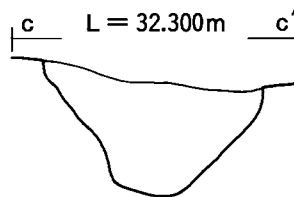
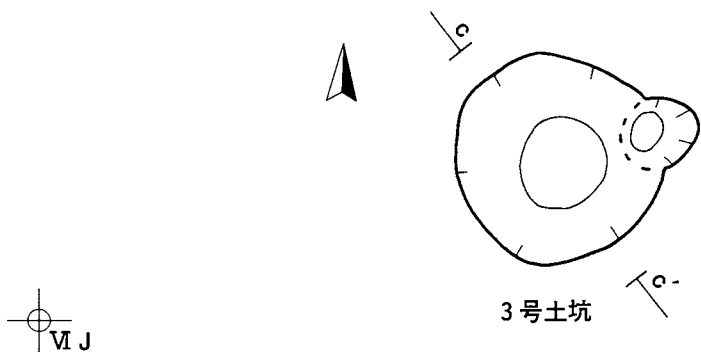
不明である。



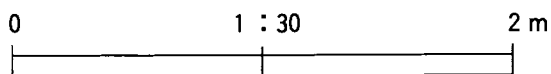
- 1 10 Y R 2/3 黒褐色土 粘性中 締まりかなりあり
- 2 10 Y R 2/3 黒褐色土 粘性中 締まりあり
- 10 Y R 4/6 褐色土ブロック状に混入



- 10 Y R 2/3 黒褐色土主体に 10 Y R 4/6 褐色土を含む
- 粘性中 締まりかなりあり



- 10 Y R 2/3 黒褐色土 粘性中 締まりかなりあり



第5図 1号・2号・3号土坑

#### (4) 4号土坑

##### 遺 構 (第6図)

〈位置重複関係〉 調査区ⅡAに位置する。

〈規模・平面形・深さ〉 長軸100cm・短軸80cmで、不整な楕円形を呈する。深さは32cmで、外形ぎみに立ち上がる。底面はほぼ水平である。

〈埋 土〉 黒褐色土に地山(褐色土)ブロックが混入している。

〈壁・底面〉 バケツ状に外傾する。

##### 遺 物

〈出土遺物〉 出土していない。

##### 時 期

時期は不明である。

#### (5) 5号土坑

##### 遺 構 (第6図・写真図版7)

〈位置・重複関係〉 調査区ⅡBに位置する。

〈規模・平面形・深さ〉 長軸84cm・短軸50cmで、不整な楕円形を呈する。底面の形状から重複している可能性が高い。深さは48cm・44cmで、2つの底部を持つ。

〈埋 土〉 黒褐色土に地山(褐色土)ブロックが混入している。

〈壁・底面〉 壁は外傾し、底面は左右に深く掘りこんでいる。

##### 遺 物

〈出土遺物〉 出土していない。

##### 時 期

時期は不明である。

#### (6) 6号土坑

##### 遺 構 (第6図・写真図版8)

〈位置・重複関係〉 調査区ⅡFに位置する。

〈規模・平面形・深さ〉 長軸104cm・短軸54cmで、楕円形を呈する。深さは、およそ12cmである。

〈埋 土〉 黒褐色の単層である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がる。底面は若干凹凸がみられる。

##### 遺 物

〈出土遺物〉 出土していない。

##### 時 期

時期は不明である。

#### (7) 7号土坑

##### 遺 構 (第7図・写真図版8)

〈位置・重複関係〉 調査区ⅣJ区に位置し、小ピットと重複している。小ピットの方が新しい。

〈規模・平面形・深さ〉 直径約80cmの円形を呈する。深さは46cmである。

〈埋 土〉 黒褐色土に地山(褐色土)ブロックが混入する1層である。

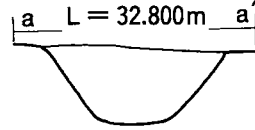
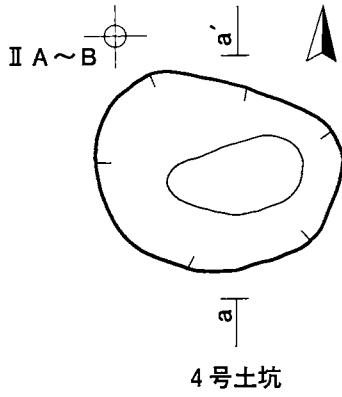
〈壁・底面〉 壁はゆるく外傾している。

##### 遺 物 (第13図・写真図版13)

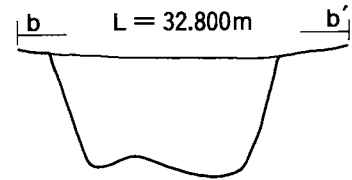
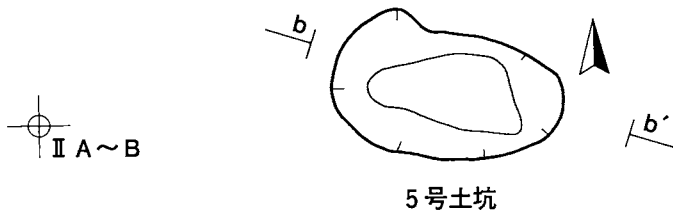
31は土師器の甕の口縁部から胴部にかけてのもので、外面にはケズリ調整が施されており、内面はヘラナデが胴部上面と底部近くにみられる。

時期

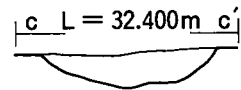
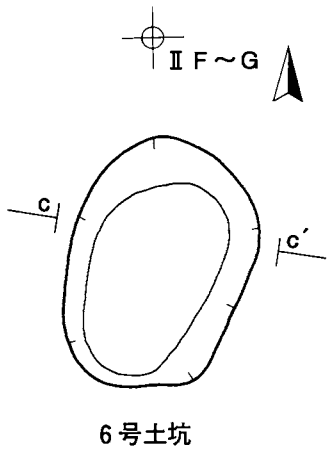
時期は平安時代のものと思われる。



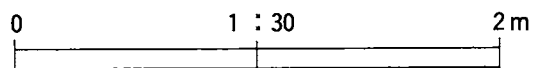
10YR 2/3 黒褐色土と 10YR 4/6 褐色土の混合土  
粘性中 縮まりかなりあり



10YR 2/3 黒褐色土と 10YR 4/6 褐色土の混合土  
粘性中 縮まりかなりあり



10YR 2/2 黒色土 粘性中  
縮まりかなりあり



第6図 4号・5号・6号土坑

## (8) 8号土坑

### 遺構 (第7図・写真図版8)

〈位置・重複関係〉 調査区ⅡB区に位置し、南側は調査区外で畦畔に接する。

〈規模・平面形・深さ〉 長軸98cm・短軸40cmで、不整な楕円形を呈する。深さは約40cmである。真ん中が深く掘られており、重複している可能性もある。

〈埋土〉 黒褐色土に地山(褐色土)ブロックが混入している。

〈壁・底面〉 壁は垂直に近く立ち上がって入る。特に真ん中は深く掘り込まれている。

### 遺物

出土していない。

### 時期

時期は不明である。

## (9) 9号土坑

### 遺構 (第7図・写真図版8)

〈位置・重複関係〉 調査区ⅡC区に位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・深さ〉 長軸80cm・短軸60cmで、楕円形を呈する。深さは約12cmである。

〈埋土〉 黒褐色土に地山(褐色土)ブロックが混入する層である。

〈壁・底面〉 壁は外傾ぎみにゆるく立ち上がる。

### 遺物

21は土師器の高台付き坏である。ロクロ成形で台だけ後から付けたものである。全体にナデ調整を施してある。直線的に外傾し、口唇部でやや外湾している。口径は15.9cm、底径7.8cm、器高5.4cmである。22も土師器の高台付き坏である。これも台だけ後から付けたものである。体部にややふくらみを持ちながら外傾している。23は土師器の坏である。底部は1~2mmの高さを持ち、回転糸切り無調整である。口径(15.0cm)、底径(5.0cm)、器高(4.4cm)である。25は磨り石である。26・27は砥石である。

### 時期

時期は平安時代のものと思われる。

## 5. 溝状遺構

### 遺構 (第7図・写真図版9)

〈位置・重複関係〉 調査区ⅡD~ⅢDに位置する。1号土坑・1号陥し穴と重複し、1号溝跡は1号土坑を切っており、1号陥し穴が1号土坑・1号溝を切っている状態である。したがって、陥し穴より古く1号土坑より新しいことが分かるが、1号陥し穴より北側が削平されて検出できなかったため、はっきりと1号陥し穴より古いということも言えない。

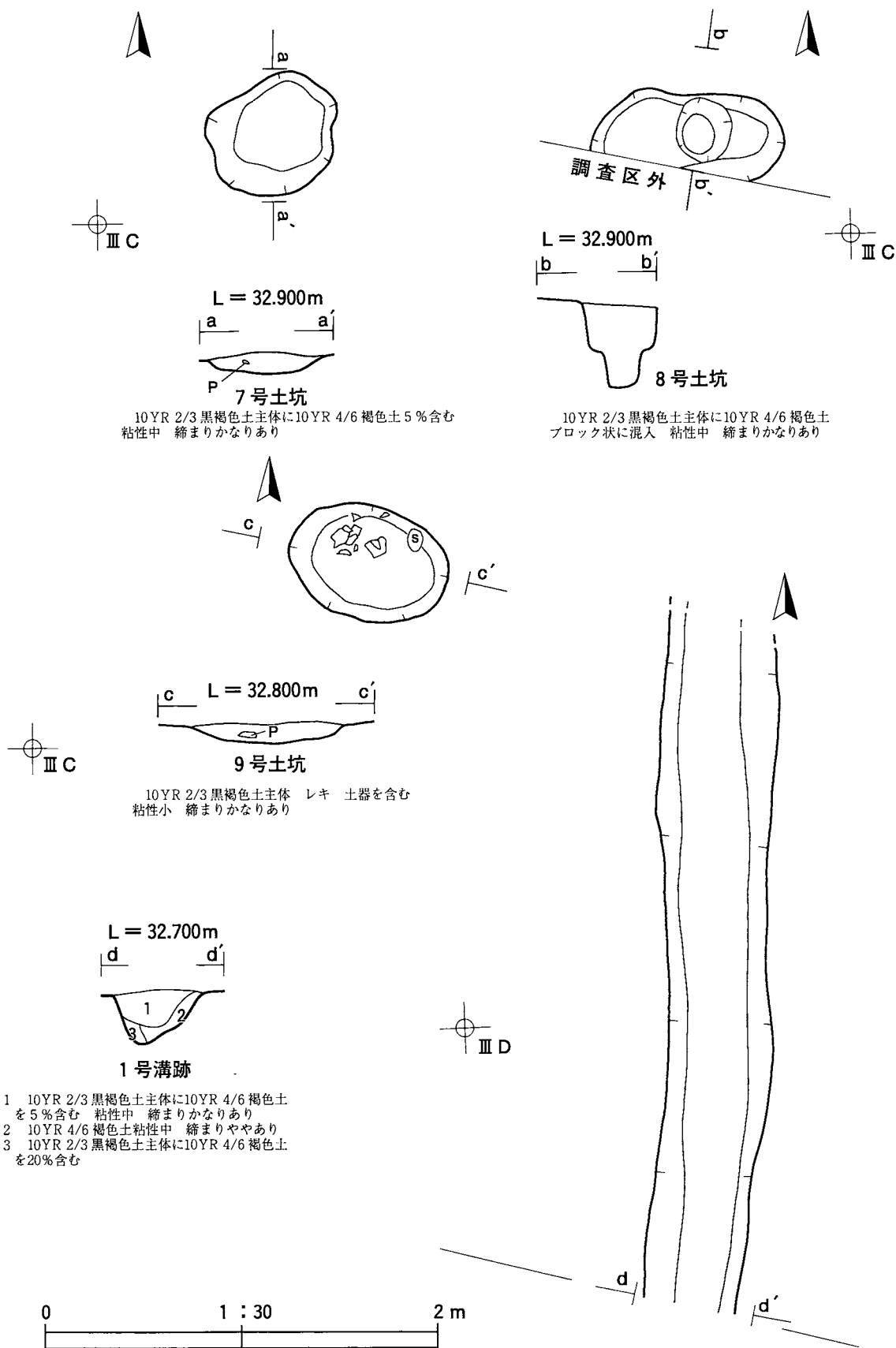
〈規模・深さ〉 上端幅は50~58cm、下端幅は23~34cmで、深さは11~25cmである。

〈埋土・検出状況〉 埋土は3層に分かれ、いずれも黒褐色土に地山ブロックが混入しており、層の状況から、人為的に埋められたものと思われる。

### 遺物

出土していない。

時期 不明である。



第7図 7号・8号・9号土坑・1号溝

## 7. 陥し穴状遺構

### (1) 1号陥し穴状遺構

遺 構 (第8図・写真図版9)

〈位置・重複関係・方向〉 調査範囲の中央ⅡD区に位置する。1号土坑・1号溝と重複し、本遺構の方が新しい。長軸の方向は東西方向より20度北を向いている。

〈規模・平面形・深さ〉 検出面の長軸は全長約3.62m、底面は約3.50mの規模がある。検出面の幅は約26～40cmで、底面の幅は約10～18cmである。平面形は溝状で、深さは深い場所で55cm、浅い場所で約21cmで遺構の西側が深く、東側が浅くなっている。底面に副穴はない。

〈断面形・埋土〉 断面形は底面より検出面が幅広くなるY字形である。黒色シルト質土で、底面付近は黒褐色シルト質土である。自然堆積による埋没と考えられる。

埋土中の黒色シルト質土からは33の甕破片が出土している。

遺 物 (写真図版14)

〈出土遺物〉 33は陶器の甕の破片で、胴部に流しがけがみられる。時代は江戸～近世のものと思われる。流れ込みによるものと思われる。

時 期

時期の特定はできないが、形状から縄文時代の遺構と考えられる。

### (2) 2号陥し穴状遺構

遺 構 (第8図・写真図版9)

〈位置・重複関係・方向〉 調査範囲の南西側ⅢG～ⅢH区内に位置する。南側は畦畔で本遺構のすぐわきから、2号住居のカマドが検出されている。また、並列するように5号陥し穴が検出されている。

〈規模・平面形・深さ〉 検出面の長軸は全長約2.80m、底面は東側に約20cm壁を突き抜けて掘りこんでいる。平面形は溝状である。深さは約33～51cmと中央がやや深く掘りこんでいる。

〈断面形・埋土〉 2層で、黒色シルト質層と地山のブロックが混入する層である。

遺 物

〈出土遺物〉 出土していない。

時 期

時期の特定はできないが、埋土や形状から縄文時代の遺構と考えられる。

### (3) 3号陥し穴状遺構

遺 構 (第8図・写真図版10)

〈位置・重複関係・深さ〉 検出面の長軸は全長約調査範囲の南東側ⅢH区、ⅢI区にまたがり位置する。遺構の南端が調査範囲外に延びている。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・深さ〉 検出面の長軸は全長約2.20mで、底面の長軸は約1.80mで途中で切れている。平面形は溝状を呈する。畦畔付近で副穴が存在する。副穴の規模は約25～30cmの円形で、深さは20cm前後である。

〈断面形・埋土〉 長軸の断面形はフラスコ形に近く、短軸はV字形に近い形をしている。埋土は2層に分かれ、黒色土の下に地山のブロックが混入した層があり、レンズ状に堆積していることから自然堆積による埋没と考えられる。

## 遺物

〈出土遺物〉 出土していない。

## 時期

時期の特定はできないが、埋土や形状から縄文時代の遺構と考えれる。

### (4) 4号陥し穴状遺構

#### 遺構 (第8図・写真図版10)

〈位置・重複関係〉 調査範囲の南東側3J区3I区にまたがって位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・深さ〉 検出面の長軸は全長2.20m。底面の長軸は2.10mである。平面形は溝状を呈する。深さは30～40cmであるが、底面は平坦に近い。底面に副穴はない。

〈断面形・埋土〉 長軸の断面形は逆台形に近い。短軸の断面形は先の丸いV字形をしている。埋土は単層で地山ブロック、焼土が混じる。人的堆積と思われる。

#### 遺物 (第14図・写真図版14)

〈出土遺物〉 埋土上面より32が出土。須恵器の坏で、回転ヘラ切りの無調整である。胴部に火だすきの痕がある。

## 時期

時期の特定はできないが、埋土の状況や形状から縄文時代の遺構と考えられる。

### (5) 5号陥し穴状遺構

#### 遺構 (第8図・写真図版10)

〈位置・重複関係〉 調査範囲の南東側のⅢG区に位置する。40cm南に平行して2号陥し穴が検出されている。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・深さ〉 検出面の長軸は全長約376cmで、底面の長軸は約366cmである。平面形は溝状を呈する。深さは44～51cmで、東端がやや深くなっている。

〈断面形・埋土〉 長軸の断面形は箱型に近く、短軸の断面形は先が丸いV字状を呈している。埋土は2層に分かれ、黒色シルト質土の層の下に地山のブロックが混入している。レンズ状に堆積しているので、自然堆積による埋没と考えられる。

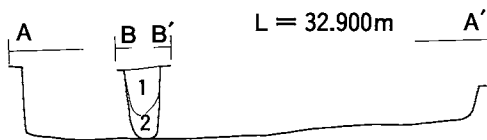
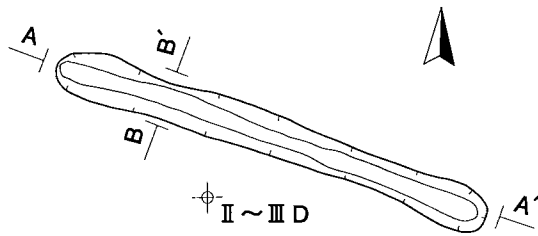
## 遺物

〈出土遺物〉 出土していない。

## 時期

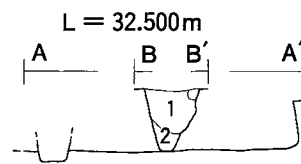
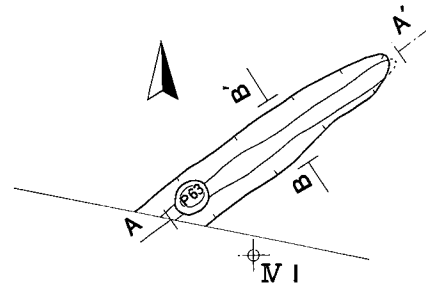
時期の特定はできないが、埋土や形状から縄文時代の遺構と考えられる。





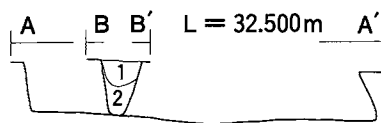
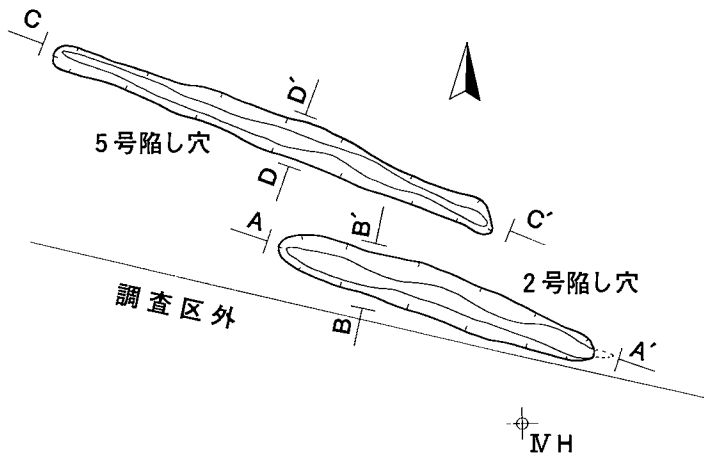
1号陥し穴

- 1 10YR 2/1 黒色土 粘性中 締まりかなりあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色土 粘性中 締まりかなりあり



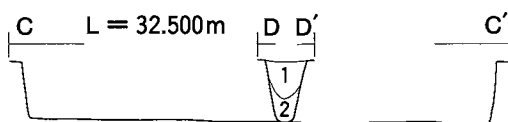
3号陥し穴

- 1 10YR 2/1 黒色土 粘性中 締まりかなりあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色土 粘性中 締まりかなりあり



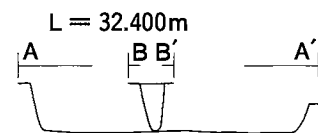
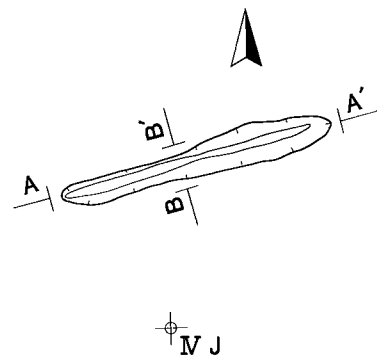
2号陥し穴

- 1 10YR 2/1 黒色土 粘性中 締まりかなりあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色土 粘性中 締まりかなりあり



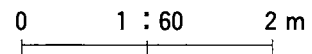
5号陥し穴

- 1 10YR 1.7/1 黒色土 粘性中 締まりかなりあり
- 2 10YR 2/3 褐色土 粘性中 締まりかなりあり



4号陥し穴

- 1 10YR 2/2 黒褐色土主体に焼土0.5%
- 2 10YR 4/6 褐色土50%含む 粘性中 締まりかなりあり



第8図 1~5号陥し穴状遺構

## 8. その他の遺構

その他の遺構として登録したのは柱穴群である。柱穴群として登録したものは、掘立て柱建物跡とするには規則的な配列を示さないもので、土坑にも登録しない柱穴状小土坑を柱穴群とした。

### 東側調査区柱穴群

#### 遺 構 (第9図)

〈位置・重複関係〉 調査区東側ⅡH区からⅡJ区、ⅢH区からⅢJ区内に位置する。

〈形 態〉 12基の柱穴状ピットが分布する。規則的な配置をなすものはなかった。

〈埋 土〉 ほとんどが黒褐色土に地山(褐色シルト質土)のブロックが混入する層で構成されている。

#### 遺 物

P22では、土師器の甕の口縁部破片が2点出土している。

#### 時 期

時期は不明である。

### 西側調査区柱穴群

#### 遺 構 (第10図)

〈位 置〉 調査区西側ⅠA～ⅠC区、ⅡA～ⅡC区内に位置する。

〈形 態〉 柱穴群の範囲内に掘立柱建物跡があるが、それとも属さず不規則な配置をしている。

〈埋 土〉 ほとんどが黒褐色土に地山(褐色シルト質土)のブロックが混入する層である。

#### 遺 物

P41では、土師器甕の口縁部～底部にかけての破片が出土している。

#### 時 期

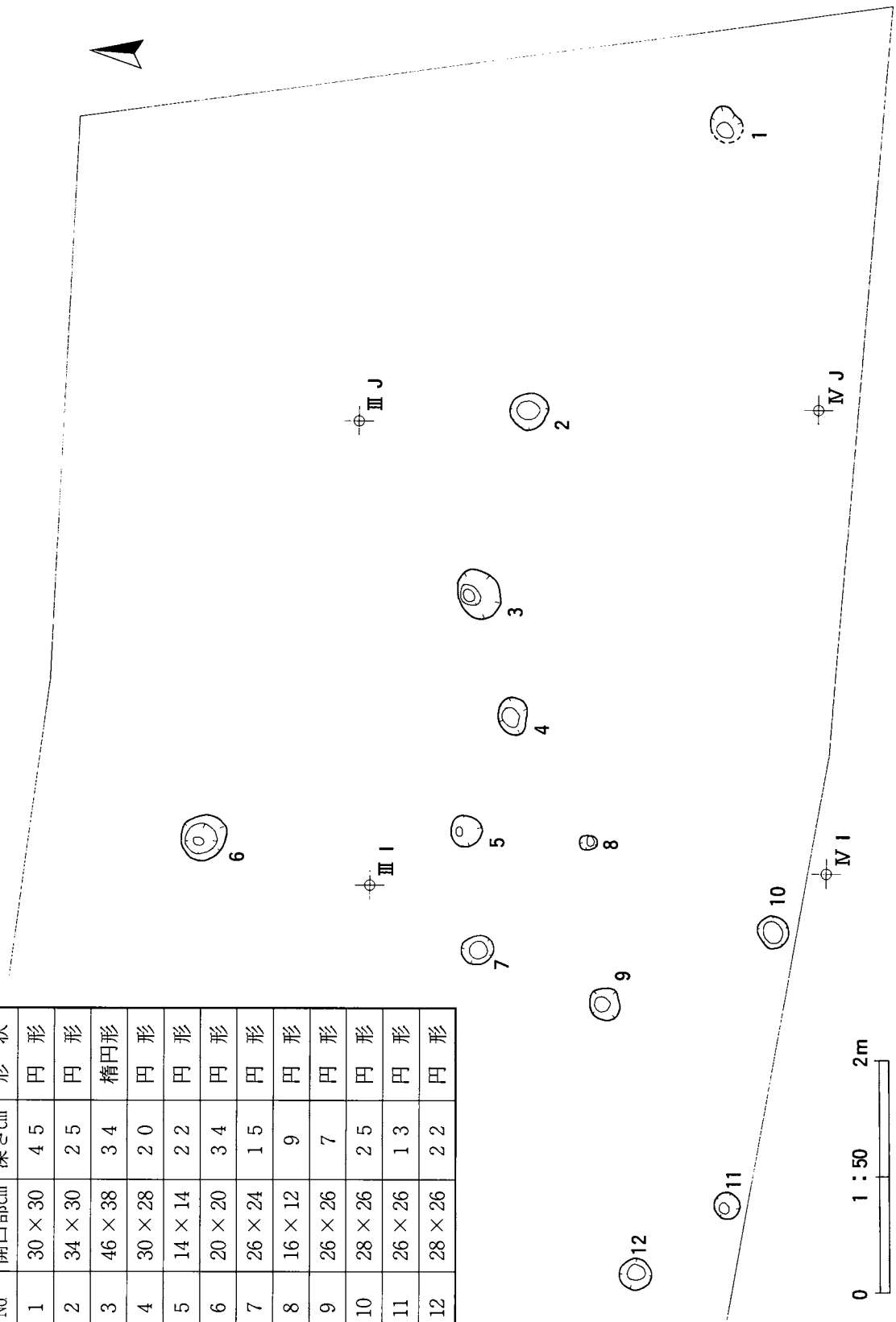
時期は不明である。

## 9. 遺構外遺物

遺構外出土遺物の内、土器9点、磨石が1点、剥片石器1点を登録した。

34は口縁部から底部にかけての坏の破片で、回転ヘラ切りの無調整のもので、9世紀初頭のものと思われる。35は胴部から底部にかけてのロクロ成形、酸化焼成の坏でいわゆる赤やきの土器である。37は近世のすり鉢の底部の破片である。38も近世のすり鉢の胴部破片。41も近世のすり鉢の口縁部の破片。36はすり鉢の底部の破片である。42は肥前産の染め付けの碗(?)の胴部破片。43も肥前産の染め付けの胴部破片。40は、肥前産の皿の底部の破片。44も肥前産の蛸唐草の胴部破片で、18～19世紀ごろのものと思われる。

No	開口部cm	深さcm	形状
1	30 × 30	4.5	円形
2	34 × 30	2.5	円形
3	46 × 38	3.4	楕円形
4	30 × 28	2.0	円形
5	14 × 14	2.2	円形
6	20 × 20	3.4	円形
7	26 × 24	1.5	円形
8	16 × 12	9	円形
9	26 × 26	7	円形
10	28 × 26	2.5	円形
11	26 × 26	1.3	円形
12	28 × 26	2.2	円形

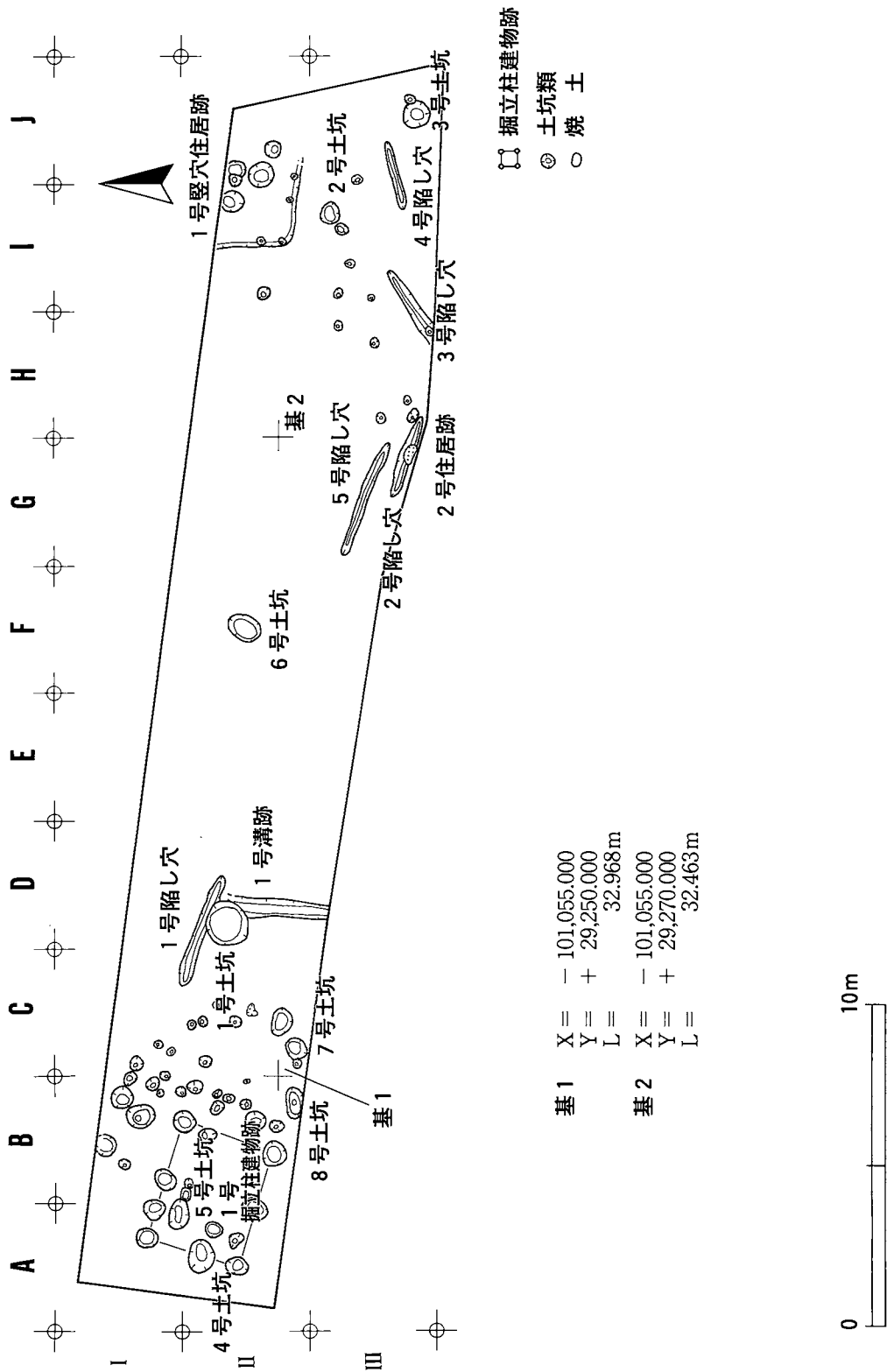


第9図 柱穴群 (調査区東部)

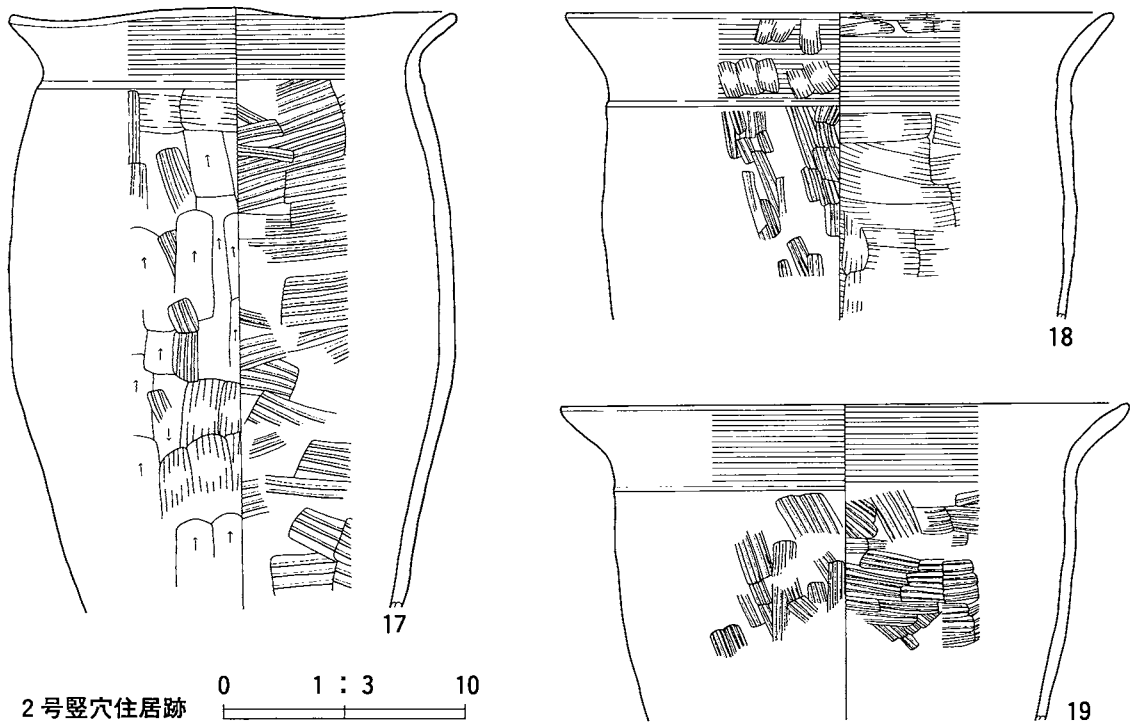
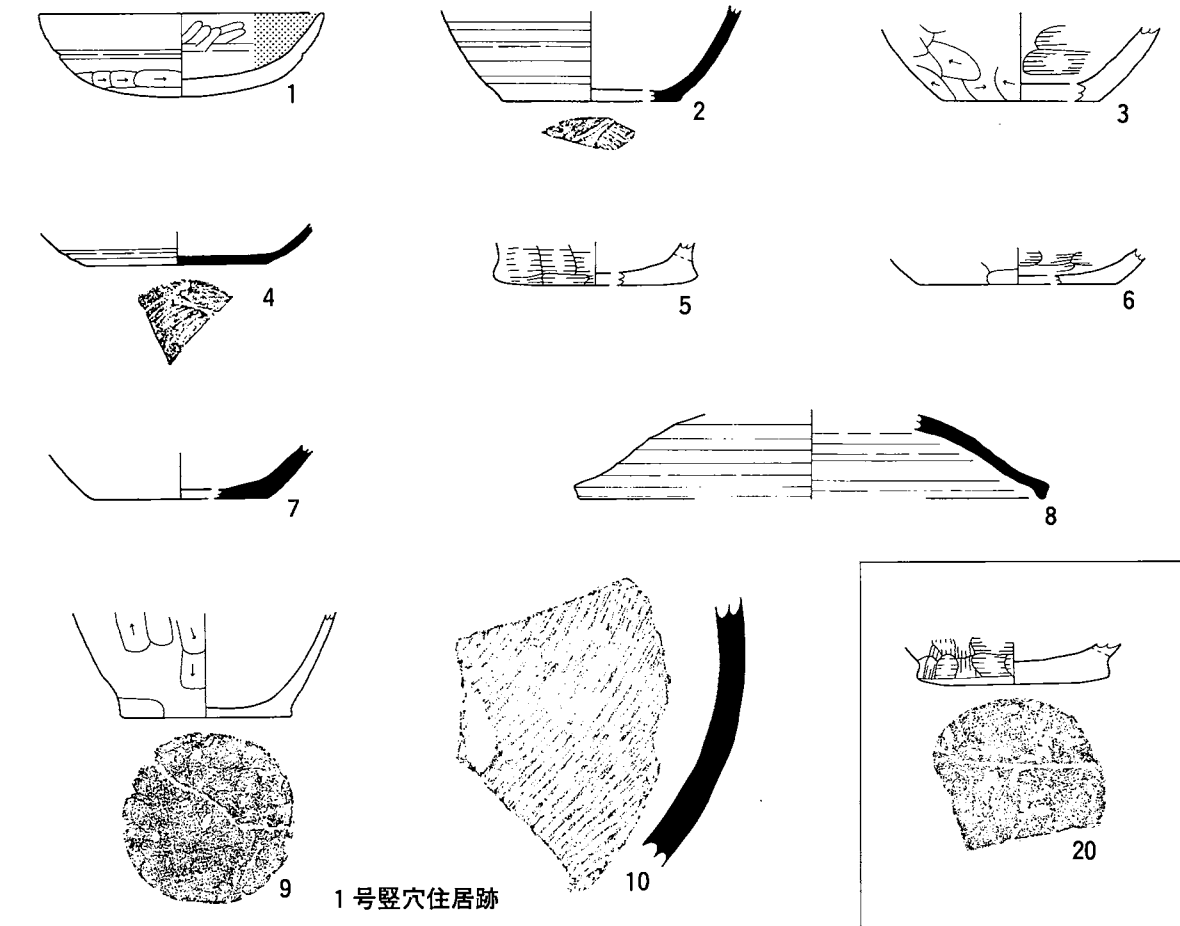
No	開口部cm	深さcm	形状
13	20 × 18	3 4	円形
14	40 × 34	1 5	円形
15	30 × 30	1 3	円形
16	30 × 26	1 2	円形
17	34 × 30	4 2	不整形
18	28 × 22	2 0	楕円形
19	44 × 40	4 6	円形
20	40 × 38	3 3	不整形
21	66 × 60	6 4	円形
22	84 × 74	8 6	円形
23	50 × 36	5 8	楕円形
24	24 × 20	2 9	不整形
25	30 × 26	8	円形
26	22 × 20	1 2	円形
27	46 × 38	3 4	楕円形
28	42 × 34	3 2	円形
29	28 × 20	2 1	不整形
30	44 × 38	5 8	楕円形
31	34 × 28	1 2	楕円形
32	42 × 40	2 9	円形
33	28 × 28	1 8	円形
34	64 × 50	4 8	楕円形
35	38 × 38	5 8	円形
36	30 × 26	2 0	円形
37	22 × 22	1 7	円形
39	56 × ?	3 5	円形?
40	32 × 28	4 6	円形
41	74 × 64	4 9	楕円形
42	38 × 30	1 5	隅丸方形
43	28 × 26	1 9	円形
44	50 × 48	2 7	円形
45	48 × 46	4 9	不整形



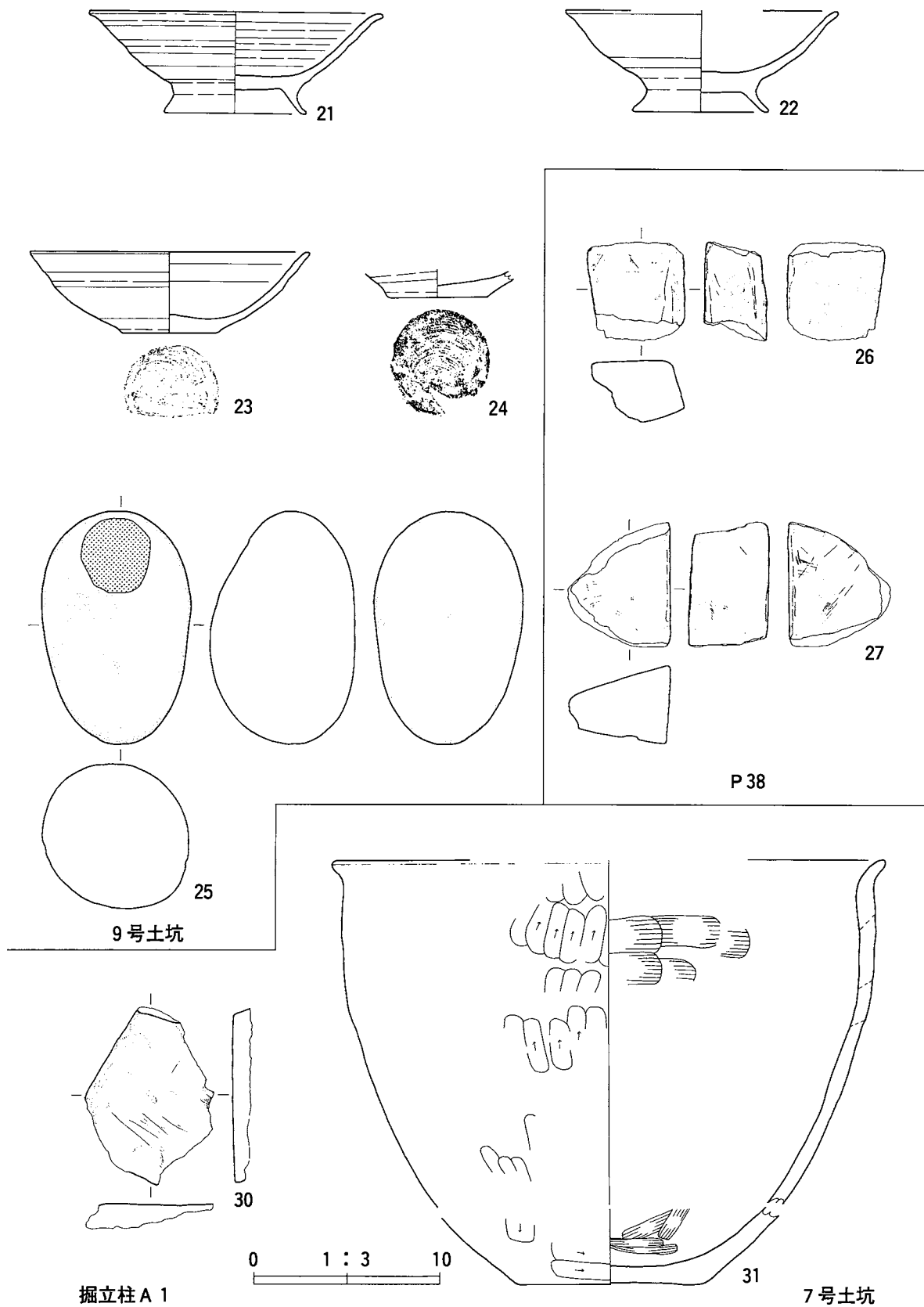
第10図 柱穴群 (西側調査区)



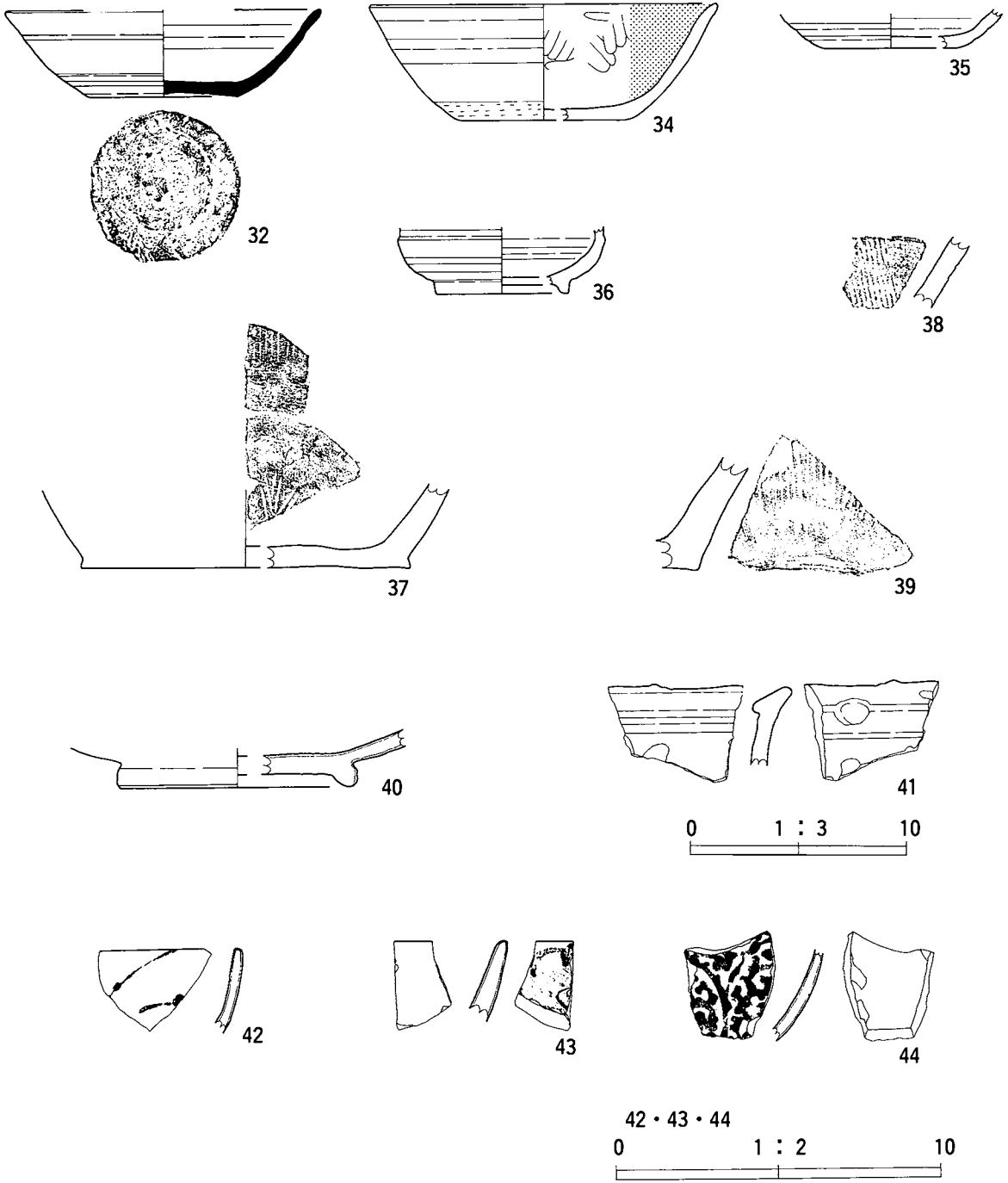
第11図 遺跡遺構配置図



第12图 1·2号住居出土遗物



第13图 土坑·掘立柱出土遗物



第14図 遺構外出土遺物



# 土器観察表

## 土師器・須恵器観察表

登録No	旧No	出土地点層位	部位	種類	器種	成形		法 量			調 整 技 法						焼成	胎土	備 考	図 版	写 真	
						口径	底径	器高	外 面 調 整			内 面 調 整										
									口縁部	胴 部	底部切り難し	口縁部	胴 部	底 部								
1	11	1号住居P33底面	完形	土	坏	○		11.3	丸底	3.5			沈 線	ケズリ	ミガキ・内黒	ミガキ・内黒	ミガキ・内黒	やや良	疎	丸底沈線	12図-1	図11-1
2	104	1号住居P34	底部~胴部	須	坏	○		不明	不明	不明	不 明	ロクロナデ	回糸無	不 明	ロクロナデ			良	密		12図-2	図11-21
3	13	1号住居P38	胴部~底部	土	小甕		○?	不明	6.4	不明	不 明	下端ケズリ		不 明	ヘラナデ	不 明		やや良	疎	石英を含む	12図-3	図11-3
4	102	1号住居埋土中	底部~胴部	須	坏	○		不明	7.0	不明	ロクロナデ	墨 書	回糸無	ロクロナデ	ロクロナデ	ナ デ		良	密	墨書字「写」	12図-4	図11-4
5	14	1号住居P38	底部	土	小甕		○?	不明	9.6	不明	不 明			不 明	不 明	ナ デ		やや良	疎	石英を含む	12図-5	図11-5
6	16	1号住居P40	底部	土	甕		?	不明	不明	不明	不 明	ナ デ	?	不 明	不 明	不 明		中	中	石英を含む	12図-6	図11-6
7	106	1号住居P38	底部	須	坏	○		不明	6.9	不明	不 明	下端ヘラケズリ	回糸無	不 明	不 明	不 明		良	密		12図-7	図11-7
8	105	1号住居P38	蓋	須	蓋	○		19.3			ロクロナデ・ロクロケズリ		ロクロナデ					良	密	摘まみの可能性	12図-8	図11-8
9	15	1号住居P40	胴部~底部	土	小甕		○?	不明	7.1	不明	不 明	下部ヘラケズリ	ナ デ	不 明	不 明	ナ デ		やや良	中	石英・長石煤付着	12図-9	図11-9
10	12	1号住居P33	胴部下	須	大甕	○		不明	不明	不明	不 明	並行タタキ	不 明	不 明	無紋当て具痕	不 明		良	やや密		12図-10	図11-10
11	107	1号住居P38	口縁部	須	坏	○			不明	不明	ロクロナデ	不 明	不 明	ロクロナデ	不 明	不 明		良	密			図11-11
12	108	1号住居P40	肩部	須	長頸瓶	○		不明	不明	不明	不 明	自然袖	不 明	不 明	ロクロナデ	不 明		良	密	自然袖		図11-12
13	19	1号住居P40	口縁部	土	坏	○		不明	不明	不明	ヨコナデ	不 明	不 明		不 明	不 明		やや良	やや密	口唇部に段あり		図11-13
14	20	1号住居P40	口縁部	土	坏	○		不明	不明	不明	ナ デ	不 明	不 明	ミガキ・内黒	ミガキ・内黒	不 明		やや良	中	石英長石を含む		図11-14
15	1	1号住居	口縁部	土	坏	○		不明	不明	不明	ナ デ	不 明	不 明	ミガキ・内黒	不 明	不 明		やや良	中			図11-15
16	17	1号住居P40	口縁部	土	甕	○		不明	不明	不明	口唇部受け口状	不 明	不 明	口唇部段あり	不 明	不 明		やや良	中	石英を含む		図11-16
17	24	2号住居カマド	口縁部	土	甕		○	18.6	不明	不明	ヨコナデ	ケズリ・ハケメ	不 明	ヨコナデ	ハケメ	不 明		中	疎	頸部に段	12図-17	図12-17
18	25	2号住居カマド	口縁部	土	甕		○	22.8	不明	不明	ヨコナデ	ハケメ	不 明	ヨコナデ	ハケメ	不 明		良	やや密	頸部に明瞭な段	12図-18	図12-18
19	26	2号住居カマド	口縁部	土	甕		○	23.6	不明	不明	ヨコナデ	ハケメ	不 明	ヨコナデ	ハケメ	不 明		やや良	疎	頸部にかすかな段	12図-19	図12-19
20	28	2号住居カマド	底部	土	甕		○	不明	8.0	不明	不 明	下端ヘラナデ	木葉痕	不 明	不 明	ケズリ		やや良	疎	底部木葉痕	12図-20	図12-20
21	9	9号土坑	口縁部~底部	土	高台付坏	○		15.9	7.8	5.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回糸切の後高台付	ナ デ	ナ デ	ナ デ		やや良	密		13図-21	図12-21
22	8	9号土坑	口縁部~底部	土	高台付坏	○		14.8	7.3	5.4	ロクロナデ	ロクロナデ	不 明	ロクロナデ	ロクロナデ			やや良	密		13図-22	図12-22
23	7	9号土坑	口縁部~底部	土	坏	○		15.0	5.0	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回糸無	ロクロナデ	ロクロナデ			良	密		13図-23	図12-23
24	2	9号土坑	底部	土	坏	○		不明	5.3	不明	不 明	不 明	回糸無	不 明	不 明	ナ デ		やや良	中		13図-24	図13-24
28	10	P22埋土中	口縁部	土	甕																	図13-28
29	103	P22	口縁部	土	甕																	図13-29
31	22	P58	口縁部~底部	土	甕		○	29.9	10	不明	ナ デ	ケズリ	不 明	不 明	ナ デ	ナ デ		中	疎		13図-31	図13-31
32	101	4号陥し穴検出面近く	口縁部~底部	須	坏	○		14.8	7.0	4.1	ロクロナデ	火だすき	回ヘラ無	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		良	密	胴部外面火だすき	14図-32	図14-32
34	1001	遺構外	口縁部~底部	土	坏	○		16.2	7.6	5.4	ロクロナデ	ロクロナデ	不 明	ミガキ・内黒	ミガキ・内黒	ミガキ・内黒		中	中		14図-34	図14-34
35	1002	遺構外	胴部~底部	須	坏	○			6.2									やや良	密		14図-35	図14-35

### 陶磁器観察表

登録 No	旧登録 No	出土地点	部位	種類	器種	時代	備考	図版	写真
33	201	1号陥し穴	胴部	陶器	甕	中世	流しがけが見られる。		図14-33
36	1205	遺構外	底部			近世～現代		14図-36	図14-36
37	1201	遺構外	胴部破片		すり鉢	近世～現代		14図-37	図14-37
38	1203	遺構外	胴部	器	すり鉢	近世～現代		14図-38	図14-38
39	1202	遺構外	底部破片	器	すり鉢	近世～現代	1201と周形	14図-39	図14-39
40	1103	遺構外	底部破片	肥前産磁器				14図-40	図14-40
41	1204	遺構外	口縁部		すり鉢	近世～現代		14図-41	図14-41
42	1101	遺構外	胴部破片	肥前産磁器	碗?			14図-42	図14-42
43	1102	遺構外	胴部破片	陶磁器				14図-43	図14-43
44	1104	遺構外	胴部破片	肥前産磁器		近世	たこ唐草文様染め付け (18～19c)	14図-44	図14-44

### 石器・石製品観察表

Na	仮Na	出土地点	種別	長さcm	幅cm	重量g	石質	産地	図版	写真
25	501	P 22	磨り石	1 5	8	7	安山岩	奥羽山脈	13図- 25	13図- 25
26	402	1号住居 P 26	砥石	4	4	3	凝灰岩	奥羽山脈	13図- 26	13図- 26
27	401	1号住居 P 26	砥石	6	4	6	凝灰岩	奥羽山脈	13図- 27	13図- 27
30	403	1号住居 P 50埋土中	砥石	9	6	1	凝灰岩	奥羽山脈	13図- 30	13図- 30
45	1301	遺構外	剥片石器	6	3	1	頁岩	奥羽山脈		13図- 45

## V. ま と め

漆林Ⅱ遺跡からは奈良・平安時代の遺構と遺物を中心に整理し補足を加えてまとめとしたい。

### 1. 遺構

#### (1) 竪穴住居状遺構

##### 《1号竪穴住居状遺構について》

今回の調査では貼り床の下から検出された1号竪穴住居跡（カマドは検出されず、焼土のみを検出）とカマドのみの検出（2号竪穴住居跡）を登録している。1号竪穴住居跡は発掘当初は住居状として登録し、貼り床のみの検出であったが、その貼り床の下から支柱穴と思われるものが壁に沿って検出された。また貼り床が削平されていた東側の支柱穴の検出面とほぼ同じレベルからは、焼土（黒褐色土と褐色土の混合土）が検出され、その付近からは土師器の坏が出土している。こうした状況から、カマドは焼土の上に存在していたが削平されてなくなっていたと推測される。また、その住居の上にさらに人為的に埋めて建て替えた可能性が高い。

##### 《2号竪穴住居状遺構について》

カマドのみの検出であった。調査区の境にある南東側の畦畔の壁からまず土師器の甕が検出され、続いてすぐのとなりから焼土が検出された。カマドの袖は褐色土を主体にしたもので、住居の規模などは不明である。カマドがどの方向に向いていたかについては不明であるが、検出状況から北側に向いていたと思われる。住居の床面は調査区外に伸びていたか調査区内にあったが削平されてなくなってしまった可能性がある。

#### (2) 掘立柱建物跡

本調査区の東側から掘立柱建物跡が検出された。調査終了時に西側の盛土を重機で除き確認したところ、西側には延びていないことが分かった。したがって、南北方向に延びている可能性がある。また、本調査区から約200mほど西に行ったところで、平成11年度に下植田遺跡Ⅰの発掘調査を水沢市埋蔵文化財調査センターで行っているが、そのときに検出された遺構の中に近世のものと思われる掘立柱建物跡が7棟検出されている。したがって、遺物や回りの状況から平安時代以降のものと考えられているが、床面からの遺物の出土はなかったので、本調査区の掘立柱建物跡も近世のものかもしれない。

#### (3) 土坑類

土坑は9基登録している。形状は円形2基・楕円形4基・不整な楕円形3基である。遺物は7号土坑・9号土坑から出土している。

#### (4) その他の遺構

その他にも溝状遺構1条・土坑9基・陥し穴状遺構5基・柱穴状小土坑46基検出された。また、試掘段階で調査区中央から縄文の竪穴住居跡があるということが分かったが、実際に検出してみたところ、出土するものはごく新しいものでゴミ穴であることが判明した。

#### (5) まとめ

本遺跡では調査区が狭く、全体的な集落の形態はつかむことはできなかった。陥し穴が検出されていることから縄文時代には狩場になっていたようである。また、奈良平安時代には集落跡であったことも分かった。平安時代には付近に胆沢城があることから、何らかの関連も可能性としてある。さらに付近の調査が進むことで、本遺跡の位置付けも明らかになることであろう。

## 2. 遺物

奈良時代の遺物については、土師器の坏と甕が出土している。また、平安時代の遺物としては土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕、長頸瓶が出土している。また、縄文時代のものと思われる砥石や磨り石、剥片などが少量遺構外から出土している。ここでは奈良・平安時代の遺物を中心に整理してまとめとした。

### (1) 奈良時代の遺物について

奈良時代の遺物については1号住居のP33からは土師器（酸化炎焼成）の坏が出土している。2号竪穴住居跡（カマドのみ）から出土した甕がある。また、遺構外からは坏が出土している。甕については非ロクロ成形で、胴部外面全体に縦に向けてヘラケズリ・ヘラナデ調整が施されており、内面ははっきりしたハケメ調整が胴部全面に横向きに施されている。口縁部外面は頸部と胴部の境に弱い沈線状に区切られ、丸みを帯びて水平に対し約45～60度外反し、口唇部は丸みを帯びている。およそ8世紀のものと思われる。

### (2) 平安時代の遺物について

平安時代の遺物については1号竪穴住居跡を中心に出土している。坏については回転糸切り離し無調整のいわゆる赤焼き、回転糸切り無調整の須恵器の坏、墨書の破片も出土している。

### (3) 近世以後の遺物について

1号陥し穴から出土した陶器は甕の胴部破片で、流しがけがみられ、中世のものと思われる。遺構外からは、すり鉢の破片（近世以降）や肥前産の磁器の底部から胴部にかけての破片や肥前産のたこ唐草文様の染め付け（18～19世紀ごろ）のものが出土している。

### (4) 須恵器系土器（還元炎焼成の土器）について

須恵器系土器は坏が6点、甕が1点、蓋が1点、長頸瓶が1点である。

坏は回転糸切り無調整2点で、そのうち1点は墨書（「写」という字と思われる）土器。回転糸切り再調整が1点。回転ヘラ切り無調整（火だすきあり）が1点。不明が2点である。

甕は、胴部下部破片で、外面には並行タタキ目がほどこされている。内面には、無紋の当て具痕がみられる。

蓋は、径19.3cmで、外面には、ロクロナデ、削りがみられ、内面は、ロクロナデが施されている。

長頸瓶は頸部の破片である。外面に自然袖が施されている。

### (5) 土師器（酸化炎焼成の土器について）

土師器は坏7点、高台付き坏2点、甕12点である。

坏については、非ロクロ成形1点、ロクロ成形5点、不明1点である。非ロクロ成形の1点は、口径11.3cm器高3.5cmで、底部は丸底。胴部下部に沈線が施されており、内面は放射状によく磨かれ、黒色処理が施されている。8世紀ごろのものと思われる。ロクロ成形の5点のうち2点は回転糸切り無調整のもので、3点は底部切り離しは不明で内黒処理である。

高台付き坏2点は黒色処理はなく、1つは回転糸切りの後、高台を取り付けている。

甕についてはロクロ成形と思われるものは1点のみで、ほとんどが底部が確認できず、切り離しが不明である。

《参考・引用文献》

- (1) 日本土器辞典（雄山閣社）
- (2) 水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第7集「杉の堂遺跡」
- (3) 水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第3集「姉体車堂Ⅱ遺跡」
- (4) 水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第14集「下植田Ⅰ遺跡」
- (5) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター報告書第308集「本宮・熊堂B遺跡第4次鬼柳A遺跡第4次」
- (6) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター報告書第214集「岩崎台地遺跡群発掘調査」
- (7) 岩手県埋蔵文化財センター紀要Ⅳ「須恵器大甕にみられる放射状当て具痕について」高橋与右エ門

# 漆林Ⅱ遺跡 写真図版



調査区遠景



調査区近景

写真図版1 空中写真



遺跡近景



基本土層

写真図版2 調査区現況・基本土層





平 面



断 面

写真图版 3 1号竖穴住居跡



2号竖穴住居カマド出土状況



2号竖穴住居カマド断面



2号竖穴住居焼土検出状況



1号溝断面



1号焼土断面

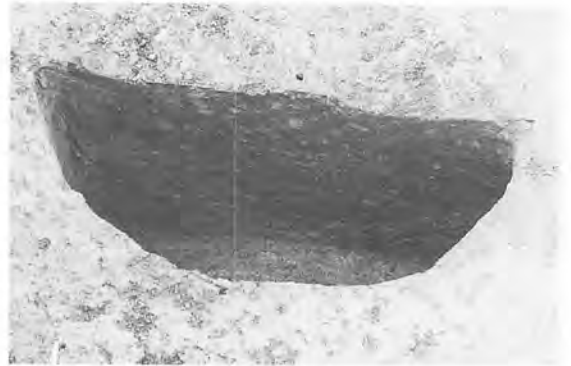
写真図版4 2号竖穴住居跡・1号焼土・1号溝跡



平 面



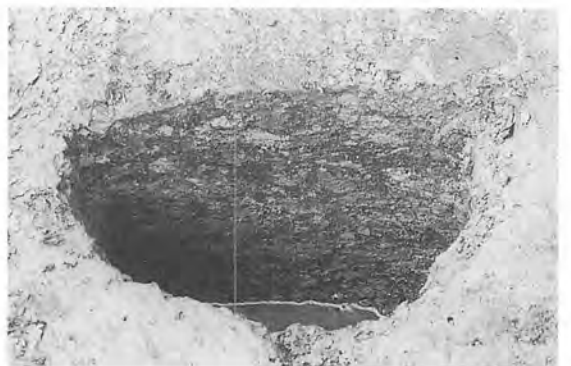
A 1 完掘



A 1 断面



A 2 完掘



A 2 断面

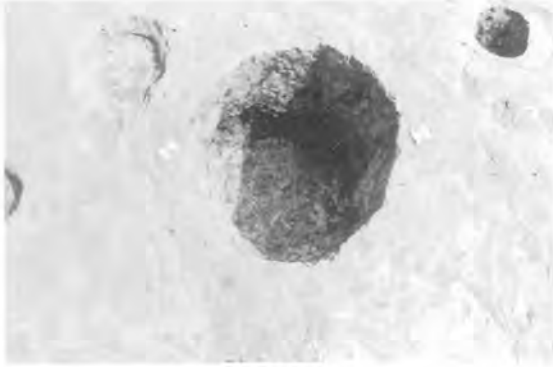
写真図版 5 掘立柱建物跡(1)



A 3 完掘



A 3 断面



B 1 完掘



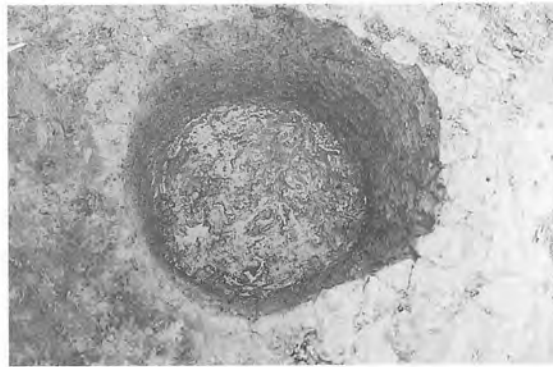
B 1 断面



B 2 完掘



B 2 断面



B 3 完掘



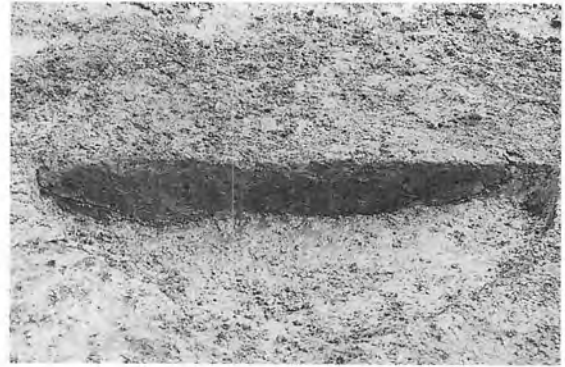
B 3 断面

写真図版 6 掘立柱建物跡(2)





1号土坑



1号土坑断面



2号土坑完掘写真なし



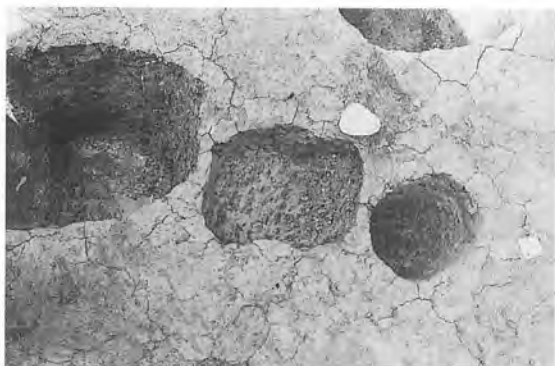
2号土坑断面



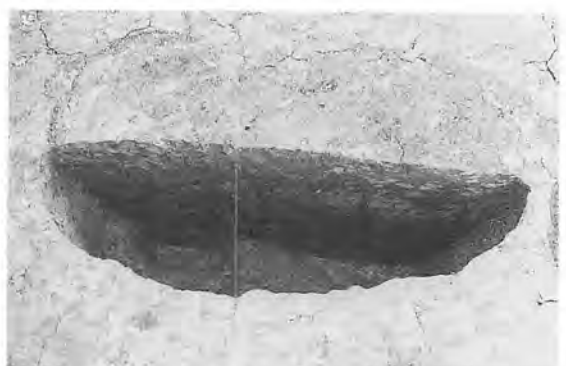
3号土坑



3号土坑断面



5号土坑



5号土坑断面

写真図版7 1号・2号・3号・5号土坑(4号土坑写真なし)



6号土坑



6号土坑断面



7号土坑



7号土坑断面



8号土坑



8号土坑断面



9号土坑



9号土坑断面

写真图版8 6号~9号土坑



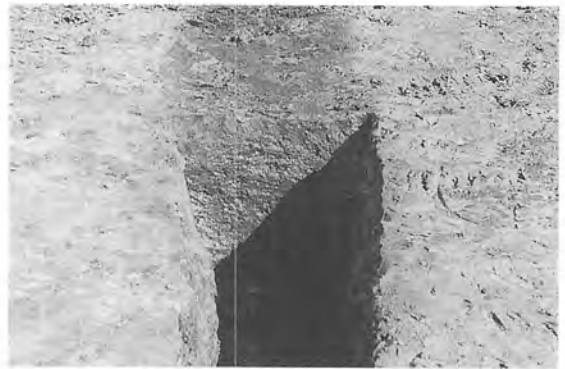
1号陥し穴



1号陥し穴断面



2号陥し穴



2号陥し穴断面

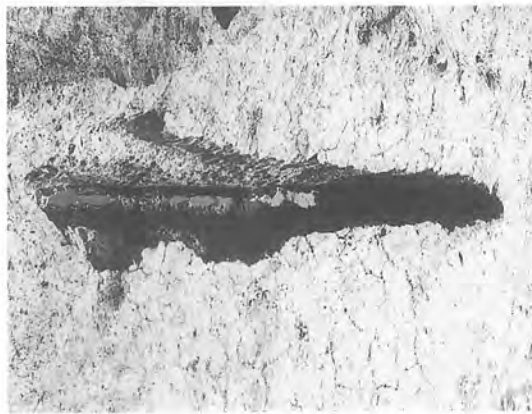
写真図版9 1号・2号陥し穴(1)



3号陥し穴



3号陥し穴 断面



4号陥し穴



4号陥し穴 断面

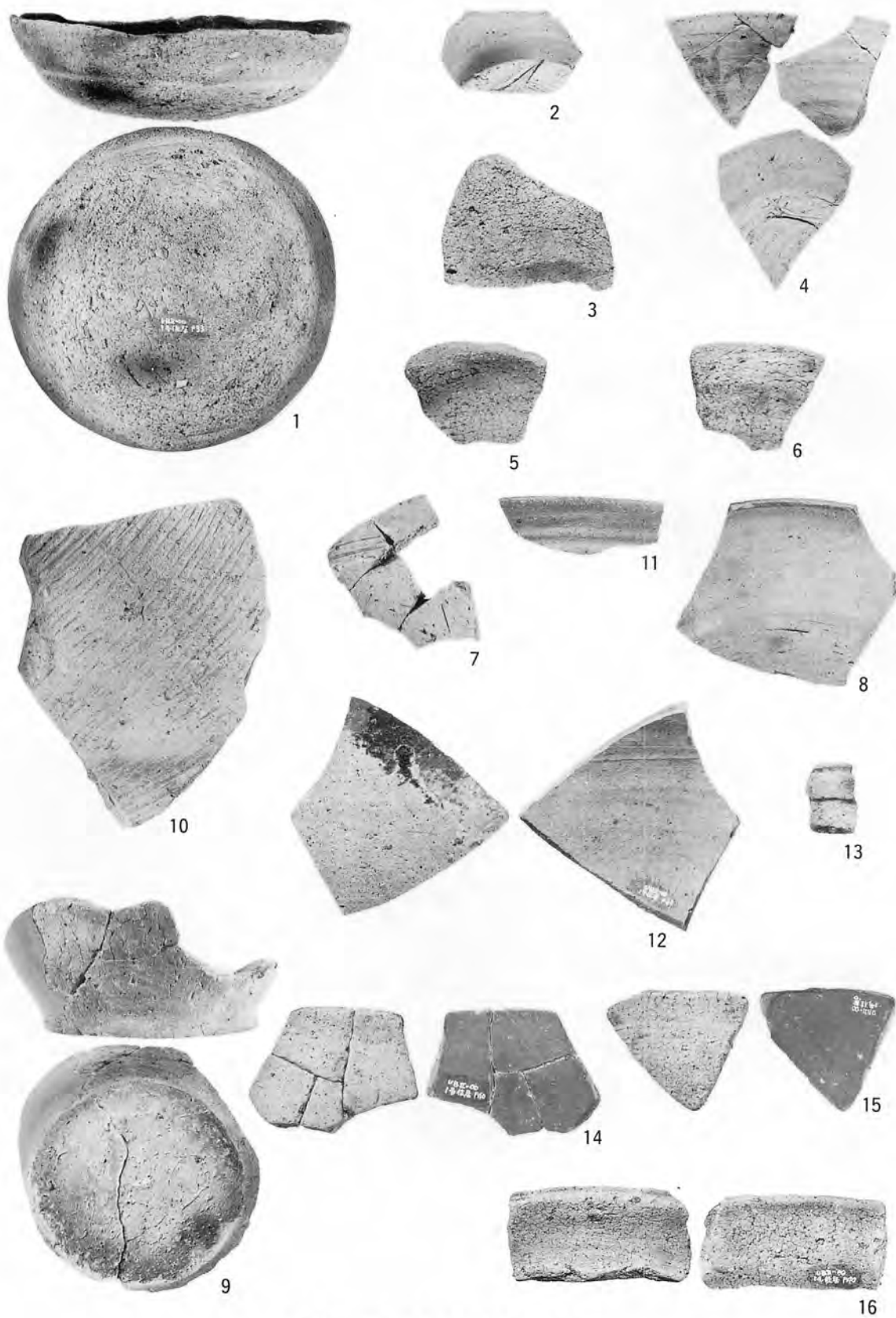


5号陥し穴



5号陥し穴 断面





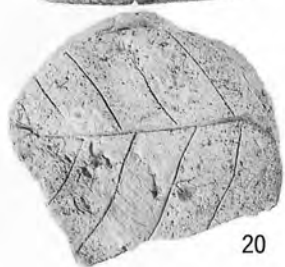
写真図版11 遺構内出土遺物(1)



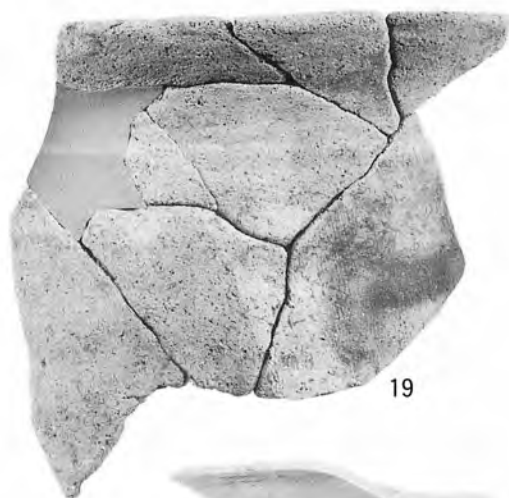
17



18



20



19

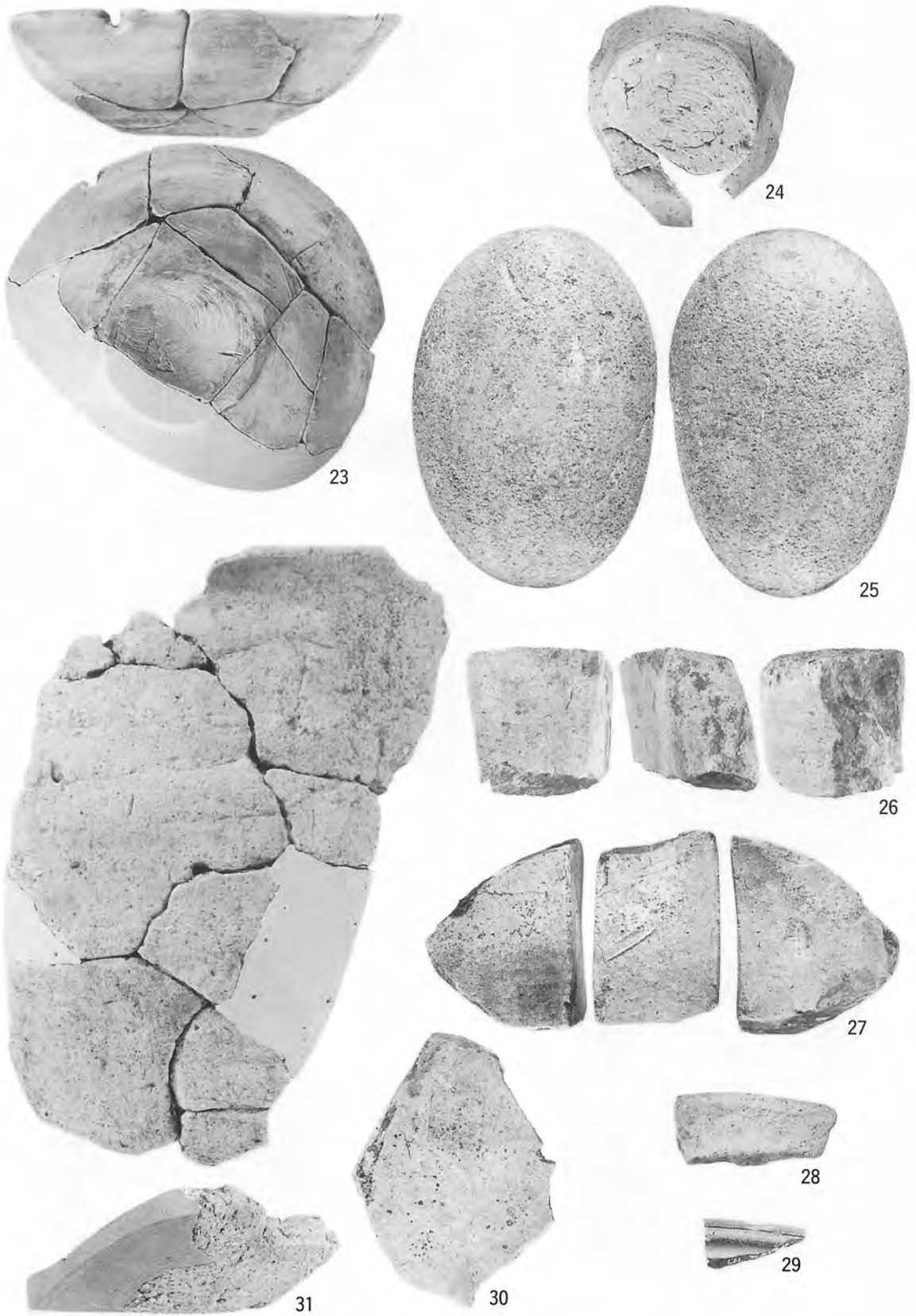


22

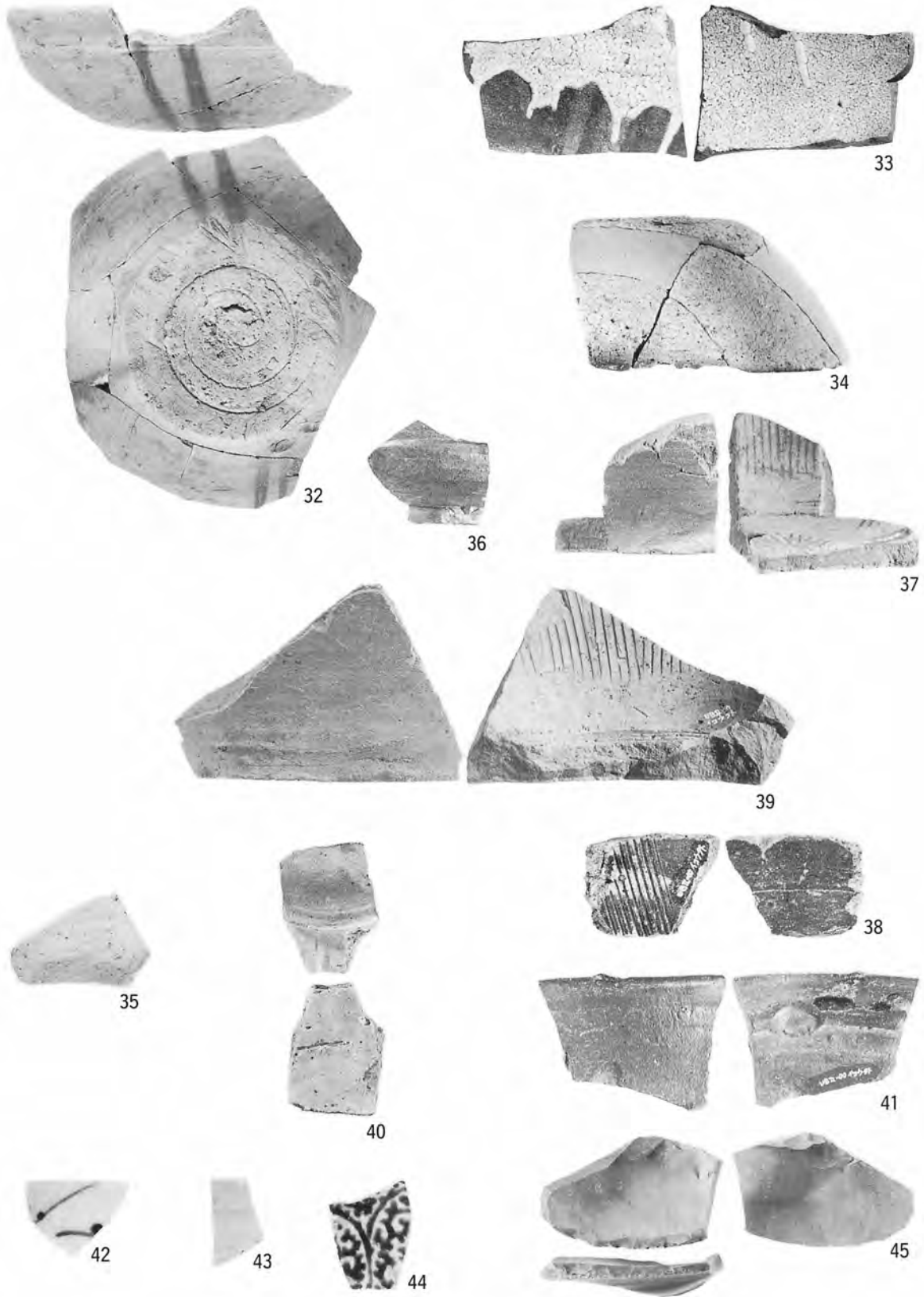


21

写真図版12 遺構内出土遺物(2)



写真図版13 遺構内出土遺物(3)



写真図版14 遺構外出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	うるしばやしにいせきはつつちょうさほうこくしょ							
書名	漆林Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	水沢ほ場整備事業関連発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第381集							
編著者名	金野 進							
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001							
発行年月日	西暦2002年4月 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うるしばやしにいせき 漆林Ⅱ遺跡	みずさわしあねたい 水沢市姉体 あざうるしばやし55 字漆林55	03204	ME37-1182	39度 05分 21秒	141度 10分 17秒	20000410 ～ 20000426	600	ほ場整備 事業関連
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
漆林Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代  奈良時代  平安時代   奈良～近世 (時代不明)	陥し穴状遺構 5基  竪穴住居遺構 (カマドのみ) 1棟  竪穴住居遺構 1棟 焼土遺構 1基 掘立柱建物跡 1棟 土坑 9基  溝状遺構 1条 竪穴状小土坑45基	土師器 (甕)  土師器 (坏、甕) 須恵器 (坏、甕)  陶器 すり鉢				

# 本宿迎畑遺跡調査

# I. 検出された遺構と遺物

## 1 遺跡の概要

本遺跡では平安時代と思われる竪穴住居跡が7棟、住居状遺構が1棟、円形周溝が1条、溝跡3条、陥し穴状遺構5基、土坑17基、柱状小土坑82基が検出された。

## 2 竪穴住居跡

平安時代と思われる住居が7棟検出された。調査区のほぼ中央に比較的大きな住居跡（4号住居）とその周辺に比較的小きな住居跡が5棟検出された。2号住居跡と3号住居跡は重複しており、3号住居の方が古いことが分かった。また、4号住居跡と5号住居跡は5号住居の上に4号住居がのっており、5号住居の方が古く、拡張して住居を建て直した可能性が高い。

### (1) 1号竪穴住居跡

#### 遺 構 (第1図・写真図版3)

〈位置・重複〉 調査区東側のグリットⅢP・ⅢQ・ⅣPに位置する。土坑と重複している。

〈規模・平面形・方向〉 規模は北西辺3.34m、南西辺3.40m、南東辺3.60m、北東辺3.40mで、ほぼ正方形を呈している。床面積は約11.6㎡である。主軸方向は磁北に対して、約50度東に偏している。

〈埋 土〉 黒褐色土を主体とした4層に大別される。

〈壁〉 基本土層第Ⅲ層褐色土を掘り込んで構築している。壁は北東辺で残存率が低い。南西辺で2段階に壁が立ち上がっている部分が見られる。北西側でほぼ垂直に立ち上がり、西側寄りに壁高が高い。各壁中央部の壁高の残存値は北東壁中央約9cm、北西壁中央12cm、南東壁中央8cm、南西壁中央12cmである。

〈床 面〉 貼り床は、黒褐色土と褐色土の混合ブロック土で、厚さは南側で約5～10cmでよく締まっている。南西側に厚く、北側で薄く貼り床が施されている。

〈柱 穴〉 床面からは7基の土坑が検出されている。どれも柱穴痕が確認されず、形状的にも柱穴状のものは見当たらなかった。しかし、位置的にP1、P3、P4、P5は柱穴の可能性もある。

〈カマド〉 カマドは北東壁の北隅から南へ約1.8mに位置し、袖部、燃烧部、煙り出し部を検出した。規模は幅約80cm、奥行き約60cmで、煙道部は確認されなかったが、壁外から約1.2mのところ煙り出し部を検出した。袖部については左右とも袖の端が削平されており、幅約10cm、奥行き約30cm、高さ約10cmで、褐色粘土質土で構築されている。燃烧部は幅約80cm、奥行き約60cmの広さがあり、火床は床面より若干低い。焼土は60cm×60cmの燃烧部ほぼ全面に広がり、厚さは約10cmである。煙り出し部は径約40cm×38cmのほぼ円形をなし、深さは約9cmである。

#### 遺 物 (第23図・写真図版17)

埋土黒褐色土主体の褐色（地山ブロック）混合土層の床面近くから、土師器の甕の破片が出土している。また、P1の底面直上の焼土ブロック混入黒褐色土からは須恵器の坏の破片が出土している。

住居南西辺から約30cm中央よりの床面近くから回転糸切り無調整の須恵器の口縁部から胴部にかけての破片が出土している。1号住居P2の検出面よりおよそ3cm下から14が出土。1号住居P2の検出面より7（2も同一個体）が出土。そのほかに磨り石が出土している。

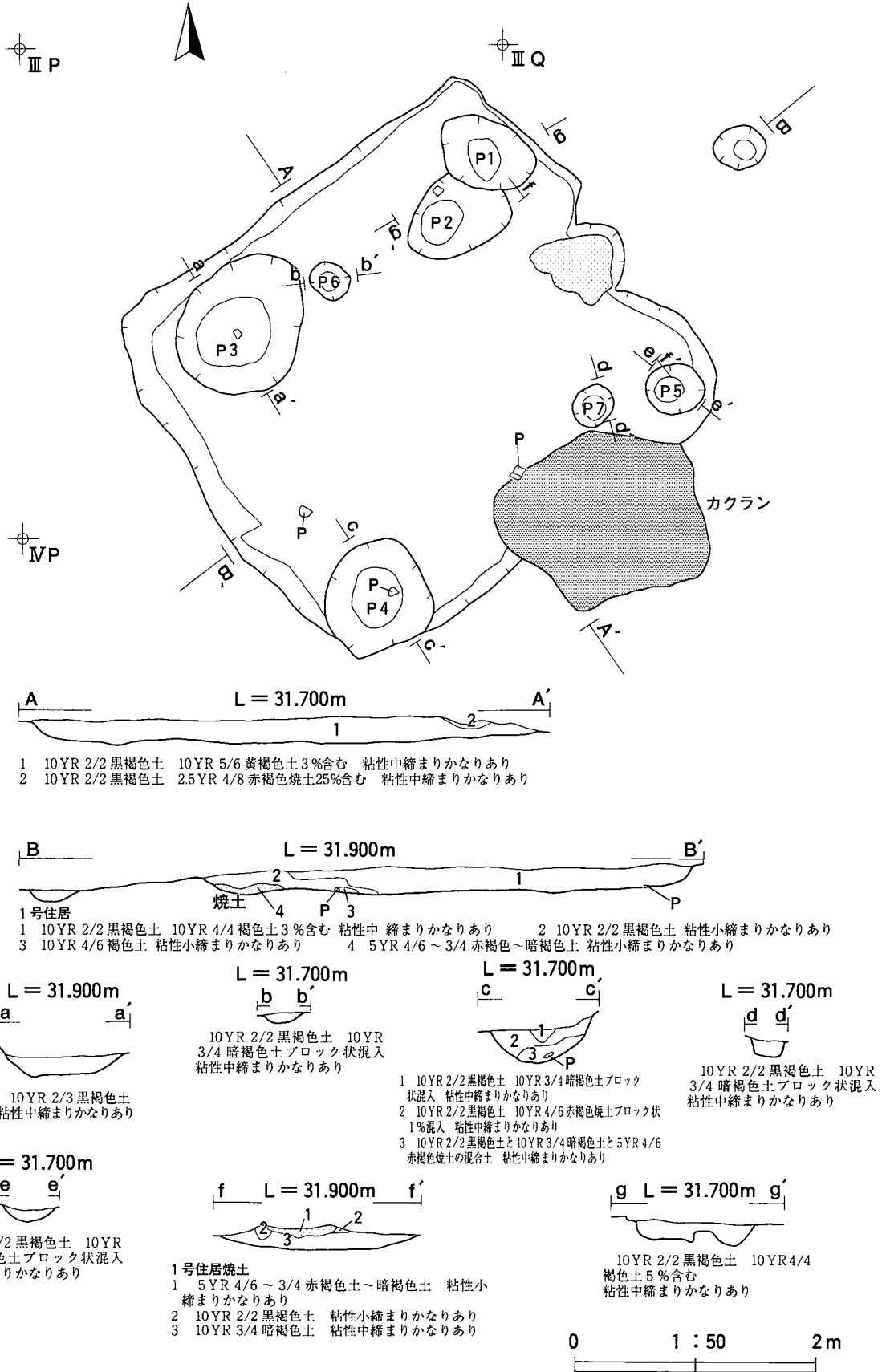
〈出土遺物〉 須恵器の坏の破片が2点と甕の破片が11点（内3点が須恵器）出土している。1は回転糸切り無調整の須恵器の坏で、ロクロの段が4段ではっきりしている。2・3は須恵器の口縁部破片である。4は土師器の長胴甕で、頸部と口縁部の境がはっきりと「く」の字状に直線状に外傾している。口縁部外面に

薄く並行タタキ目が見られる。5は土師器の口縁部～胴部にかけての甕の破片で、胴部はやや丸みを帯びていて、頸部と口縁部にかけて「く」の字状に外傾している。外面口は、煤が付着している。6は土師器の長胴甕の口縁部から胴部にかけての破片である。胴部に横並行タタキ目があり、その後撫でて調整したものと思われる。内面の当て具痕ははっきりしない。頸部は4と同様に「く」の字状に直線的に外傾しているが、4と比べ口縁部が短い。7は土師器の甕の口縁部である。頸部はやや丸みを帯びてくびれ、口唇部はやや受け口状に5mmほど内湾している。8は土師器の甕の底部破片で、回転糸切り離しの無調整である。14は須恵器の大甕の胴部破片で、胴部外面に並行タタキ目調整が施され、内面にもわずかながら並行当て具痕が認められ、その後、撫でて消して調整している。9は土師器の坏の底部破片で調整がはっきりしないが回転ヘラ切り離し後、ナデて消したものと思われる。10は土製品で角状の突起が見られる。11は砥石である。12は磨り石で3面磨った痕がある。

#### 時 期

出土遺物から、9世紀ごろ（9世紀前半～中葉）と思われる。





第1図 1号竪穴住居跡

## (2) 2号竪穴住居跡

### 遺 構 (第2図・写真図版4)

〈位置・重複関係〉 調査区の南東グリットVO～VQ、VI O～VI P区内に位置し、すぐ北側には円形周溝がある。2号竪穴住居跡の下には、さらに古い3号竪穴住居跡を重複して検出した。

〈規模・平面形・方向〉 南側が調査区外で、全体的な規模は不明である。また2号竪穴住居跡北東側は削平されて壁の立ち上がりがはっきりしない。調査区内での長軸は約9m、短軸は約2.3mである。形は調査区内の形から、隅丸方形ないしは正方形と推定される。主軸方向は磁北に対して約20°西に偏している。

〈埋 土〉 層は1層で、黒褐色シルト質主体の地山(褐色土)ブロックが混入している。

〈壁〉 北東隅や北西壁は削平されて壁の残りが悪い。壁高は約5cmと浅く、水平に対して約150°で外傾する。

北壁は直線的であるがやや外側にふくらむ。

〈床 面〉 貼り床されることもなくそのまま床面としている。床面はやや凹凸があり不規則であるが、全体として堅い。

〈柱穴・ピット〉 支柱穴と思われるピットは、壁ぎわにPP1・PP2・PP3・PP4・PP5(P1と重複)、PP6(P6に重複)である。また、P3からは須恵器の坏や甕の胴部破片などが底部から出土しているので、貯蔵穴として使われた可能性がある。その他は不明である。

〈カマド〉 カマドは検出されなかったが、北壁東側のP2に接するように楕円形状に広がる焼土が検出された。位置からみて、この場所にカマドが設置されていた可能性が強い。袖部・煙道部・煙出し部などは検出されていない。焼土の規模は長径55cm、短径40cmで、床面の黒褐色土が混じる地山(褐色土シルト質土)に赤く焼けた土である。

### 遺 物 (第23、24、25図・写真図版17、18)

〈出土状況〉 2号住居P3の付近の床面から16・28が出土している。またP3底面からは13・35・36が出土。

〈遺物〉 16は須恵器の坏の口縁部から底部にかけての破片で、回転ヘラ切り離しナデ調整(約1/3)をしている。底径は7.2cm、器高が3cmと低い。胴部内外面ともにロクロナデ調整をしている。28は土師器の坏で、口径11.3cm、底径5.8cmと小さく、底部と胴部の境目に台付きのようになっている。内面はミガキ調整の後黒色処理を施している。13は須恵器の坏で、胴部のロクロ段(4段)が明瞭で、回転ヘラ切り離しのナデ再調整を施している。35は須恵器の甕の胴部破片で、内外面ともにロクロナデ調整が施されている。36は須恵器の大甕の胴部で、外部に並行タタキ目が施されている。埋土中からは、観察表に書いているものが出土している。

### 時 期

平安時代(9世紀中葉～後期)のものと思われる。



### (3) 3号竪穴住居跡

#### 遺 構 (第3図・写真図版5)

〈位置・重複関係〉 2号竪穴住居跡の西側から中央にかけて、畦畔側の床面から検出した。

〈規模・平面形・方向〉 全体的な規模は調査区外に延びており明らかではないが、調査区内の長軸は約3m、短軸1.2mである。また方向も不明であるが、焼土跡の位置から考えると磁北に対して約70度東に偏していると推測される。

〈埋 土〉 埋土は1層である。黒褐色シルト質土中心に地山ブロック混入土で構成されている。層の形状から人為堆積と思われる。3号住居跡を建て替えて2号住居に拡張した可能性が高い。

〈 壁 〉 北壁中央の壁高は約27cm。西壁中央の壁高は削平されてはつきりしない。東壁中央の壁高は約20cmである。壁は垂直よりやや外傾して立ち上がる。壁溝は検出されていない。

〈床 面〉 床面はいたるところに柱穴状ピット跡があるために起伏があり、平坦でない。貼り床は検出されなかったが床面はかたい。

〈柱穴・ピット〉 床面よりP1・P2を検出した。P1はP3と同様壁ぎわに位置するので、支柱穴の可能性はあるが、埋土断面では柱痕が確認できなかった。P2は掘り方の形状からも断面からも柱穴とは考えにくく、遺物も出土していないので不明である。

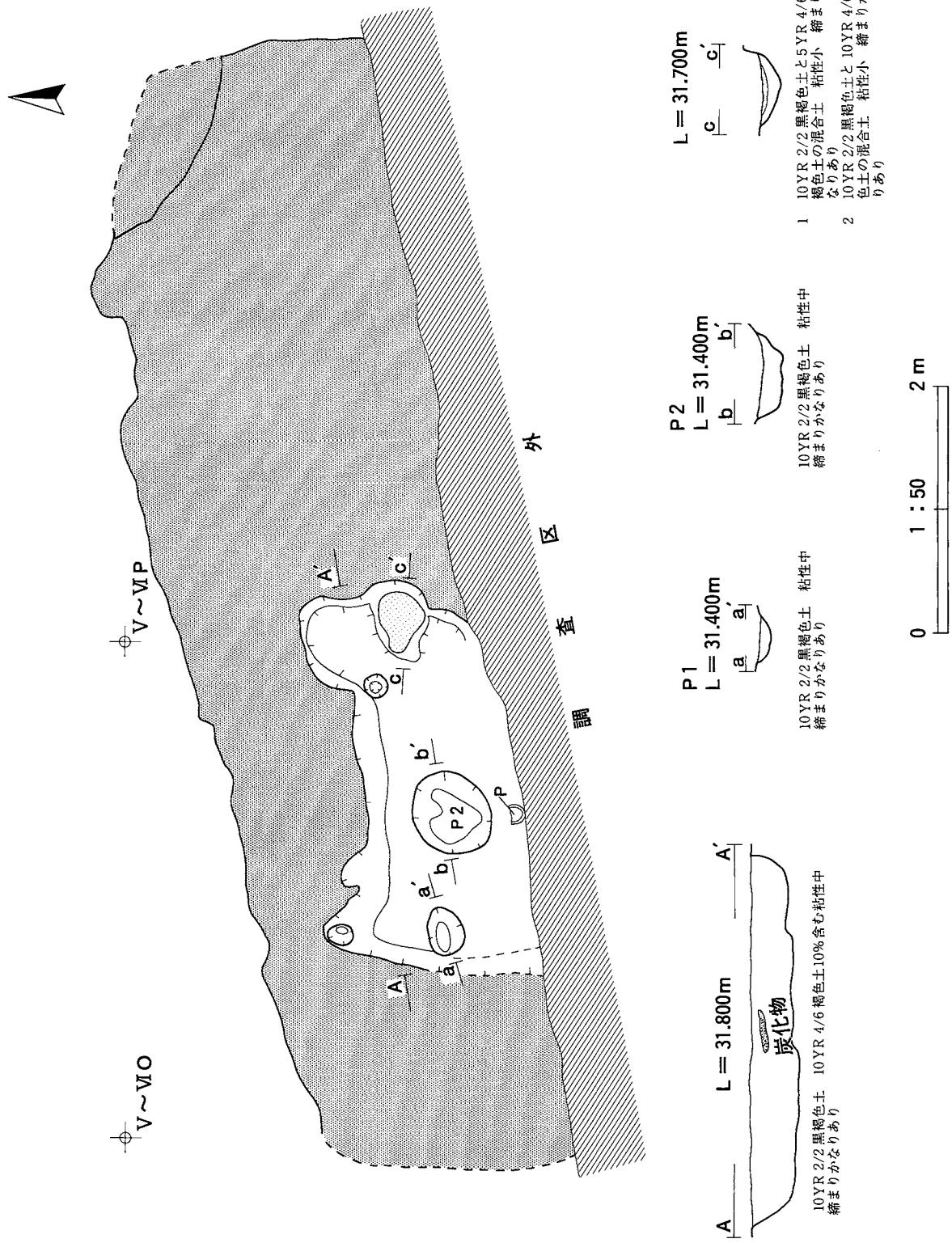
〈カマド〉 カマドは検出されなかったが、本遺構の東側壁ぎわのくぼみから焼土が検出された。焼土の土は、黒褐色土と赤褐色土の混ざり土で、廃棄されたものと思われる。

#### 遺 物 (第25図・写真図版18)

本遺構の床面から出土した遺物は41で、須恵器の甕の底部で、表面が研磨された部分があり、硯に使用した可能性が高い。

#### 時 期

2号竪穴住居跡より古く、平安時代のものと思われる。



第3図 3号竪穴住居跡

#### (4) 4号竪穴住居遺構

##### 遺 構 (第4図・写真図版6)

〈位置・重複関係〉 調査区の中央VH～VI, VIH～VII区内に位置する。4号住居の床面中央から5号住居を検出した。

〈規模・平面形・方向〉 規模は北辺5.6m・南辺5.8m・東辺6.0m・西辺6.2mである。平面形は隅丸の正方形をしており、主軸は磁北に対して約10°西に偏している。

〈埋 土〉 黒褐色土主体の3層に分けられている。床面直上の層は地山のブロック(褐色土)が混入している。自然状態で埋没したものと推定される。

〈壁〉 東壁・西壁はほぼ垂直に立ち上がり、東壁・西壁中央の壁高はそれぞれ約11cm、12cmと浅い。北壁中央の壁高は約14cmである。南壁は柱穴状土坑のあるところで起伏があり、若干蛇行している。

〈床 面〉 貼り床は約4～10cmほどの黒褐色土と褐色土の混合土で構築されていて、踏み締めによって堅い。全体的に平らであるが、東側中央がやや高くなっている。

〈柱穴・ピット〉 西壁の下端に沿って14の支柱穴を検出した。その口径・深さは次の通りである。

	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8	PP9	PP10	PP11	PP12	PP13	PP14
口 径	14×12	16×12	14×10	14×10	14×12	20×16	14×14	14×10	14×12	10×10	12×10	18×14	18×16	30×20
深 さ	18	16	14	16	14	6	4	4	5	5	4	5	23	37

(単位cm)

である。

〈カマド〉 北壁のほぼ中央部から燃焼部と袖部一部を検出したが、煙道部・煙出し部は検出されなかった。袖部の西側は削平されてほとんど残っておらず、東側もはっきりした袖ではないが、西側よりも残りがよい。東側の袖の幅は約25cm、奥行き約40cm、高さ約20cmで、全体の幅は約90cmと推測される。袖は黒褐色土主体の褐色土が少量含まれるシルトによって構築されている。燃焼部は20cmほど掘りこまれ、黒褐色土と地山ブロック(褐色土)の混合土によって貼り床されている。その上に焼土が形成され、厚さは最深部で10cmほどである。焼土の規模は幅約45cm、奥行き約50cmである。

##### 遺 物 (第25図・写真図版18、19)

〈出土遺物〉

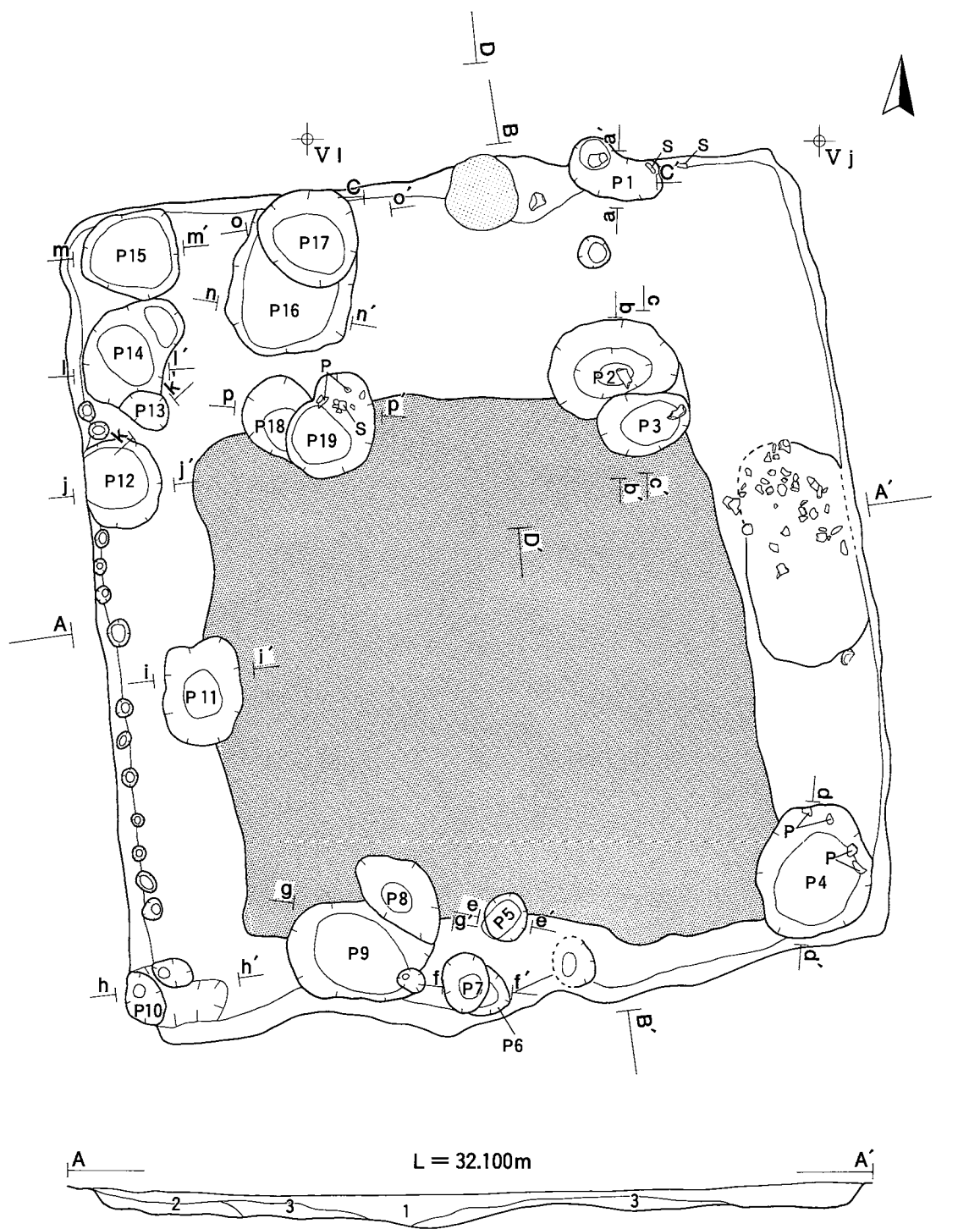
以下の2点のみであった。

本遺構床面から出土したものは、49が貯蔵穴の南側上端付近より出土。土師器の甕の底部で木葉痕がみられる。P2の底面から出土の54は須恵器の甕の胴部破片で、厚さは1.3cm、外面は、並行タタキ目、部分的に擬格子状タタキ目があり、内面は、不鮮明だが、円弧状当て具痕がある。

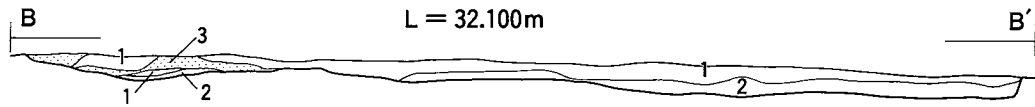
その他4号住居跡なのか5号住居跡からのものか不確かであるが、可能性の高いものを4号住居跡として観察表に掲載している。

##### 時 期

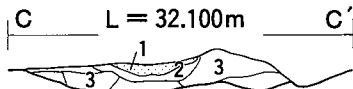
出土遺物から、平安時代のものと思われる。



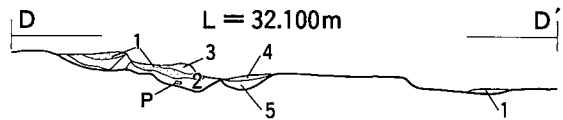
第4図 4号竖穴住居跡



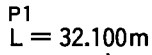
- 1 10YR 2/2 黒褐色土 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 2/2 黒褐色土と10YR 5/6 黄褐色土の混合土 粘性小締まりかなりあり
- 3 5YR 4/6 明赤褐色焼土・10YR 2/2 黒褐色土・10YR 5/6 黄褐色土の混合土 粘性小締まりかなりあり



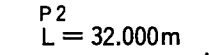
- 1 5YR 3/6 暗赤褐色焼土 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 4/4 褐色土と10YR 2/2 黒褐色土の混合土 粘性小締まりかなりあり
- 3 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 5/6 黄褐色土を含む 粘性小締まりかなりあり



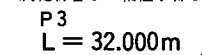
- 1 5YR 3/6 暗赤褐色焼土 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 4/4 褐色土と10YR 2/2 黒褐色土の混合土 粘性小締まりかなりあり
- 3 7.5YR 8/3 浅黄橙焼土 粘性小締まりかなりあり
- 4 10YR 4/4 褐色土・10YR 2/2 黒褐色土・5YR 3/6 暗赤褐色土 7.5YR 8/3 浅黄橙土混合土 炭化物含む 粘性小締まりかなりあり
- 5 10YR 4/4 褐色土 5YR 3/6 暗赤褐色土・7.5YR 8/3 浅黄橙土・炭化物含む 粘性小締まりかなりあり



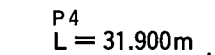
- 1 10YR 2/2 黒褐色土 5YR 5/6 明赤褐色焼土粒 微量を含む 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 4/4 褐色土 5YR 5/6 明赤褐色焼土粒 微量を含む 粘性小締まりかなりあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色土 5YR 5/6 明赤褐色焼土粒 微量を含む 粘性中締まりかなりあり



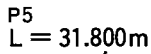
- 1 10YR 2/2 黒褐色土 5YR 5/6 明赤褐色焼土粒 微量を含む 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 2/2 黒褐色土と10YR 4/4 褐色土の混合土 粘性小締まりかなりあり



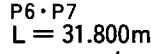
- 1 10YR 3/4 暗褐色土と10YR 2/2 黒褐色土の混合土 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土ブロック状混入 粘性小締まりかなりあり
- 3 10YR 4/4 褐色粘土 粘性中締まりかなりあり
- 4 10YR 2/2 黒褐色土 5YR 5/6 明赤褐色焼土を含む 粘性小締まりかなりあり



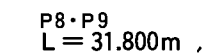
- 1 10YR 3/3 黒褐色土を主体に10YR 4/4 褐色土ブロック状に混入 粘性中締まりかなりあり
- 2 5YR 5/6 明赤褐色焼土を主体に10YR 4/4 褐色土と10YR 3/3 暗褐色土ブロック状に混入 粘性小締まりかなりあり



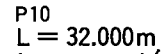
- 10YR 2/2 黒褐色土と10YR 4/4 褐色土の混合土 粘性小締まりかなりあり



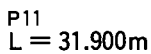
- 1 10YR 2/2 黒褐色土と10YR 4/4 褐色土の混合土 粘性小締まりかなりあり



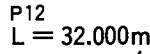
- 1 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土ブロック状混入 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 4/4 褐色土を主体に10YR 2/2 黒褐色土ブロック状混入 粘性小締まりかなりあり



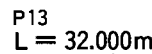
- 1 10YR 2/2 黒褐色土を主体に10YR 4/4 褐色土ブロック状に混入 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 4/4 褐色土を主体に10YR 2/2 を含む 粘性小締まりかなりあり
- 3 10YR 4/4 褐色土 粘性小締まりかなりあり



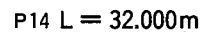
- 1 10YR 4/4 褐色土に10YR 2/2 黒褐色土をブロック状含む 粘性小締まりかなりあり
- 2 焼土面 10YR 2/2 黒褐色土 5YR 5/6 明赤褐色土を含む 粘性小締まりかなりあり



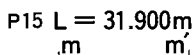
- 1 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土ブロック状混入 粘性小締まりかなりあり



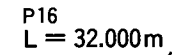
- 1 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土ブロック状混入 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 4/4 褐色土 10YR 2/2 黒褐色土を含む 粘性小締まりかなりあり



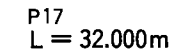
- 1 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土ブロック状混入 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 4/4 褐色土 5YR 5/6 明赤褐色焼土ブロック状混入 粘性中締まりかなりあり



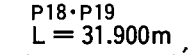
- 1 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土ブロック状混入 粘性小締まりかなりあり



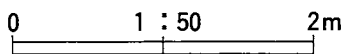
- 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土 15%含む 粘性中締まりかなりあり



- 1 10YR 4/4 褐色土 10YR 2/2 黒褐色土ブロック状に混入 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土ブロック状に混入 粘性小締まりかなりあり



- 1 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土ブロック状混入 粘性小締まりかなりあり
- 2 10YR 4/4 褐色土 5YR 5/6 明赤褐色焼土10YR 2/2 黒褐色土ブロック状混入 粘性小締まりかなりあり



第5図 4号竪穴住居跡(断面)



### (5) 5号竪穴住居跡

#### 遺 構 (第6図・写真図版7)

〈位置・重複関係〉 4号竪穴住居跡の精査後一段低く掘りこまれた所があり、4号カマド以外に焼土を検出したために、4号竪穴住居跡の下に5号竪穴住居跡として登録した。本遺構の方が古い。

〈規模・平面形・方向〉 規模は北壁約3.6m・南壁4.0m・東壁3.8m・西壁3.8mとほぼ隅丸の正方形に近い形状をしている。主軸方向は、4号竪穴住居とほぼ同じで、磁北に対して約10°西に偏している。

〈埋 土〉 埋土は1層で、黒褐色土と褐色土の混合土に明褐色土粒を含む土で構成されている。

〈壁〉 北壁中央の壁高は5cmほどで、南壁では壁に沿って土坑が多く検出されたために、はっきりとしない。また東壁中央の壁高は約3cmである。

〈床 面〉 褐色土の地山の土を掘り込んでいる。貼り床らしきものは検出されなかった。

〈柱穴・ピット〉 P1の断面は、黒褐色土に褐色ブロックが混入していて、柱痕の断面はなかったが、掘り方の形状が中央に柱痕をとどめているので、柱穴の可能性はある。P2の中端あたりから土師器の口縁部破片が出土している。

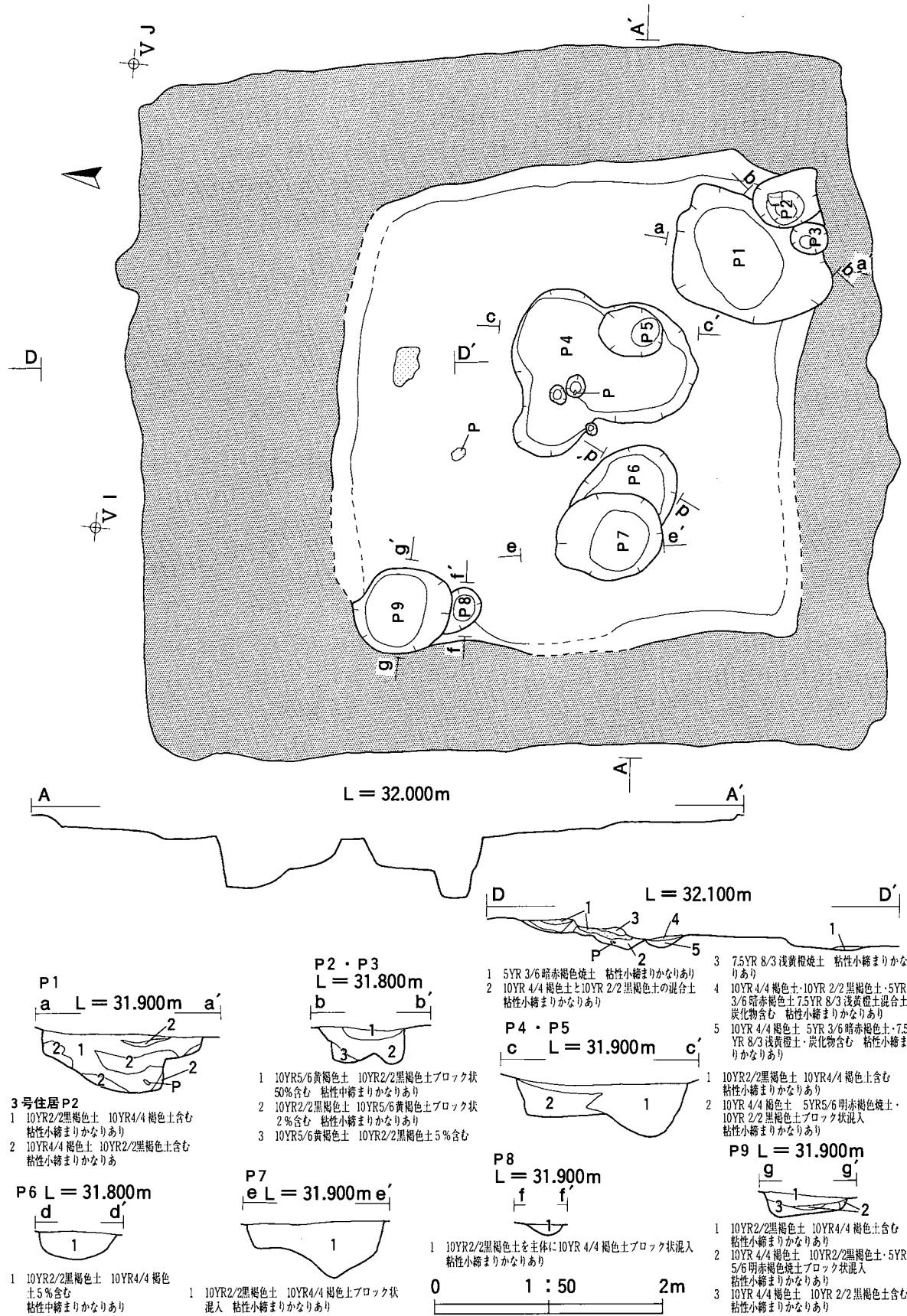
〈カマド〉 カマドは検出されなかったが、北側壁中央近くから焼土を検出した。焼土の規模は径30cm×20cmの不整形をしている。焼土の厚さは約4cmほどである。

#### 遺 物 (第26、27図・写真図版19)

遺物は一括に取り上げてしまい、後から4号住居跡と重複して出土したために、5号住居床面から検出された分かる遺物は、1点(68)のみである。須恵器の甕の底部で、硯として使用した痕跡が見られた。

#### 時 期

平安時代のものと思われる。



第6図 5号竪穴住居跡

## (6) 6号竪穴住居跡

### 遺 構 (第7図・写真図版8)

〈位置・重複関係〉 調査区の南西部調査区境界線付近グリッドⅦC区内に位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 本遺構は、南の調査区外に延びており、全体的な規模は不明であるが、調査区内の北辺約3.3m、西辺1.2m、東辺0.9mである。平面形は不明であるが、隅丸の長方形ないしは正方形の形をしていると推測される。

〈埋 土〉 黒褐色土を主体とした3層よりなる。レンズ状ではないが、それに近い堆積状況から自然堆積と思われる。

〈 壁 〉 褐色土(地山)を掘り込んで構築している。北壁の壁高は約10cmで、西壁の中央付近の壁高は約5cm、東の壁高は約5cmで、浅く残存率が悪い。

〈床 面〉 カマド付近および西側は約5cmの黒褐色と地山ブロックの貼り床を施している。

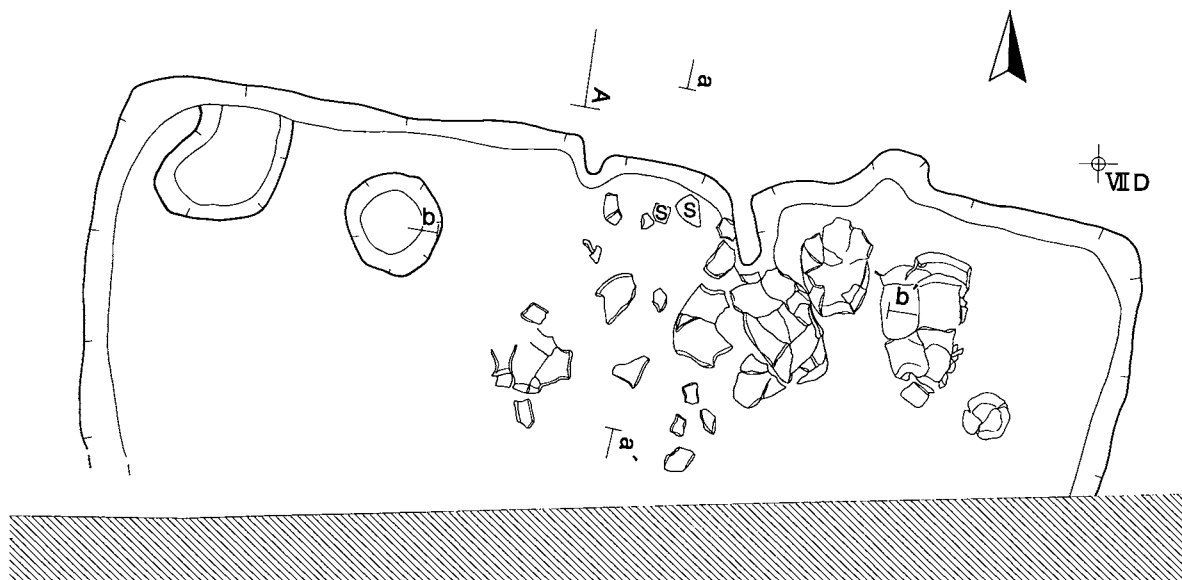
〈柱穴・ピット〉 P1は、カマドのそでの約40cm西側に位置する。住居の床面から検出し、黒褐色と地山ブロックが混入した土が埋土である。

〈カマド〉 カマドは北壁中央付近に設置され、袖部と燃焼部の一部を検出したが、煙道部・煙り出し部は削平されていた。袖部の規模は幅が約1m、奥行き約60cmあり、左袖部は幅約30cm・奥行き70cmで、右側の袖は幅約15cm・奥行き約60cmである。袖部は黒褐色シルトと褐色土(地山)の混合土で構築されている。燃焼部は壁際に2つの河川礫を平らに砕いた石が支脚に用いられている。焼土は左の袖付近から約50cm・奥行き60cm、厚さは約5cmほどの範囲で焼き口部前から支脚付近まで広がっている。

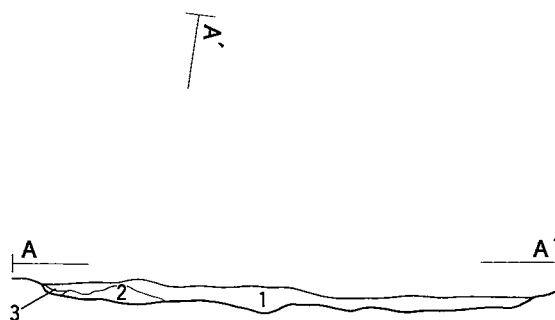
### 遺 物 (第28図版・写真図版19、20)

〈出土状況〉 カマドの右袖付近床面からつぶれた甕3つが出土した。2つとも、底部にあたるものがなかった。また、本遺構の東側から完形の内黒の土師器の坏が出土している。

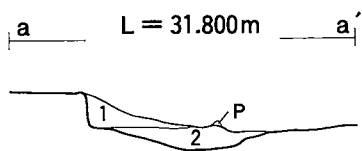
〈遺 物〉 83は甕で、ほぼ胴部上部に最大径をもつ。胴部外面には平行の斜めタタキがあり、胴部上面に沈線が見られ、その中に斜めの沈線が連続して入っている。タタキの後に胴部上面はナデ、下面はケズリ調整が部分的にみられる。82は長胴甕で底部がない。器高は約33cmで、口径は約23cm、底径は約9cmである。口縁部に最大径をもち、頸部は丸みをおびている。頸部はヨコナデが施されており、頸部下から胴部下にかけて縦方向のケズリ調整が全体に施されている。胴部下には横斜めのケズリ調整がみられる。内面は口縁部から胴部下にかけてロクロナデがみられる。85は土師器(酸化炎焼成)の甕でこれも底部がない。胴部上部外面には並行タタキ目があり、それをナデで磨り消している。ヨコにヘラナデ調整をしている。頸部は丸みをおびて外傾し、口唇部はやや内側に直線的に内傾(5mm)している。内面の口唇部の端に沈線状のものが確認できる。81は長胴甕で、胴部には並行タタキの後にナデ、中部から下部にかけてヘラケズリ調整が施されている。内面はハケメの調整が施されている。76は土師器の坏で、内面はミガキ後内黒処理をしている。内外面ともに摩滅が激しく調整がほとんど消えている。



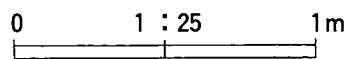
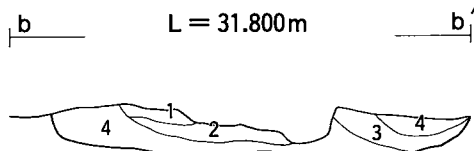
調査区外



- 1 10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土微量含む  
粘性小縮まりかなりあり
- 2 5YR 5/6 明赤褐色焼土に10YR 2/2 黒褐色土微量含む  
性小縮まりかなりあり
- 3 10YR 4/4 褐色土 粘性小縮まりかなりあり



- 1 5YR 4/6 赤褐色・5YR 7/6  
橙色焼土と10YR 2/2 黒褐色  
土の混合土  
粘性小縮まりかなりあり
- 2 5YR 4/6 赤褐色焼土  
粘性小縮まりかなりあり
- 3 10YR 2/2 黒褐色土主体10Y  
R 4/4 褐色土と5YR 5/6 明  
赤褐色焼土ブロック状に混入  
粘性小 縮まりかなりあり
- 4 10YR 4/4 褐色土  
粘性小 縮まりかなりあり



第7図 6号竪穴住居跡

## (7) 7号竪穴住居跡

### 遺 構 (第8図・写真図版9)

〈位置・重複関係〉 調査区の北西グリッドIVD、IVEに位置する。重複する遺構は3号陥し穴と14号土坑である。3号陥し穴は本遺構より古く、14号土坑は本遺構より新しい。

〈規模・平面形・方向〉 規模は南北軸3.6m・東西軸3.3mである。主軸方向が磁北に対して約10°北に偏した隅丸の方形である。

〈埋 土〉 黒褐色土主体に地山ブロックや焼土粒が混入する4層よりなる。人為的に埋められている。

〈 壁 〉 北壁で壁高4～9cm、西壁で7～20cm、南壁で11cm前後、東壁で9～11cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

〈床 面〉 床は褐色層(地山)で構築され、貼り床されることなくそのまま床面として使用されている。中央からやや東側は1段高くなっている。

〈柱穴・ピット〉 柱穴と思われるものは検出されなかった。北東隅の土坑は床面上から検出されている。

〈カマド〉 カマドの検出はされなかったが、東壁付近より焼土を検出した。検出面は床面より約10cm前後上部で検出した。規模は70cm×50cmの不整形をしており、厚さは中央付近で8cm前後である。焼土断面から、焼土の右端付近より、焼土ブロックと黒褐色の混合土が断面に円形状に残っており、袖の可能性もある。当初カマドはあったが、上の面で削平されてなくなってしまった可能性が高い。

### 遺 物 (第28図版・写真図版20)

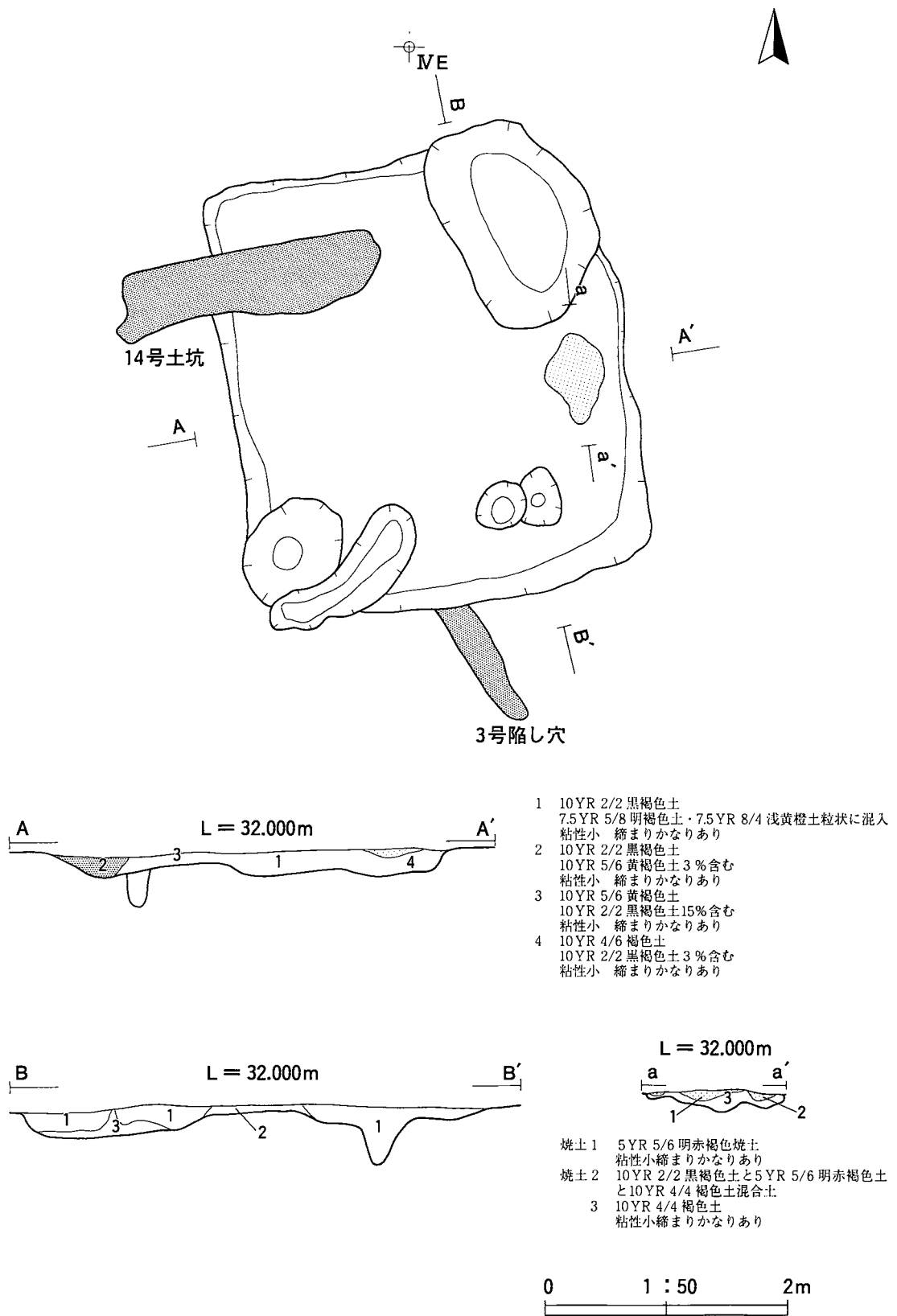
〈出土状況〉 遺物は検出面もしくは埋土中部から出土している。

床面からは須恵器の坏の口縁部や底部の破片が出ている。回転糸切り無調整の須恵器坏の底部破片が出土している。

〈出土遺物〉 86は土師器の坏の口縁部から底部にかけての破片である。口径15cm、底径8cm、器高3.5cmである。外面はナデ調整をしている。87は須恵器の甕の口縁部破片である。88は土師器の甕の底部で、木葉痕がある。89も土師器の甕の底部で、木葉痕がある。

### 時 期

平安時代のものと思われる。



第8図 7号竪穴住居跡

### 3 住居状遺構

#### 遺 構 (第9図)

〈位置・重複関係〉 調査区中央北側畦畔付近グリッドⅢ～ⅣK付近より検出。焼土も柱穴も検出されず、住居状遺構として登録した。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 全体的な規模は、調査区外に延びているために不明である。平面形は磁北に対し、約10度東に偏した隅丸方形の形をしているものと推測される。

〈埋 土〉 黒褐色主体に地山ブロック（褐色土）が入った単層である。北側は、削平されてほとんど残っていない。埋土の上面の削平ではっきりしない。

〈床〉 褐色土層（地山）を掘り込んで形成されている。貼り床はない。

〈柱穴・ピット〉 確認されなかった。

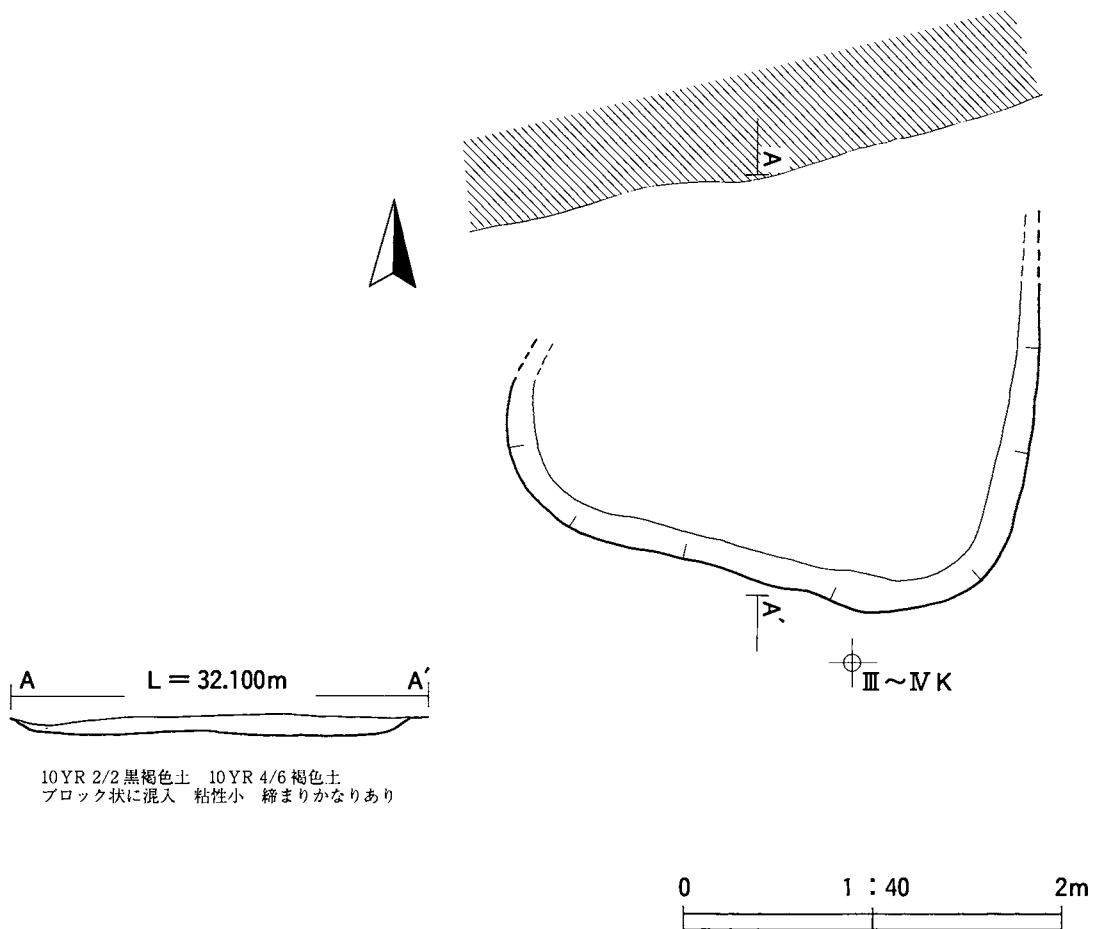
〈カマド〉 検出されていない。

#### 遺 物 (写真図版20)

埋土中より90（土師器の坏の口縁部～胴部の破片）91（須恵器の甕の胴部；外面格子状タタキ痕内面ヨコナデ）92（須恵器の胴部破片；外面に並行タタキ目痕。内面当て具痕）

#### 時 期

平安時代のものと思われる。



第9図 住 居 状

## 4 土坑

およそ最大径が1 mを越えるもので、掘立柱建物跡や陥し穴などにならないものを土坑として登録した。登録数は18基である。

### 1・2・3号土坑

遺 構 (第10図・写真図版10)

〈位置・重複関係〉 調査区中央からやや北東よりの1号溝近くグリッドII M-N、III N内に1・2・3号土坑が並列して検出された。

〈規模・平面形〉 1・2・3号土坑の規模平面形は、次の通りである。(単位；m)

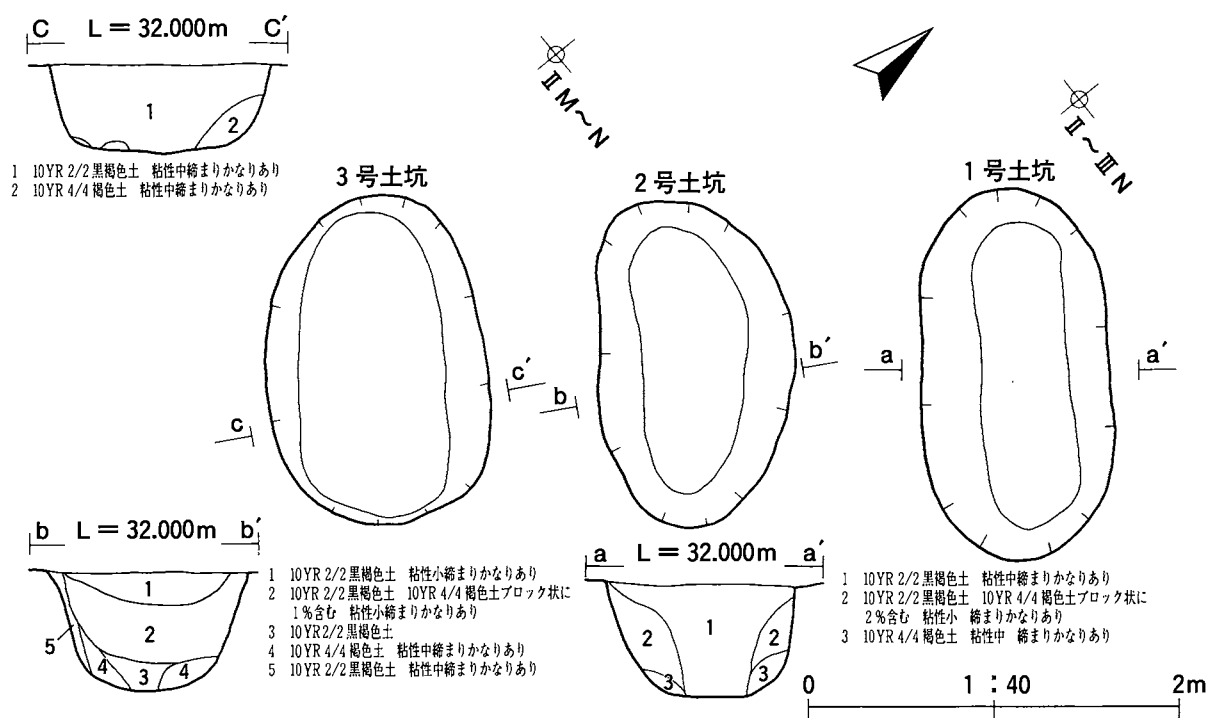
土 坑 No	検出面の長軸×短軸	底面の長軸×短軸	深 さ	平 面 形
1号土坑	2.0×1.0	1.6×0.5	0.6	楕 円 形
2号土坑	1.8×1.0	1.4×0.6	0.6	不整な楕円形
3号土坑	1.8×1.2	1.6×0.8	0.5	不整な楕円形

長軸の方向は、ほぼ同じ方向で、主軸が磁北に対して20°西に偏している。

この1・2・3号土坑からは遺物が出土していないが、墓穴の可能性もある。

〈埋 土〉 埋土は、それぞれ黒褐色土を主体にして地山ブロックの混入の割合で、2層・5層・3層に分かれる。1号土坑の2・3層は上端の地山ブロックが崩れた層と考えられる。また2号土坑はレンズ状の自然堆積の様相を呈している。3号土坑の下端付近の層も地山が崩れた層ととらえることができる。3号土坑の堆積状況は、自然堆積なのか人為的なものなのか確定できない。

遺物及び時期 1・2・3号土坑とも遺物は出土していない。時期は不明である。



第10図 1号・2号・3号土坑



#### 4号土坑

遺構（第11図・写真図版10）

〈位置・重複関係〉 グリッドⅢR区に位置し、1号陥し穴と重複する。本遺構の方が新しい。

〈規模・平面形〉 規模は直径約1mの円形である。深さは約10cmである。

〈埋土〉 埋土は、黒褐色土主体に地山ブロックが混入する単層である。人為的に埋めたものと推測される。

遺物及び時期

出土遺物はなく、時期は不明である。

#### 5号土坑

遺構（第11図・写真図版10）

〈位置・重複関係〉 グリッドⅣR区に位置する。

〈規模・平面形〉 規模は約1.3m×1.2mの不整な円形を呈している。深さは約60cmで、底部はほぼ平らで壁は徐々に立ち上がる。

〈埋土〉 埋土は黒褐色土を主体に褐色ブロック（地山）の混入度によって2層に分かれる。

遺物及び時期（写真図版20）

埋土下部より106（土師器の坏の口縁部破片、内黒処理をしている。）が1点だけ出土。流れこみによる可能性もある。時期は、出土遺物から平安時代のもと思われる。

#### 6号土坑

遺構（第11図・写真図版10）

〈位置・重複関係〉 グリッドⅣQ区に位置する。

〈規模・平面形〉 規模は約1.0m×0.9mの不整な円形を呈する。

〈埋土〉 埋土は黒褐色土と地山ブロックが入った2層である。堆積状況は不明である。

遺物及び時期

出土遺物はなく、時期が不明である。

#### 7号土坑

遺構（第11図・写真図版11）

〈位置・重複関係〉 調査区の南東側、2号竪穴住居跡から西北西3mのグリッドⅤN区に位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉 規模は1.8m×1.2mの楕円形を呈する。

〈埋土〉 黒褐色土主体に褐色土ブロック（地山ブロック）が混入する。断面形は左が狭く右が広い。

遺物及び時期

107は土師器の甕の底部～胴部にかけてのものである。

#### 8号土坑

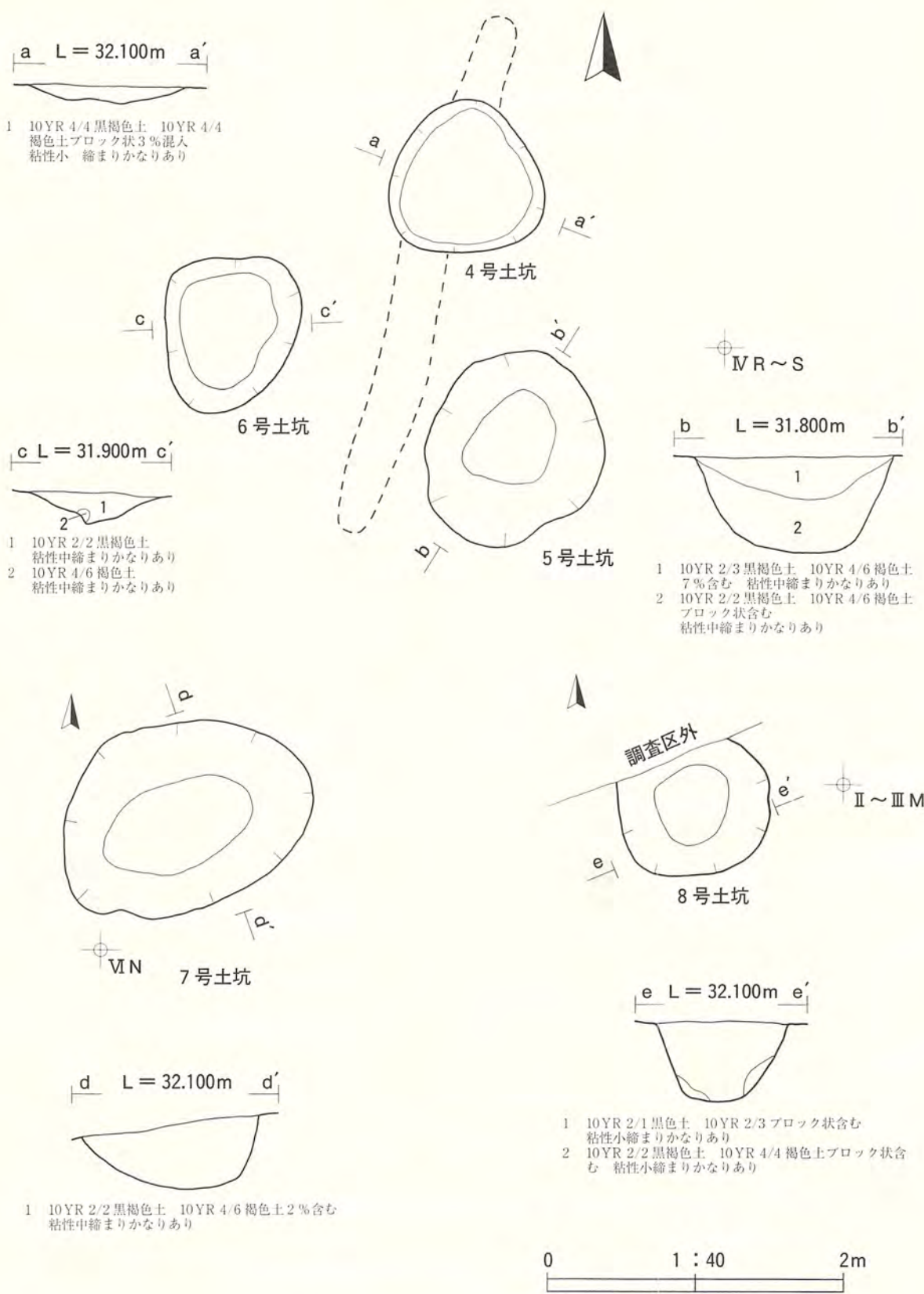
遺構（第11図・写真図版11）

〈位置・重複関係〉 調査区の中央よりやや東の北側調査区境界沿いのグリッドⅡL区の畦畔に接して検出された。重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉 規模は径1mの円形を呈する。北側は境界線で切られている。

〈埋土〉 黒色土・黒褐色土を主体に地山ブロックが混入する2層に分かれる。

遺物及び時期 遺物の出土はなく、時期は不明である。



第11図 4号・5号・6号・7号・8号土坑

## 9号土坑

### 遺構 (第12図・写真図版11)

〈位置・重複関係〉 調査区の中央よりやや東側の1号溝の西端から東に3m付近グリッドⅣL区内に位置する。重複する遺構は、柱穴状のピットであり、柱穴状のピットの方が新しい。

〈規模・平面形〉 規模は径1.0m×0.9mで、ほぼ円形を呈する。

〈埋土〉 黒褐色土を主体に暗褐色土を含む単層である。

### 遺物及び時期

遺物の出土はなく、時期は不明である。

## 10号土坑

### 遺構 (第12図・写真図版12)

〈位置・重複関係〉 調査区の中央1号溝の西端付近のグリッドⅣKに位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉 規模は約0.9m×0.6m深さ10cmで、隅丸方形を呈する。

〈埋土〉 埋土は黒褐色土主体に地山ブロックが混入する単層である。

人為的に埋められた可能性が高い。

### 遺物及び時期

遺物の出土はなく、時期は不明である。

## 11号土坑

### 遺構 (第12図・写真図版12)

〈位置・重複関係〉 調査区の中央グリッドⅤKに位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉 規模は約1m×0.9mで、およそ楕円形を呈し、底面は、0.4m×0.3mの円形を呈する。深さは約20cmである。

〈埋土〉 黒褐色土の単層である。

### 遺物及び時期

遺物の出土はなく、時期は不明である。

## 12号土坑

### 遺構 (第12図・写真図版12)

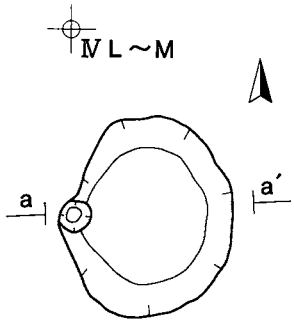
〈位置・重複関係〉 調査区の中央グリッドⅤJに位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉 規模は約1.1m×0.6mで、およそ隅丸方形を呈する。底面は約0.8m×0.4mの楕円形を呈する。

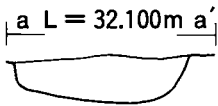
〈埋土〉 黒褐色土に地山ブロックが混入する単層である。

### 遺物及び時期

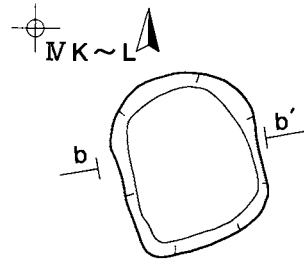
遺物の出土はなく、時期は不明である。



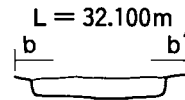
9号土坑



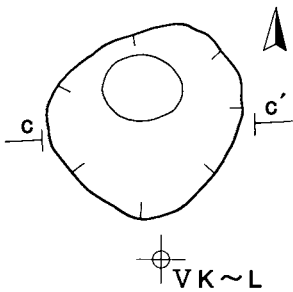
10YR 2/2 黒褐色土 10YR 3/4 暗褐色土 3% 含む  
粘性小締まりかなりあり



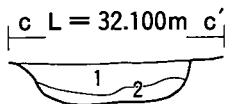
10号土坑



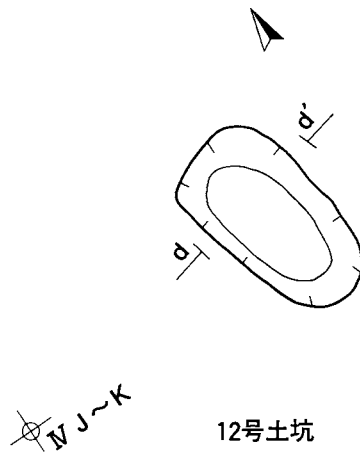
10YR 2/2 黒褐色土 10YR 4/4 褐色土がブロック  
状に混入 粘性小締まりかなりあり



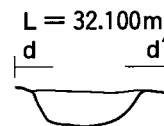
11号土坑



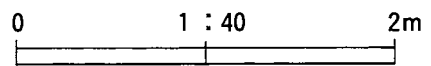
1 10YR 2/2 黒褐色土 粘性中締まりかなりあり  
2 掘り過ぎ



12号土坑



10YR 2/2 黒褐色土 10YR 3/4 暗褐色土ブロック状混入  
粘性中締まりかなりあり



第12図 9号・10号・11号・12号土坑

### 13号土坑

#### 遺 構 (第13図・写真図版12)

〈位置・重複関係〉 調査区西側のグリッドV F内に位置する重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉 規模は1.4m×0.6mで、ほぼ長方形を呈する。底面は1.2m×0.5mで長方形を呈する。深さは約40cmである。形状・規模から墓穴の可能性もある。

〈埋 土〉 黒褐色土の単層である。

#### 遺物及び時期

遺物の出土はなく、時期は不明である。

### 14号土坑

#### 遺 構 (第13図・写真図版13)

〈位置・重複関係〉 調査区西北側グリッドIV D内に位置し、7号住居に重複している。本遺構の方が新しい。

〈規模・平面形〉 規模は約2.1m×0.6mで、ほぼ長方形を呈する。底面はほぼ真ん中から住居側が深くなっている。形状・規模から墓穴の可能性はある。

〈埋 土〉 黒色土と黒褐色土の混合土を主体に焼土粒が含まれているので2層に分かれる。

#### 遺物及び時期

遺物の出土はなく、時期は不明である。

### 15号土坑

#### 遺 構 (第13図・写真図版13)

〈位置・重複関係〉 調査区西南側グリッドVI C内に位置する。重複する遺構は柱穴状ピットで、本遺構の方が新しい。

〈規模・平面形〉 規模は約1.1m×0.5mで、不整な楕円形を呈する。

〈埋 土〉 黒褐色土を主体に焼土ブロック、地山ブロックの混入の割合から3層に分かれる。

#### 遺物及び時期

遺物の出土はなく、時期は不明である。

### 16号土坑

#### 遺 構 (第13図・写真図版13)

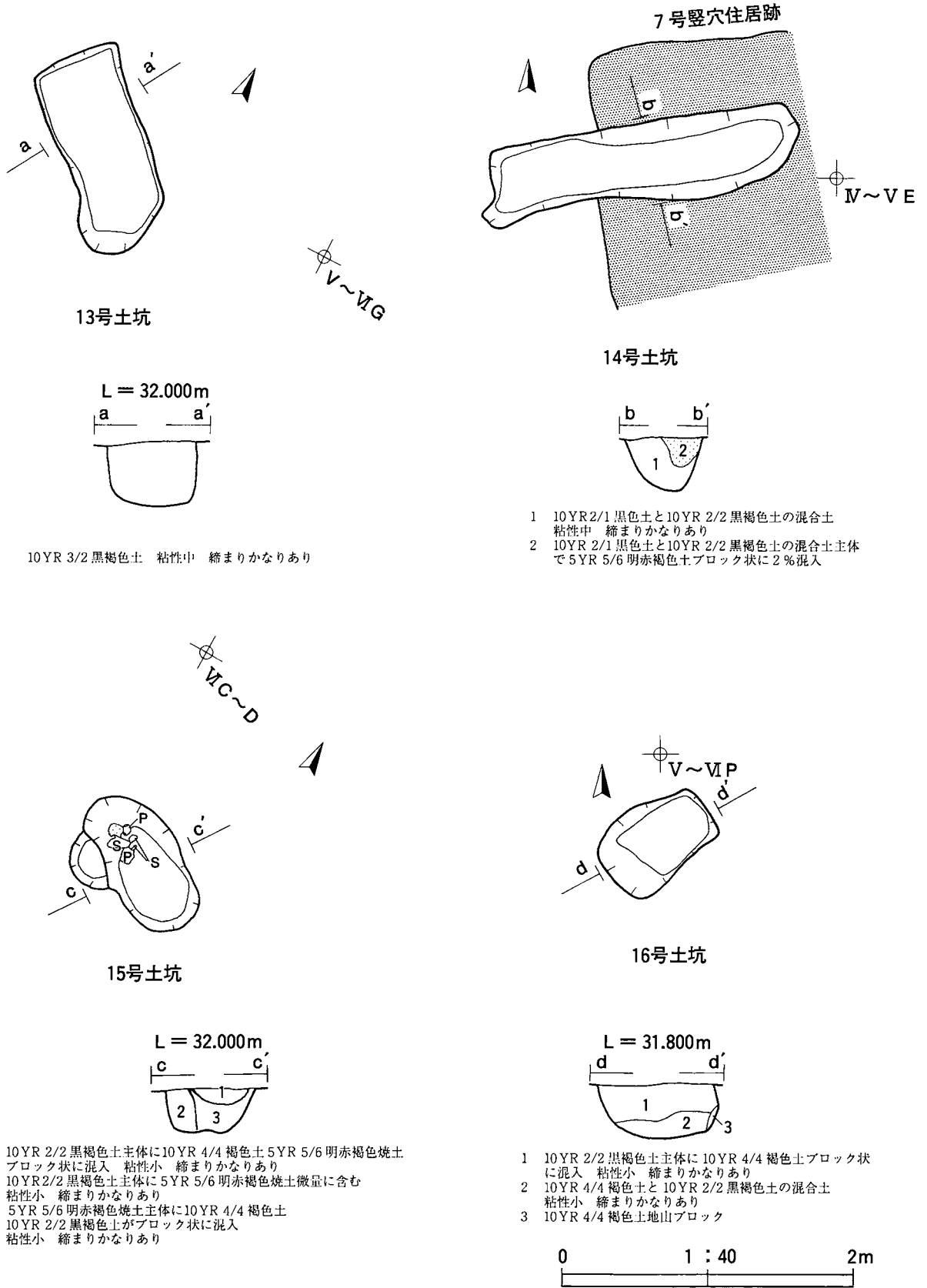
〈位置・重複関係〉 調査区の西側のVB区内に位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉 規模は約0.8m×0.5mで、不整な長方形を呈する。底部は約0.6m×0.4mである。

〈埋 土〉 断面の形状は断面左側で比較的ゆるやかに立ち上がり、右側で中端を境に内傾して立ち上がる。埋土は黒褐色を主体に褐色土（地山ブロック）の混入と色相で3層に分かれる。

最初は自然堆積で、途中から人為的に埋められた可能性がある。

**遺物及び時期** 遺物の出土はなく、時期は不明である。



第13図 13号・14号・15号・16号土坑

## 17号土坑

### 遺構 (第14図・写真図版13)

〈位置・重複関係〉 調査区の西側のグリッドVI B区内に位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉 開口部は約0.8m×0.8mで、隅丸の正方形を呈する。

〈埋土〉 断面形は隅丸の逆台形を呈する。埋土は柱痕部分で黒褐色土、その回りは地山のブロックが混入している土である。

### 遺物及び時期

遺物の出土はなく、時期は不明である。

## 18号土坑

### 遺構 (第14図・写真図版13)

〈位置・重複関係〉 調査区の西南側6号竪穴住居跡から南に約1mのところグリッドVID区内に位置する。重複する遺構はない。

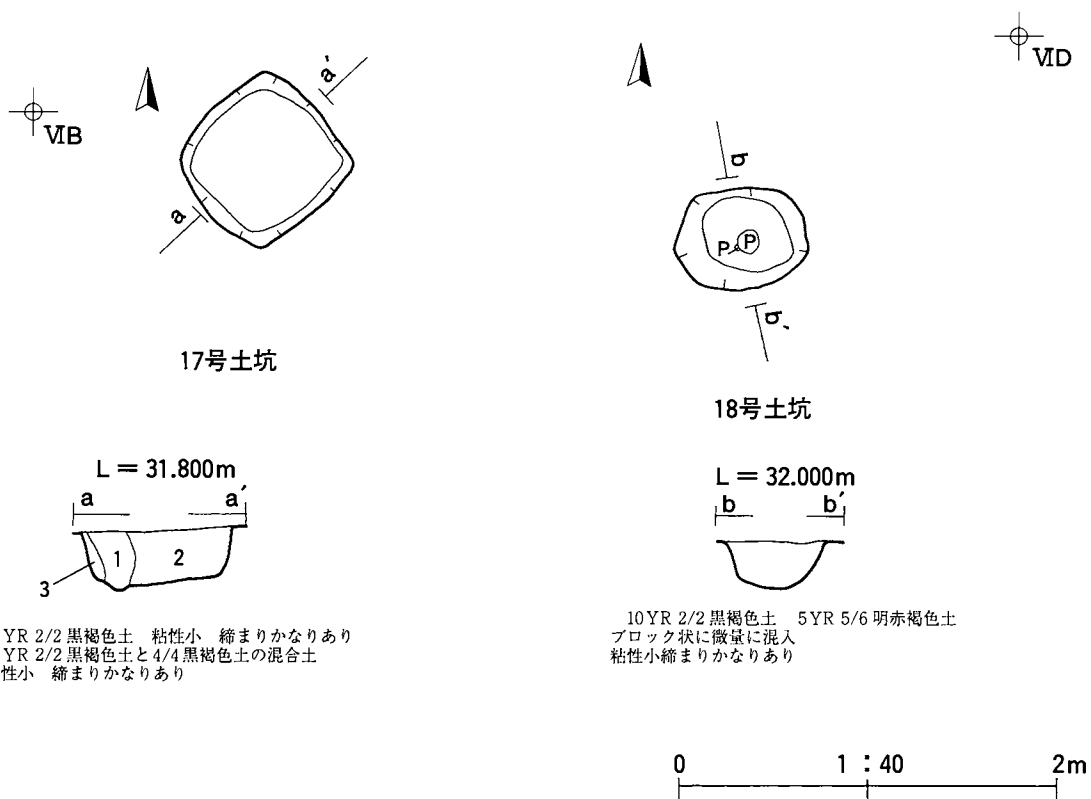
〈規模・平面形〉 開口部は約1.4m×1.1mの円形に近い楕円形を呈する。

〈埋土〉 断面形は半円状で、左の壁はほぼ垂直に立ち上がり、右はそれに比較してゆるやかである。

埋土は黒褐色土を主体にして、地山ブロック・焼土粒が混じる単層である。

### 遺物及び時期 (第28図・写真図版20)

遺物は埋土中部より93 (土師器の皿で、回転糸切り無調整口径は約11cm、底径が約5cm、器高が約3cmと小ぶりの坏である。胴部外面はナデ調整をほどこしている。口縁部はやや外湾し、段がある。) が出土している。時期は遺物から平安時代10世紀後半～11世紀ごろのものと思われる。



- 1 10YR 2/2 黒褐色土 粘性小 締まりかなりあり
- 2 10YR 2/2 黒褐色土と4/4 黒褐色土の混合土 粘性小 締まりかなりあり

10YR 2/2 黒褐色土 5YR 5/6 明赤褐色土  
ブロック状に微量に混入  
粘性小 締まりかなりあり

第14図 17号・18号土坑

## 5 円形周溝

### 遺構 (第15図・写真図版14)

〈位置・重複関係〉 1号竪穴住居跡と2号竪穴住居跡をはさんで、円形周溝が検出された。重複する遺構は3号溝で本遺構の方が古い。

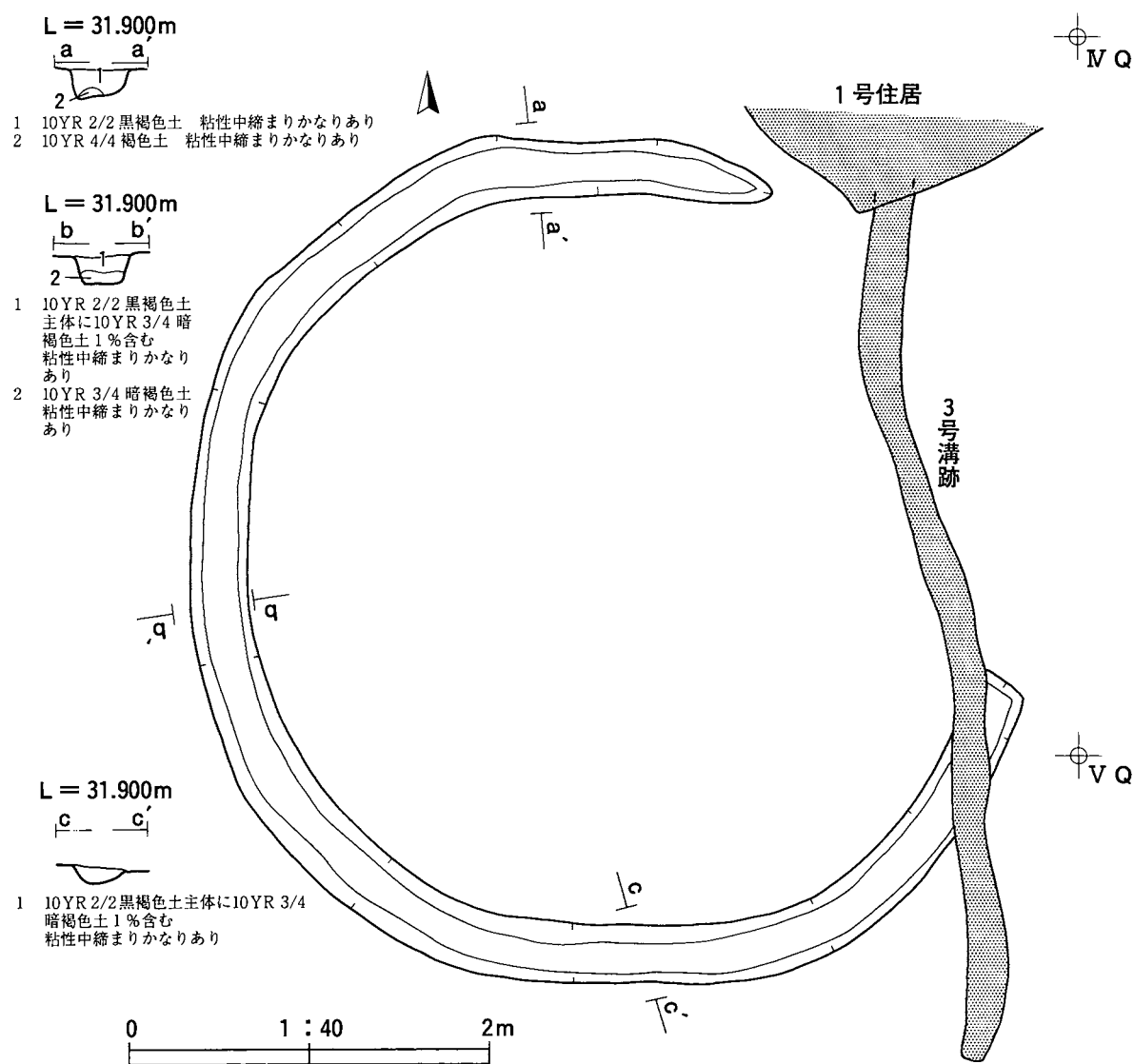
〈規模・平面形〉 南北の間隔(直径)は約4.4mあり、平面形はほぼ円形を呈する。

検出面の幅は約30~38cmで、底面の幅は約16~20cmである。

〈埋土・断面〉 北側の断面形は左側がやや深くなっていて逆台形を斜めにした形状をしている。埋土は黒褐色土と褐色土の2層である。西側の断面形はほぼ下端が丸みを帯びたバケツ状で、埋土は黒褐色土と暗褐色土の2層である。南側の断面形は凸レンズ状で、埋土は黒褐色土の単層である。自然堆積したものと思われる。

### 遺物・時期 (写真図版20)

埋土上部(黒褐色土)より出土した109(土師器の甕の口縁部破片)、110(須恵器の坏の口縁部破片) 111(土師器の坏の口縁部破片)の遺物は流れこんだものの可能性があるが、平安時代のものと思われる。





## 6 溝跡

調査区の北東側で2条と中央の南側で1条の計3条の溝跡を検出した。

### (1) 1号溝跡

遺構(第16図・写真図版15)

〈位置・重複関係〉 調査区の北東側グリッドⅣL、ⅢM～Oに位置する。重複する遺構は旧7号土坑と柱穴状小ピット2つである。旧7号土坑より本遺構の方が新しく、さらに柱穴状小ピットは本遺構より新しい。

〈規模・平面形・深さ〉 全長14.5mで、東西軸に対して約10°北に偏している。ほぼ直線状に掘られている。開口部の幅は26cm～46cmで、底面の幅は10～28cmで、深さは5～13cmと浅く、上面で削平されていた可能性がある。

〈埋土〉 埋土は黒褐色土を主体に地山ブロックが混入するかで、場所によって2層ないし1層に分かれる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がる。底は丸みを帯びている。

遺物及び時期(写真図版20)

埋土中より101(土師器の坏の口縁部から胴部にかけての破片)が出土した。口唇部外面に黒色処理をし、内面はミガキの後黒色処理を施している。遺物から平安時代のもものと推測される。

### (2) 2号溝跡

遺構(第16図・写真図版15)

〈位置・重複関係〉 調査区の南側調査区境界沿いのグリッドⅦI～ⅦL内に位置する。重複する遺構は西端付近の本遺構の底面に柱穴状小ピットが重複している。柱穴状小ピットの方が新しい。

〈規模・平面形・深さ〉 全長約18.2mで、やや東西軸に対して約10°北に偏していて、1号溝跡と平行に向いている。ほぼ直線状に掘られている。検出面の幅は30～40cmで、中央付近が54cmとふくらんでいる。底面の幅は10～30cmである。深さは約7～23cmで、中央よりやや西側が深くなっている。

〈埋土〉 埋土は黒褐色土の単層である。

〈壁・底面〉 壁は、外傾ぎみに立ち上がる。底は丸みを帯びている。

遺物及び時期(写真図版20)

埋土中間(黒褐色層)より102(須恵器の甕の胴部で、外面にヘラケズリ、ナデ調整がみられ、内面はナデ調整を施している。)が出土。遺物から平安時代のもものと推測される。

### (3) 3号溝跡

遺構(第16図・写真図版15)

〈位置・重複関係〉 調査区の東側1号竪穴住居跡と2号竪穴住居跡を連絡するかのようになり、また円形周溝に接して3号溝跡を検出した。重複する遺構は1号竪穴住居跡と円形周溝で、本遺構の方が新しい。

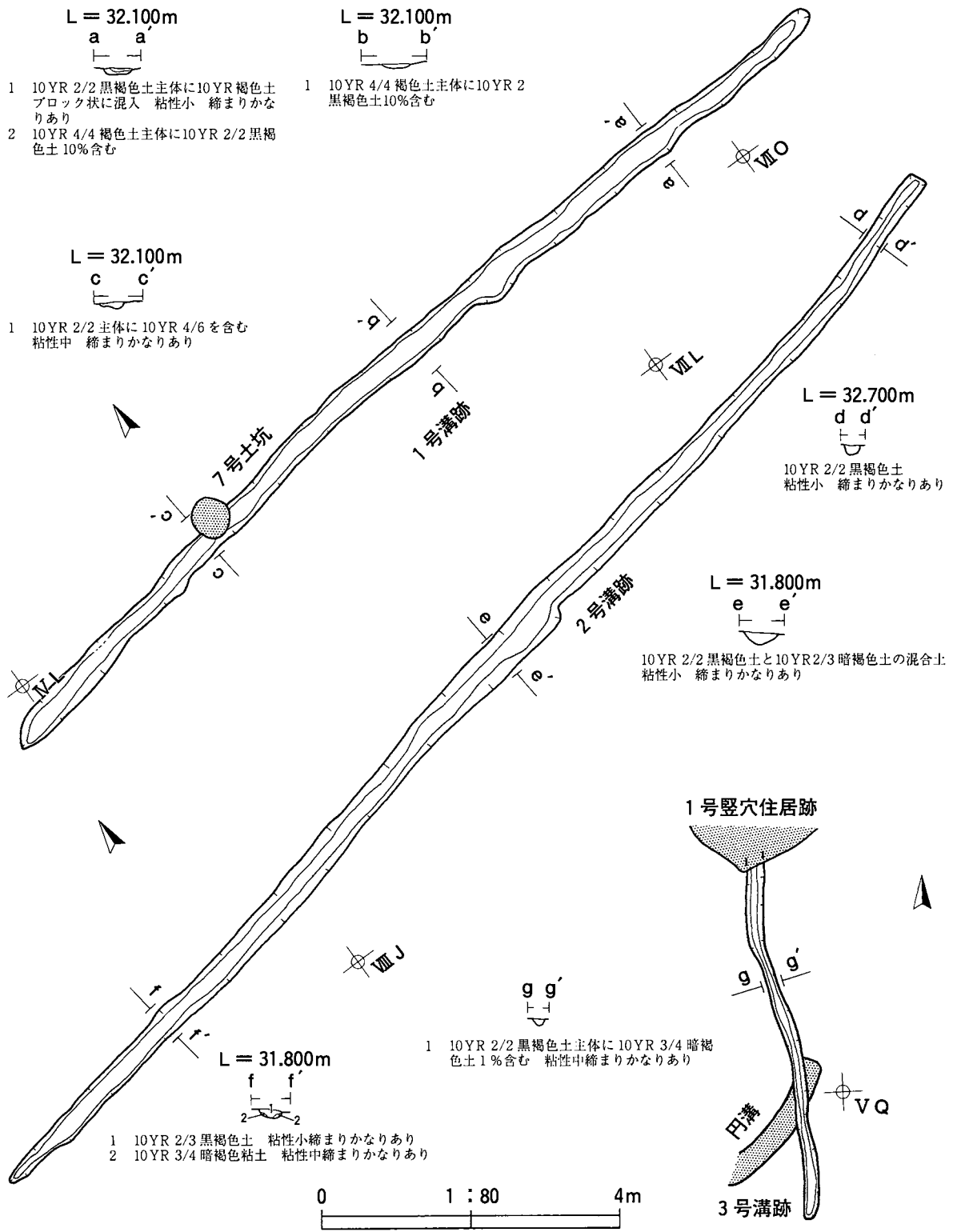
〈規模・平面形・深さ〉 全長約4.8mで、直線もしくはややS字状に蛇行している。検出面の幅は約12～22cmである。底部の幅は4～12cmである。深さは6～12cmで、南端はやや浅くなっている。

〈埋土〉 黒褐色土を主体にした暗褐色土を少量含む単層である。

〈壁・底面〉 外傾ぎみに立ち上がる。底は丸みを帯びている。

遺物及び時期(写真図版20)

埋土上面から、103(土師器の坏の口縁部破片;内面をミガキ内黒処理をしている。)104(土師器の坏の底部切り離し)105(土師器の坏の底部破片)が出土している。遺物から平安時代のもものと推測される。



第16図 1号・2号・3号溝跡

## 7 陥し穴状遺構

調査区で、陥し穴を4基検出した。

### (1) 1号陥し穴状遺構

遺 構 (第17図・写真図版16)

〈位置・重複関係〉 調査区の東側のグリッドⅢ～ⅣRに位置する。重複する遺構は4号土坑で、本遺構の方が古い。

〈規模・平面形・方向〉 長軸は開口部も底面も約3.6mで、若干開口部の方が長い。幅は開口部が約35cmで、底面が約15cmである。平面形は溝状を呈する。長軸の方向は磁北に対して約15°東に偏している。

〈断面形・深さ〉 長軸の断面はほぼバケツ状を呈し、短軸の断面は先が丸みを帯びたV字状を呈する。深さは約40～50cmである。

〈埋 土〉 黒褐色土を主体に地山ブロックの混入で、2層に分かれる。

遺物及び時期

出土していない。時期の特定はできないが、埋土の様相や形状の類型から縄文時代のものと推測される。

### (2) 2号陥し穴状遺構

遺 構 (第17図・写真図版16)

〈位置・重複関係〉 調査区の中央、4号竪穴住居跡の1m東のグリッドV～VIK区内に位置する。

〈規模・平面形・方向〉 長軸は開口部約2.9m・底面約2.8mで、開口部の方が若干長い。幅は開口部20～36cm、底面約4～20cmである。中央がやや幅が狭くなっている。平面形は溝状を呈する。長軸の方向は磁北に対し約55°東に偏している。

〈断面形・深さ〉 長軸の断面はほぼバケツ状を呈し、短軸の断面は先が丸みを帯びたV字状を呈する。深さは約20cmである。

〈埋 土〉 埋土は黒褐色土を主体に地山ブロック混入で、2層に分かれる。

遺物及び時期

出土していない。時期の特定はできないが、埋土の様相や形状の類型から縄文時代のものと推測される。

### (3) 3号陥し穴状遺構

遺 構 (第17図・写真図版16)

〈位置・重複関係〉 調査区の西側、グリッドV～VIEに位置し、7号竪穴住居跡に重複して検出された。本遺構の方が古い。

〈規模・平面形・方向〉 検出面の長軸は約2.9m、底面の長軸は約3.0mであり、底面の長軸の方が長い。また、検出面の幅は約20～28cm、底面の幅は約12～26cmである。平面形は溝状を呈する。長軸の方向は磁北に対し、約30°西に偏している。

〈断面形・深さ〉 長軸の断面は右側がフラスコ状で、左側が垂直に壁が立ち上がる。短軸の断面形は、ビーカー形に近似する。深さは約40～50cmである。

〈埋 土〉 埋土は黒褐色土を主体に地山ブロックの混入度で、2層に分かれる。

遺物及び時期

出土していない。時期の特定はできないが、埋土の様相や形状の類型から縄文時代のものと推測される。

(4) 4号陥し穴状遺構

遺構 (第17図・写真図版16)

〈位置・重複関係〉 調査区の南西グリッドVI～VII D区内に位置する。重複する遺構はない。

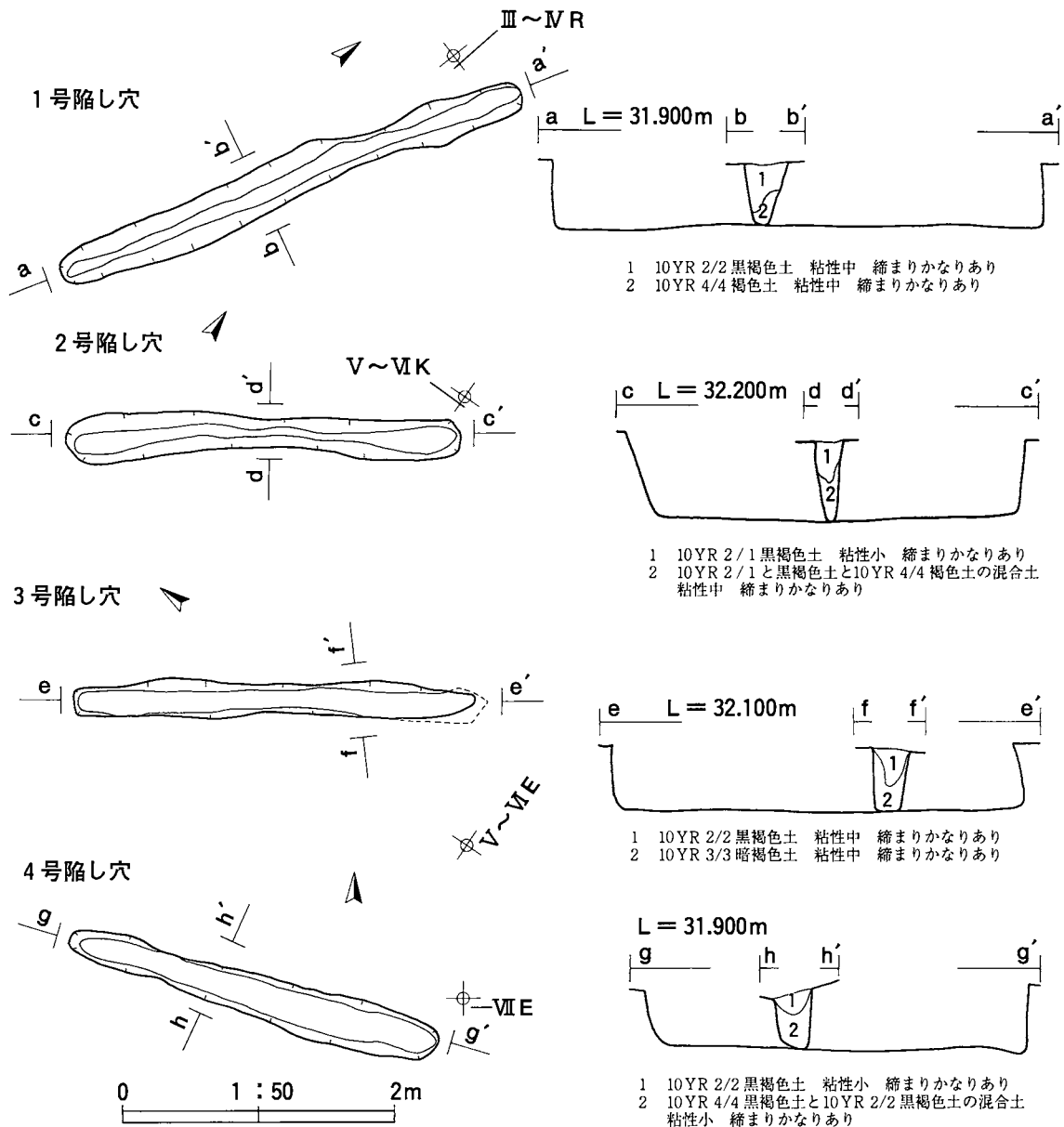
〈規模・平面形・方向〉 開口部の長軸は2.8m、底面の長軸は2.7mであり、開口部の方が若干長い。また、開口部の幅は20～38cmで、底面の幅は16～26cmである。平面形は溝状を呈する。長軸の方向は約70°西に偏している。

〈断面形・深さ〉 長軸の断面は右側が深くなっているが、ほぼバケツ状を呈する。深さは30～50cmで、南東側端の方が20cmほど浅くなっている。

〈埋土〉 黒褐色土を主体に地山ブロックの混入で2層に分かれる。

遺物及び時期

出土していない。時期の特定はできないが、埋土の様相と形状の類型から縄文時代のものと推測される。



第17図 1号・2号・3号・4号陥し穴

## 8 その他の遺構

当遺跡の発掘調査によって、柱穴状小ピットがいくつも検出されているが、掘立柱建物跡とするには規則的な配列を示す例がなく、建物跡とする根拠に欠ける場合がほとんどである。当遺跡の調査範囲は水田として利用されていたこともあり、耕作に伴う杭穴とも考えられるものもある。したがって、調査区を2つに区切り、58の柱穴状小土坑を柱穴群として登録した。

### (1) 東側調査区(柱穴群表(1)(2))

〈位置・重複関係〉 調査区の東側グリッドⅢ～Ⅶ(J～R)内に位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉 東側調査区には32の柱穴状小土坑を登録している。規模は大小様々であるが、径10cm～60cm、深さ7cm～54cmの規模であり、平面形は円形・楕円形・隅丸方形を呈する。

〈埋土・断面形〉 埋土は黒褐色土を中心に褐色土(地山ブロック)が混入している場合が多い。柱痕が認められるものはNo1である。

〈出土遺物〉 P26から100(土錘)が出土している。

### (2) 西側調査区(柱穴群表(3)(4))

〈位置・重複関係〉 調査区の西側グリッドⅣ～Ⅶ(A～H)グリッド内に位置する。重複する遺構はない。

〈規模・平面形〉 西側調査区には26基の柱穴状小土坑を登録している。規模は大小様々であるが、径16～54cm、深さ8～57cmの規模であり、平面形は円形・楕円形を呈し、隅丸方形はない。

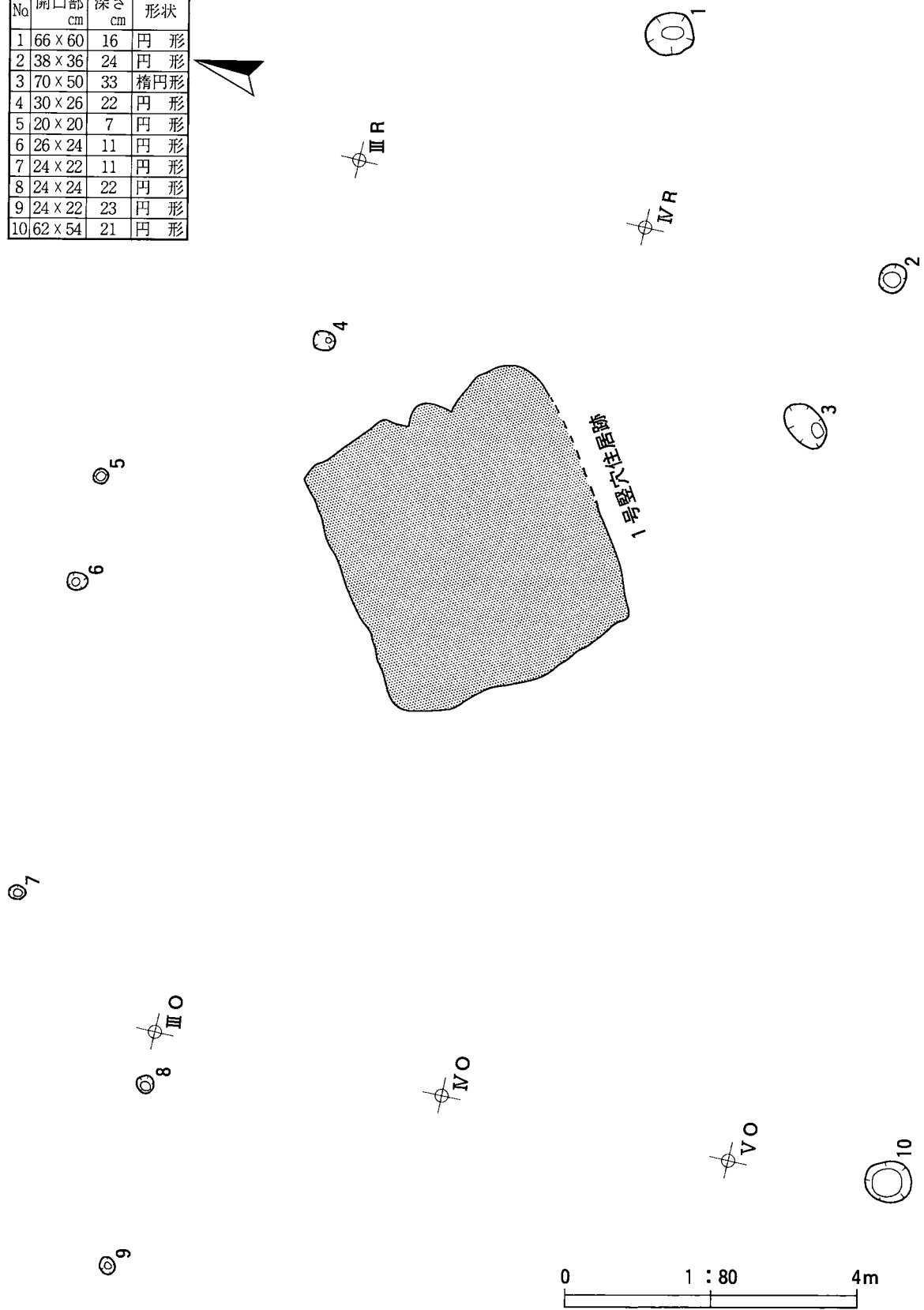
〈埋土・断面形〉 埋土は、黒褐色土を中心に褐色土(地山ブロック)が混入する層と焼土粒が混入する層がある。柱痕が認められるものはなかった。

〈出土遺物〉 P48から97(須恵器の坏の胴部下部～底部にかけての破片) P58から98(土師器の坏回転糸切無調整) 100(長頸瓶の口縁部)が出土している。

## 9 遺構外出土遺物

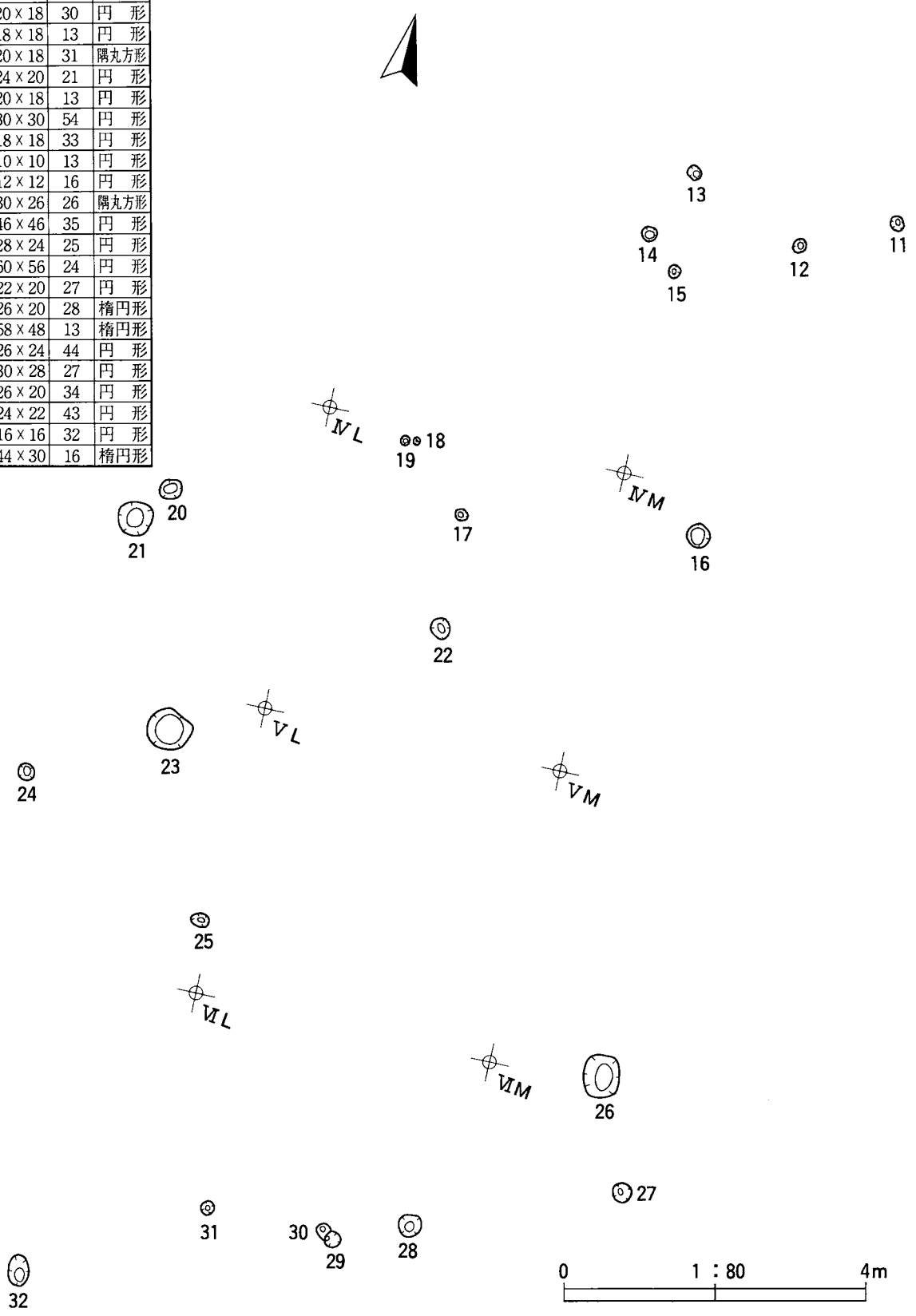
遺構外として登録した出土遺物としては、113(須恵器甕の口縁部で、外面には平行タタキ目があり、灰柚(自然柚)がある)、115(須恵器の甕の口縁部)、116(須恵器の坏の胴部から底部にかけての破片;回転糸切り離しの無調整)が出土している。

No	開口部 cm	深さ cm	形状
1	66 × 60	16	円形
2	38 × 36	24	円形
3	70 × 50	33	楕円形
4	30 × 26	22	円形
5	20 × 20	7	円形
6	26 × 24	11	円形
7	24 × 22	11	円形
8	24 × 24	22	円形
9	24 × 22	23	円形
10	62 × 54	21	円形



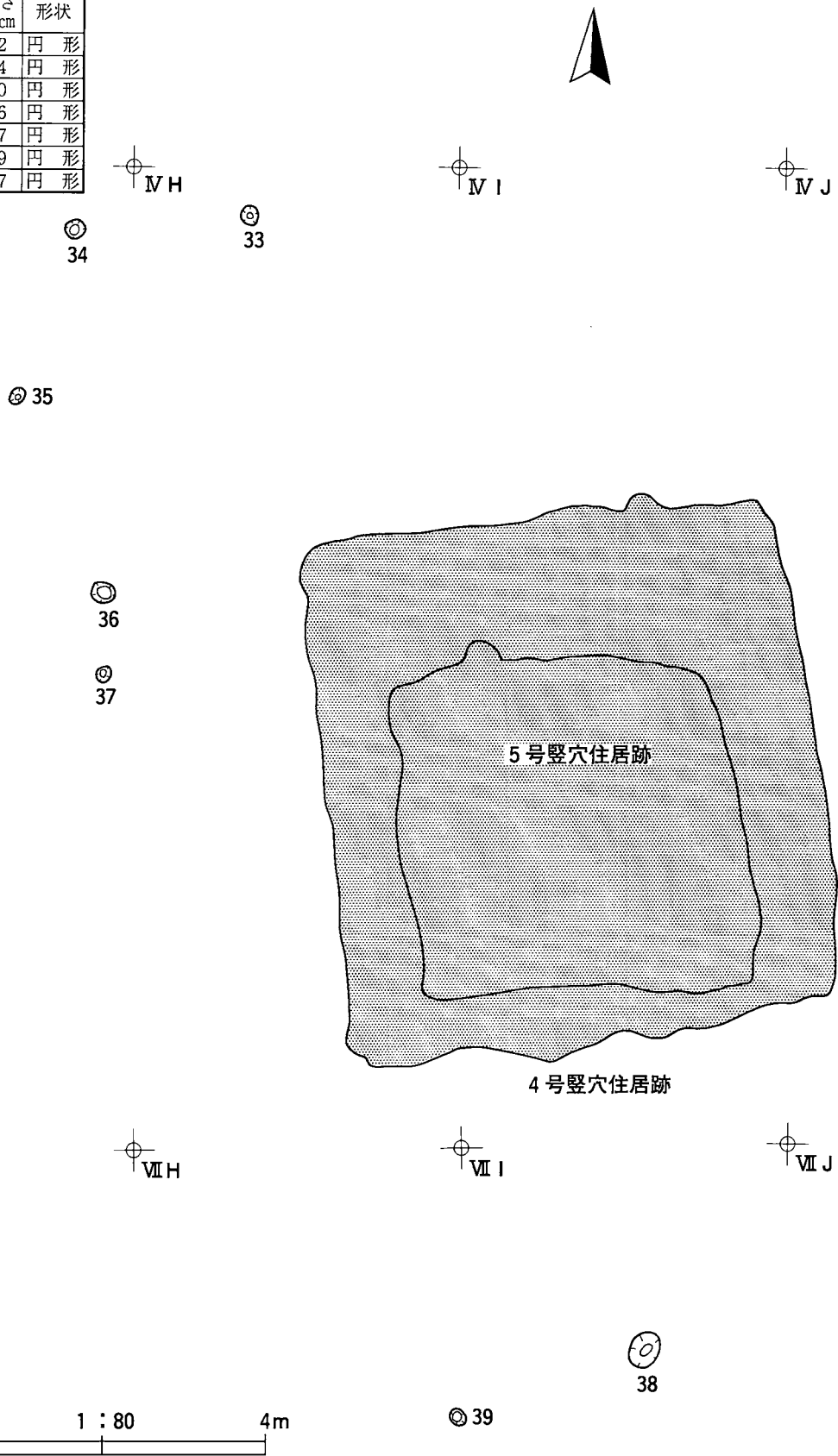
第18図 柱穴群(1)

No	開口部 cm	深さ cm	形状
11	20 × 18	30	円形
12	18 × 18	13	円形
13	20 × 18	31	隅丸方形
14	24 × 20	21	円形
15	20 × 18	13	円形
16	30 × 30	54	円形
17	18 × 18	33	円形
18	10 × 10	13	円形
19	12 × 12	16	円形
20	30 × 26	26	隅丸方形
21	46 × 46	35	円形
22	28 × 24	25	円形
23	60 × 56	24	円形
24	22 × 20	27	円形
25	26 × 20	28	楕円形
26	58 × 48	13	楕円形
27	26 × 24	44	円形
28	30 × 28	27	円形
29	26 × 20	34	円形
30	24 × 22	43	円形
31	16 × 16	32	円形
32	44 × 30	16	楕円形



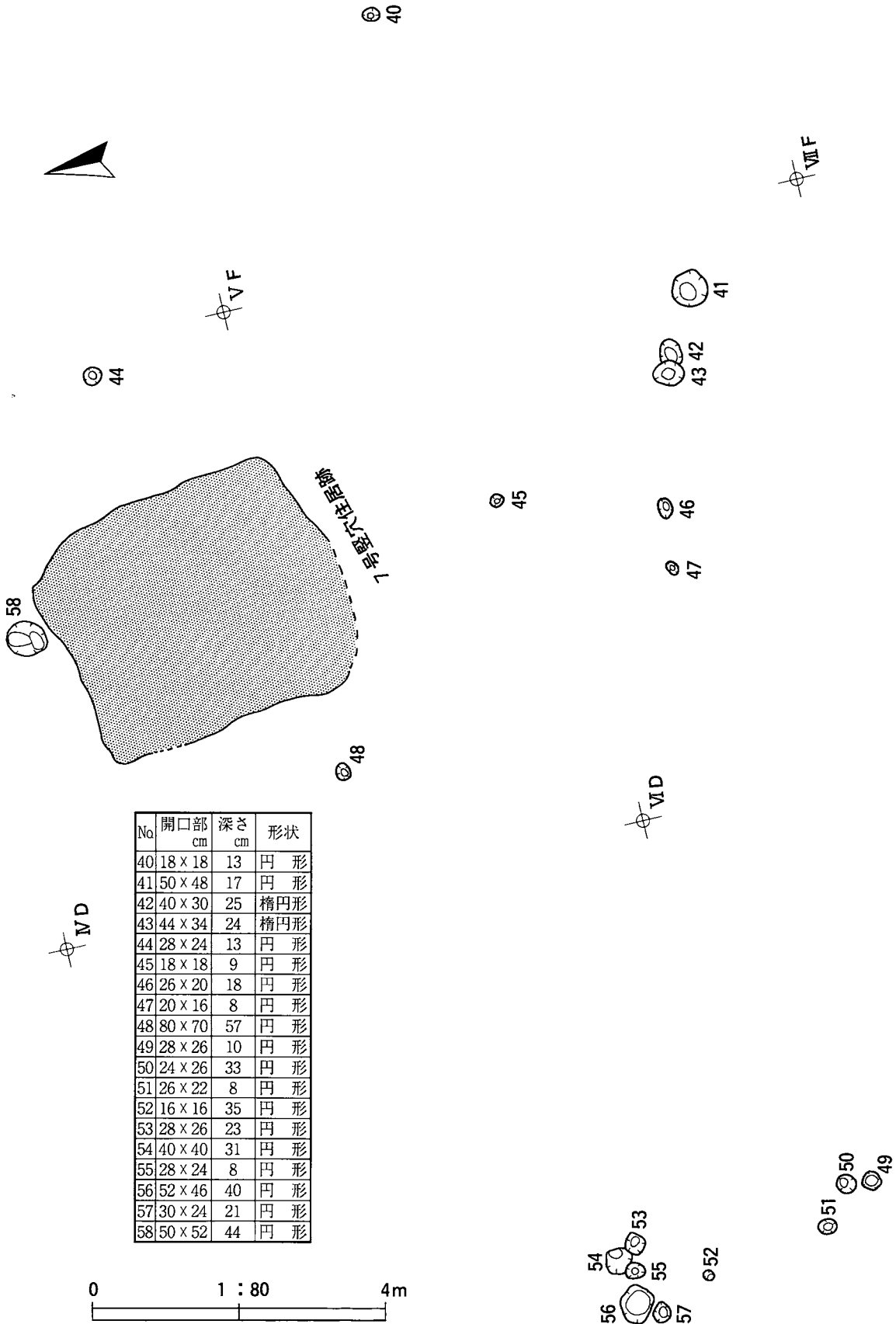
第19図 柱穴群 (2)

No.	開口部 cm	深さ cm	形状
33	24 × 24	42	円形
34	26 × 26	14	円形
35	22 × 18	10	円形
36	30 × 28	26	円形
37	20 × 20	17	円形
38	42 × 40	19	円形
39	26 × 20	27	円形



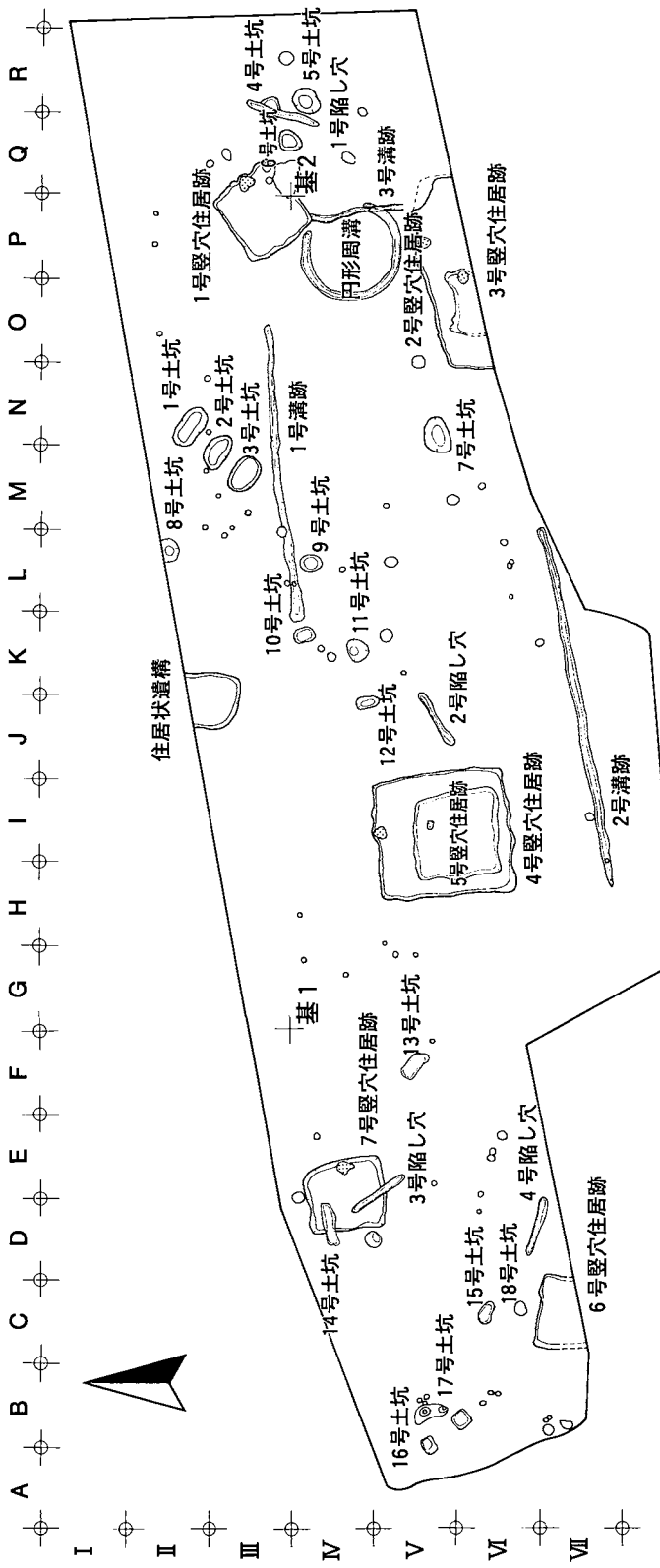
第20図 柱穴群(3)





No	開口部 cm	深さ cm	形状
40	18 × 18	13	円形
41	50 × 48	17	円形
42	40 × 30	25	楕円形
43	44 × 34	24	楕円形
44	28 × 24	13	円形
45	18 × 18	9	円形
46	26 × 20	18	円形
47	20 × 16	8	円形
48	80 × 70	57	円形
49	28 × 26	10	円形
50	24 × 26	33	円形
51	26 × 22	8	円形
52	16 × 16	35	円形
53	28 × 26	23	円形
54	40 × 40	31	円形
55	28 × 24	8	円形
56	52 × 46	40	円形
57	30 × 24	21	円形
58	50 × 52	44	円形

第21図 柱穴群(4)



基 1	X =	- 101,085.000
	Y =	+ 29,500.000
	L =	32.473 m
基 2	X =	- 101,085.000
	Y =	+ 29,540.000
	L =	32.392 m

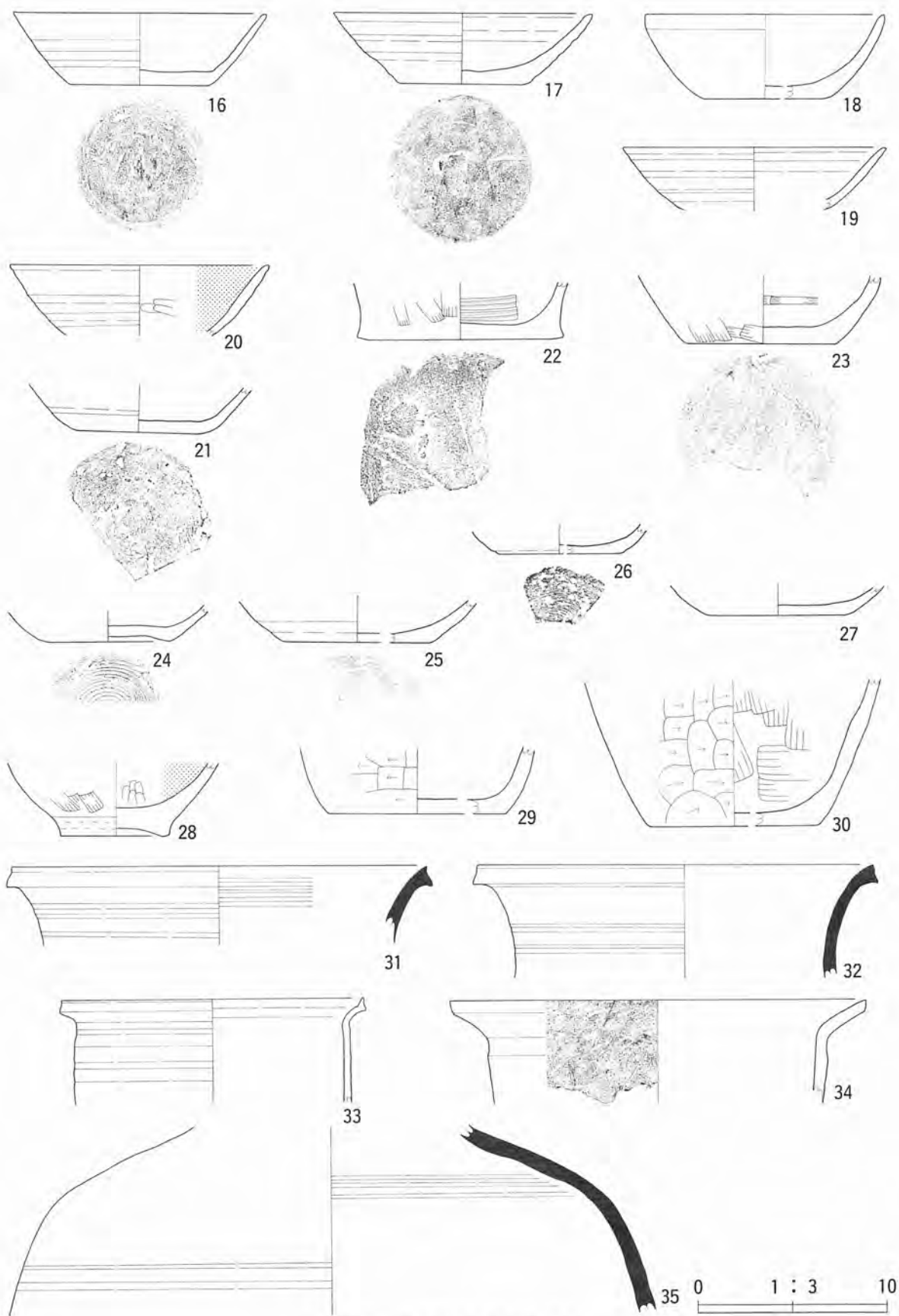
焼土遺構



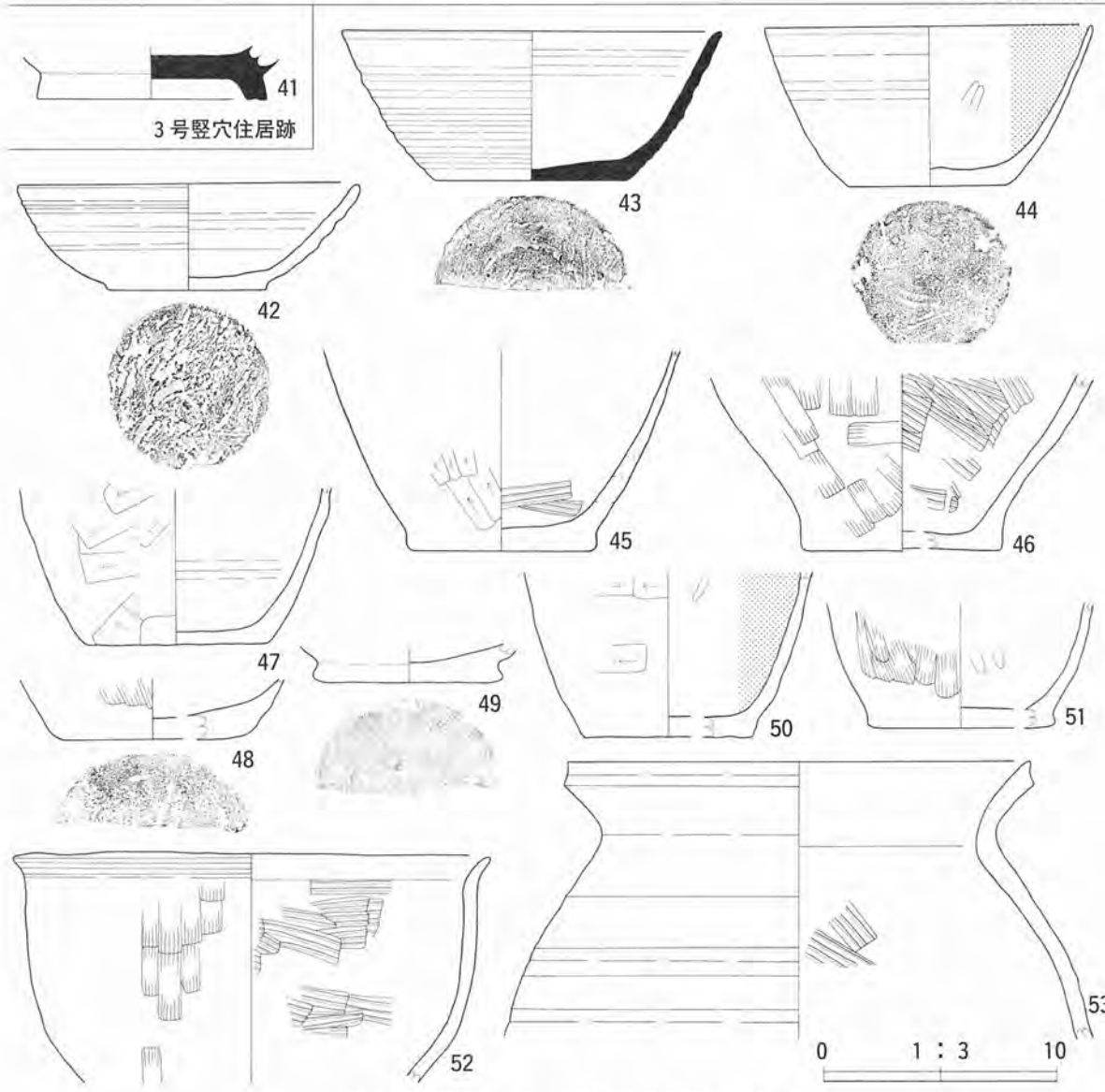
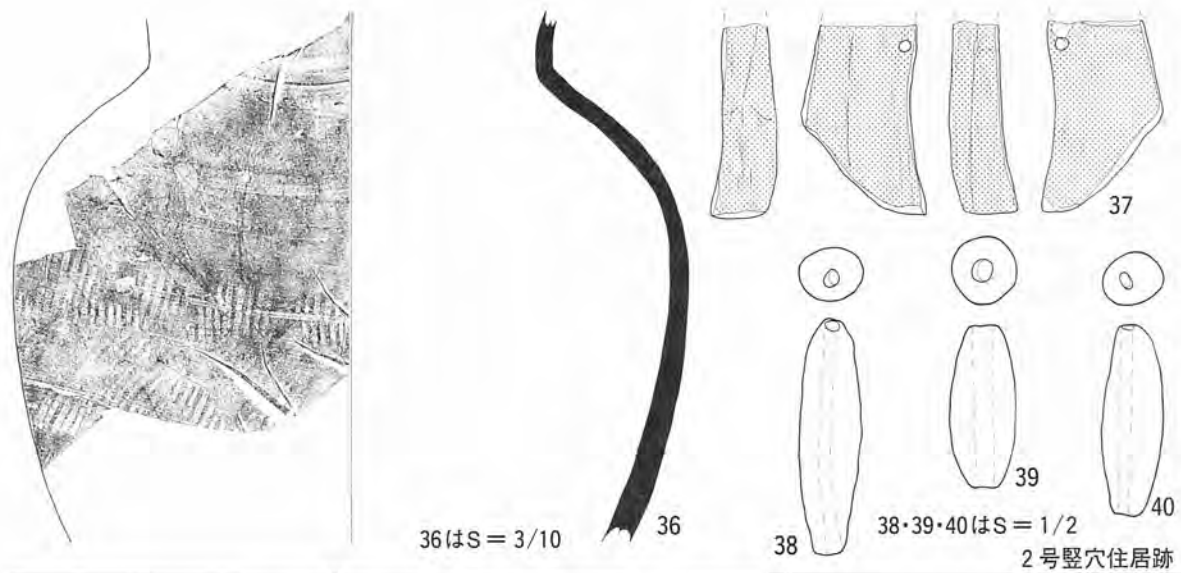
第22図 遺跡平面図



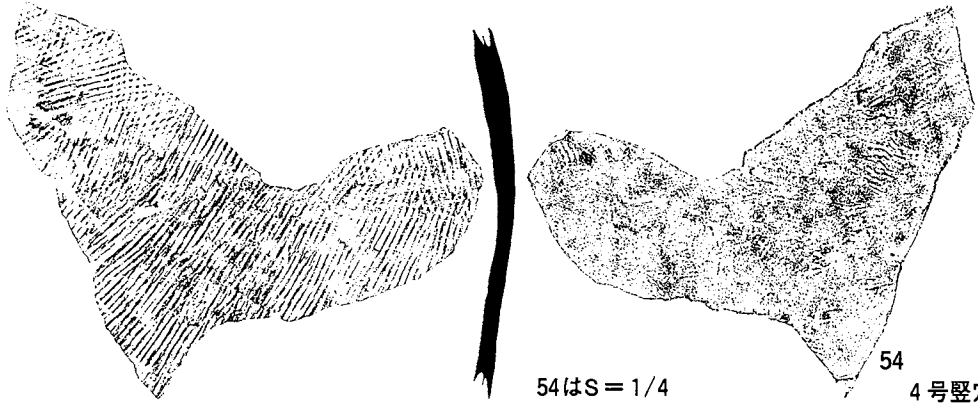
第23图 1号・2号竖穴住居出土遺物



第24图 2号竖穴住居出土遗物

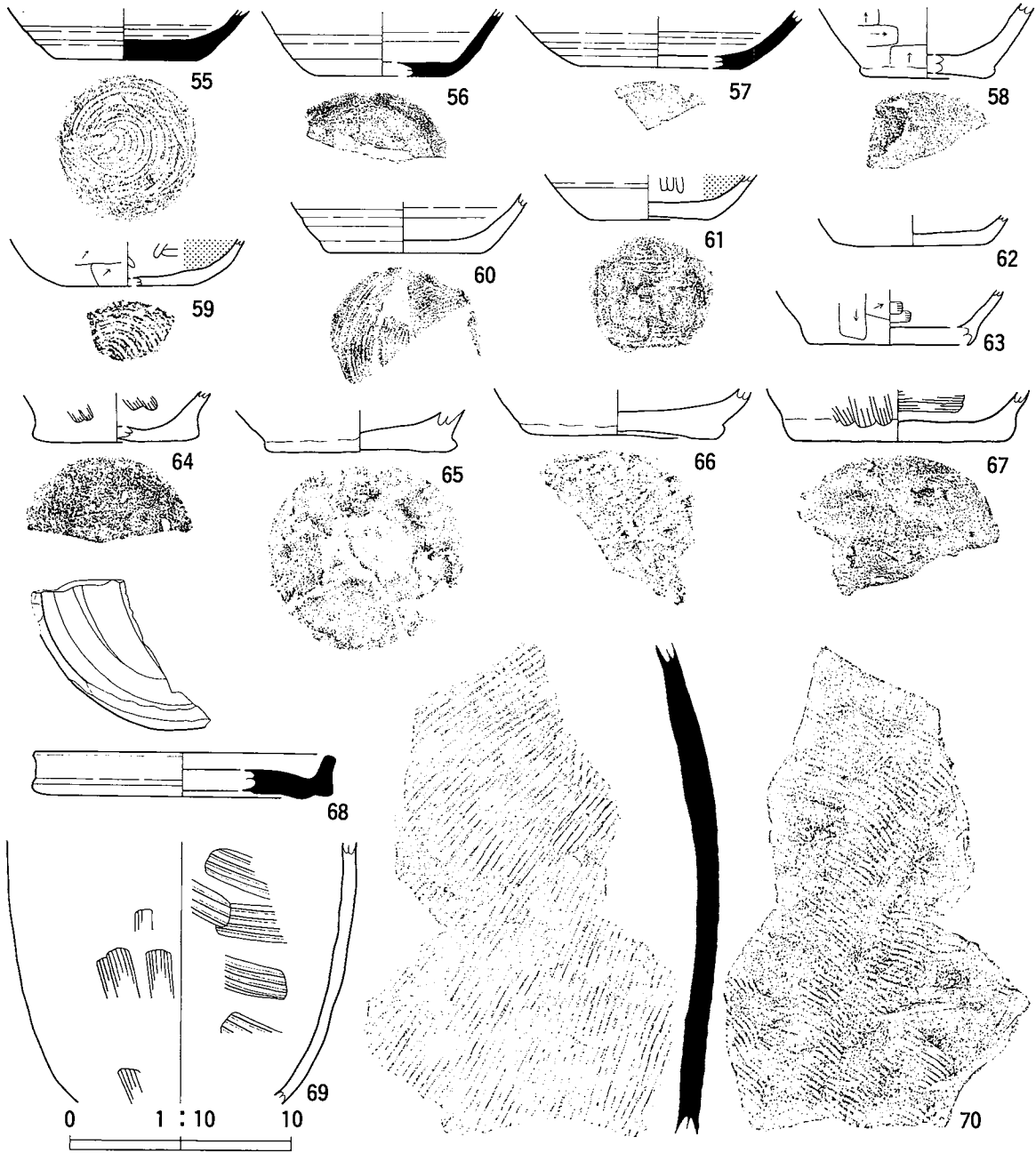


第25図 2号・3号・4号竖穴住居出土遺物

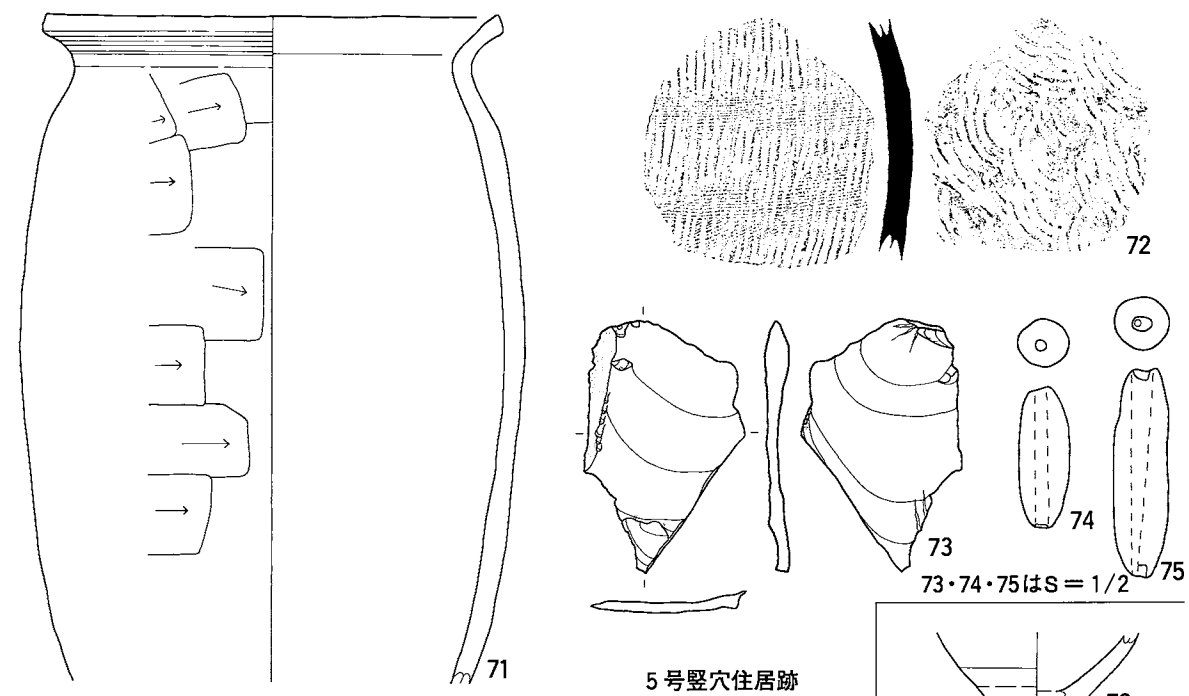


54はS = 1/4

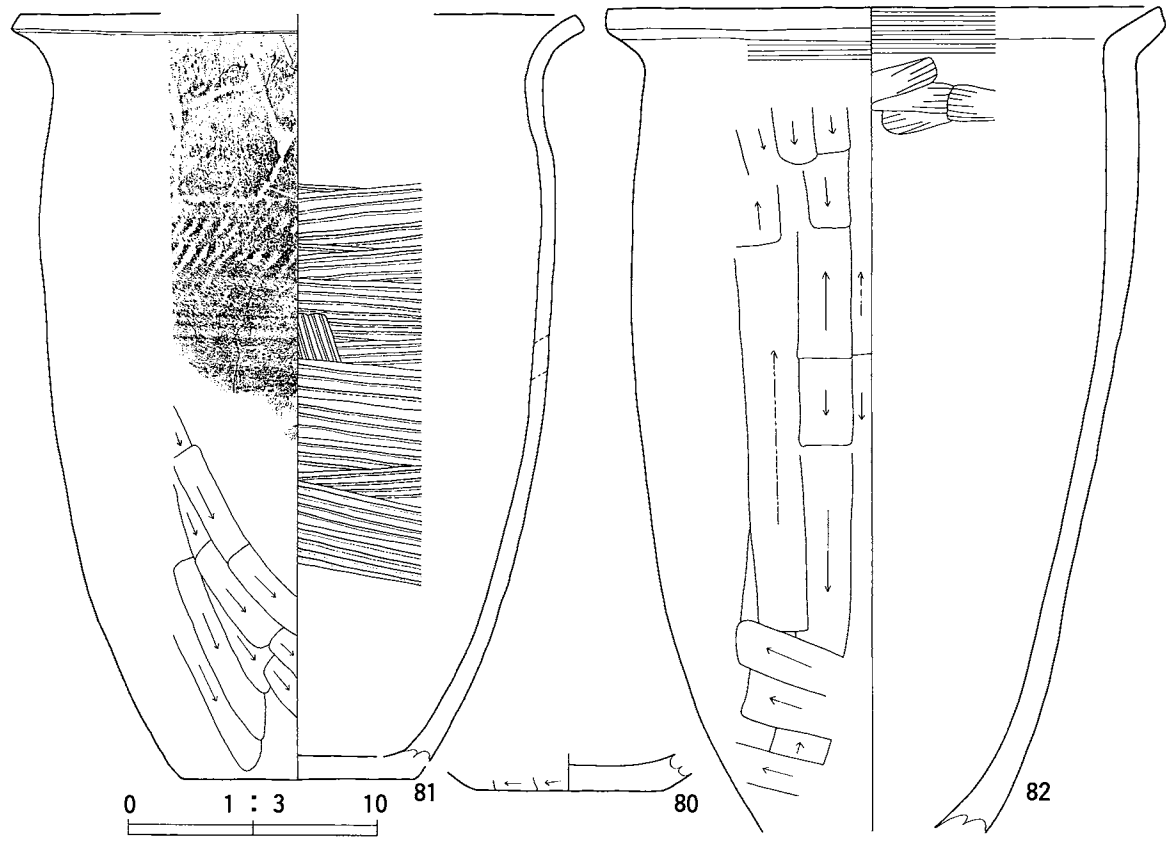
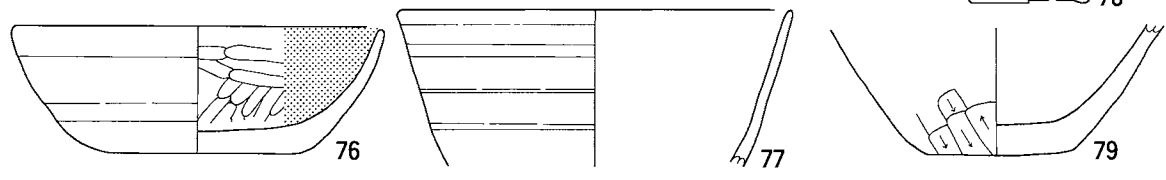
4号竖穴住居跡



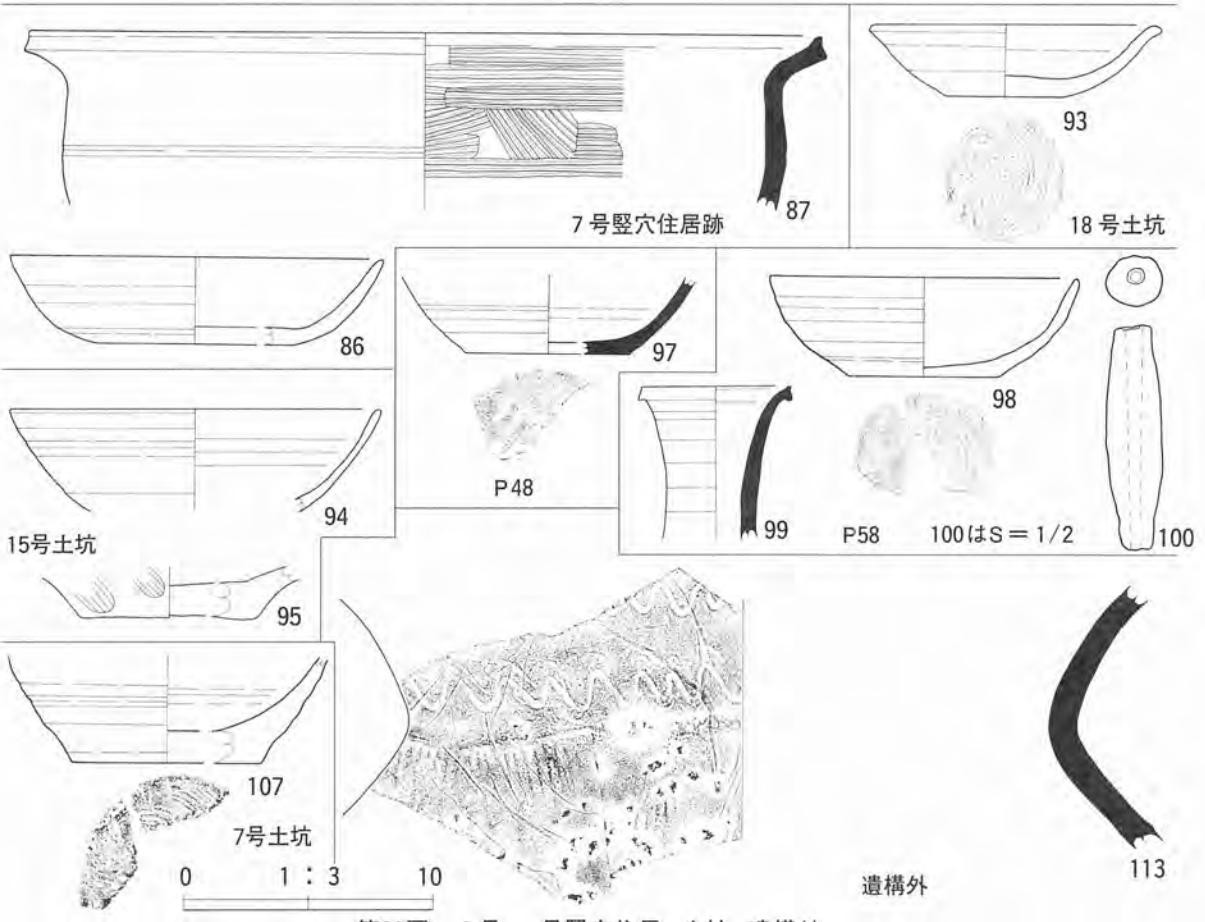
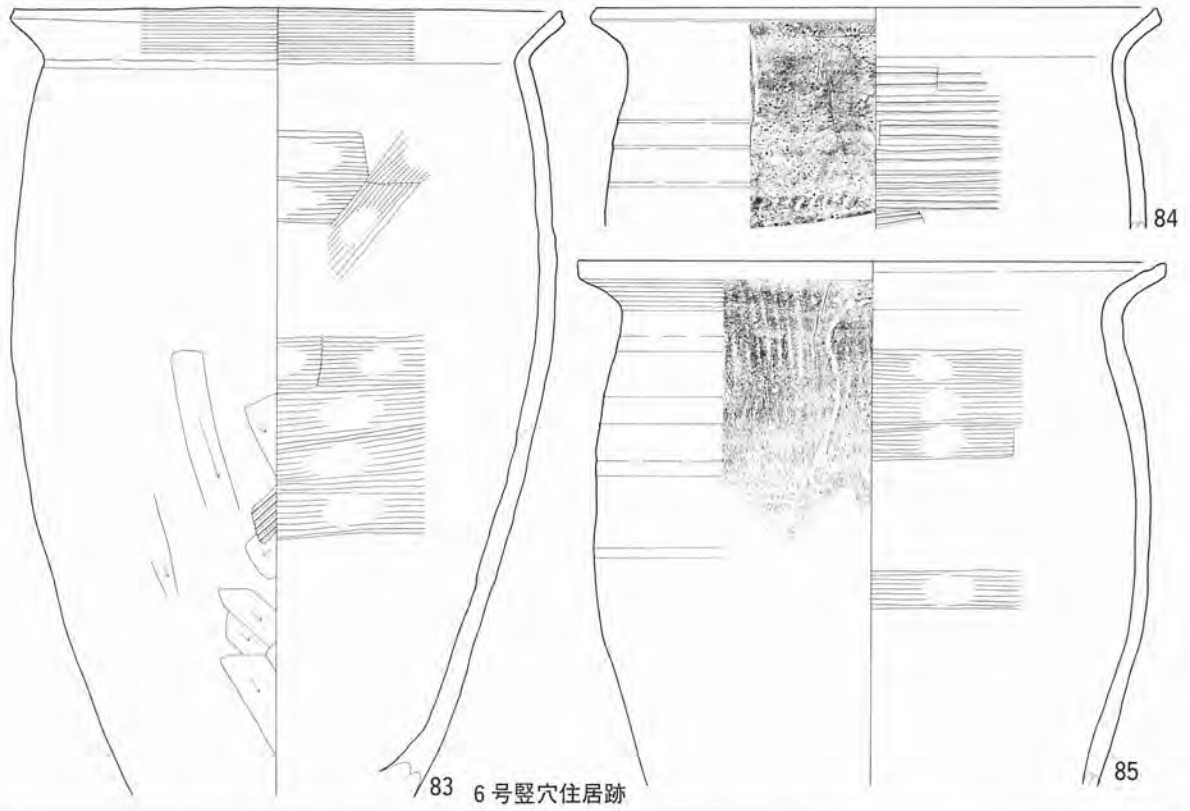
第26図 4号・5号竖穴住居出土遺物



5号竖穴住居跡



第27图 5号·6号竖穴住居出土遗物



第28图 6号・7号竖穴住居 土坑 遺構外



## 遺物観察表

登録No	旧No	出土地点	部 位	分類	器 種	ロクロ	和ロ	口径	底径	器高	口外面	胴外面	底外面	口内面	胴内面	底内面	備 考
1	1	1号住居	口縁～底部	須	坏	○		14.4	7.9	4.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回糸無	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	
2	2	1号住居	口縁～底部	須	坏	○		14.0			ロクロナデ	ロクロナデ	回糸再	ロクロナデ	ロクロナデ		
3	3	1号住居	口縁部	須	坏	○		13.4			ロクロナデ	ロクロナデ		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	
4	4	1号住居	口縁～胴上	土	長胴甕	○					ロクロナデタタキ	ロクロナデ		ロクロナデ	ロクロナデ		胴外面にすすが付着
5	5	1号住居	口縁～胴上	土	長胴甕	○					ロクロナデ						
6	6	1号住居	口縁～胴上	土	甕	○		22.0			ロクロナデ	横タタキ	回へ再	ロクロナデ			
7	16	1号住居	口縁部	須	甕	○					ロクロナデ				ロクロナデ		頸部短く外湾し、口唇ふ内湾
8	8	1号住居	底部	土	甕	○		7.0					回糸	ロクロナデ			
9	7	1号住居	底部	土	坏	○							回へ?				
10	11	1号住居			土製品												
11	9	1号住居			砥石												
12	10	1号住居			磨り石												
13	35	2号住居	完形	須	坏	○		13.6	6.5	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ	回へ再	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	胎土に石英、白礫を含む
14	46	2号住居埋土中	口縁部～底部	須	坏	○					ロクロナデ	火だすき・ロクロナデ	回	ロクロナデ			
15	40	2号住居埋土中	底部	須	坏	○		6.0			確認できず	確認できず	回へ再	確認できず	確認できず	ロクロナデ	
16	44	2号住居	底部	須	坏	○		7.2			確認できず	ヘラナデ	回へ再	確認できず	ロクロナデ	ロクロナデ	
17	36	2号住居埋土中	口縁部～底部	土	坏	○		13.6	7.5	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	
18	41	2号住居埋土中	底部～胴部	須	坏	○		12.0	6.6	4.4	確認できず		不明	確認できず	ナデ	ナデ	
19	53	2号住居埋土中	口縁部	土	坏	○		14.0			ナデ	確認できず	確認できず	ミガキ	確認できず	確認できず	
20	48	2号住居埋土中	口縁部	土	坏	○		13.8			ロクロナデ	ロクロナデ	確認できず	内黒処理	内黒処理	確認できず	
21	51	2号住居埋土中	底部	須?	坏	○		7.0			確認できず	ロクロナデ	回へ再	確認できず	確認できず	ロクロナデ	
22	50	2号住居埋土中	底部	土	甕		○			11.0	確認できず	確認できず	木葉痕	確認できず	確認できず	ヘラナデ	
23	47	2号住居埋土中	底部～胴部	土	甕		○	8.5			確認できず	ヘラナデ	不明?	確認できず	ヘラナデ		胎土に石英、白礫を含む
24	54	2号住居埋土中	底部	須	坏	○		7.0			確認できず	確認できず	回糸無	確認できず	確認できず	ロクロナデ	
25	56	2号住居埋土中	底部	土	坏	○		8.0			確認できず	確認できず	ナデ再調整で不明	確認できず	確認できず	ロクロナデ	
26	55	2号住居埋土中	底部	須	坏	○		7.0			確認できず	確認できず	回糸無	確認できず	確認できず	ロクロナデ	
27	49	2号住居埋土中	底部	土	坏	○		8.0			確認できず		回へ再	確認できず	確認できず	なし	
28	45	2号住居	ほぼ完形	土	坏	○		11.3	5.8	3.8	ロクロナデ	ヘラナデ	不明	内黒処理	ミガキ後黒色処理	ミガキ後黒処理	胎土雲母砂粒を含む
29	57	2号住居埋土中	底部	土	甕		○				確認できず	下部横ヘラケズリ	不明	不明	下部ケズリ	ケズリ	
30	43	2号住居埋土中	底部～胴部	土	甕	○		10.0			確認できず	ヘラナデ	不明	確認できず	ヘラナデ	ヘラナデ	
31	38	2号住居埋土中	口縁部	須	甕	○		22.0			ロクロナデ	ロクロナデ	確認できず	ロクロナデ	ロクロナデ	確認できず	口唇部が内傾している
32	37	2号住居埋土中	口縁部	須	甕	○					ロクロナデ						
33	52	2号住居埋土P	口縁部	土	甕	○		16.0			ヨコナデ	ロクロナデ	確認できず	ロクロナデ	ロクロナデ	確認できず	
34	39	2号住居埋土中	口縁部	土	甕	○					並行タタキナデ	確認できず	確認できず	ロクロナデ	ロクロナデ	確認できず	胎土に石英長石小礫を含む
35	75	2号住居	胴部破片	須	甕	○					確認できず	ロクロナデ	確認できず	確認できず	ロクロナデ	確認できず	
36	65	2号住居	胴部	須	甕	○						並行タタキロクロナデ			無紋の当て具痕		

登録No	旧No	出土地点	部 位	分類	器 種	ロクロ	糸ロクロ	口径	底径	器高	口外面	胴外面	底外面	口内面	胴内面	底内面	備 考
37	124	2号住居埋土中			と石												
38	121	2号住居埋土中			土錘												
39	122	2号住居埋土中			土錘												
40	123	2号住居埋土中			土錘												
41	42	3号住居床面	底部		硯(甕の底部)												
42	138	4号住居埋土中	口縁部~底部	土	坏	○		14.6	6.8	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸	ロクロナデ	ロクロナデ	底部黒色処理	底部内面に黒色処理あり
43	137	4号住居埋土中	胴部~底部	須	坏	○		16.2	8.2	6.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回ヘラ再	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	
44	136	4号住居埋土中	胴部~底部	土	坏	○		14.0	6.9		ロクロナデ	ロクロナデ	回糸再	黒色処理	黒色処理	黒色処理	
45	130	4号住居埋土中	胴部~底部	土	甕?			8.2			確認できず	下部にヘラケズリ	不明	確認できず	ハケメ	ハケメ	胎土に小礫、石英を多く含む
46	131	4号住居埋土中	胴部~底部	土	甕?			8.6			確認できず		不明	確認できず	ハケメ		胎土に小礫を含む
47	132	4号住居埋土中	胴部~底部	土	甕?			7.8			確認できず		てはこしている。	確認できず	ロクロナデ	数が付着している。	胎土に石英・小礫を含む
48	140	4号住居埋土中	底部	土	甕			8.2			確認できず	確認できず	木葉痕	確認できず	確認できず		
49	139	4号住居貯蔵穴	底部	土	甕			8.0			確認できず	確認できず	木葉痕	確認できず	確認できず	ミガキ痕あり	
50	134	4号住居貯蔵穴	胴部~底部	土	甕			7.2			確認できず	不明	?	確認できず	黒色処理	黒色処理	内面は、内黒処理
51	133	4号住居貯蔵穴	胴部~底部	?	甕			8.1			確認できず	(胴部下)ヘラナデ	?	確認できず	黒色処理	黒色処理	内面は、内黒処理
52	129	4号住居貯蔵穴	口縁部~胴部	土	甕	○		20.4			ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ	確認できず		ハケメ	確認できず	胎土に小礫、石英を多く含む
53	128	4号住居貯蔵穴	口縁部	土	甕	○		20.0			ロクロナデ	ロクロナデ	確認できず	ロクロナデ	ハケメ	確認できず	胎土に小礫、石英を多く含む
54	203	4号住居P2底面	胴部	須	甕	○					確認できず	擬格子状タタキ	確認できず	確認できず	重弧状文当て具痕ヘラナデ	確認できず	
55	143	5号住居	底部	須	甕	○		6.5			確認できず	ロクロナデ	回糸	確認できず	ロクロナデ	ロクロナデ	
56	148	5号住居	底部	須	坏	○		6.0			確認できず	ロクロナデ	回ヘラ再ヘラナデ	確認できず	ロクロナデ	ロクロナデ	
57	154	5号住居	底部	須	坏	○		7.3			確認できず	ロクロナデ	無調整	確認できず	ロクロナデ	ロクロナデ	
58	152	5号住居	底部	土	甕			6.0			確認できず	確認できず	ケズリの再調整	確認できず	確認できず	確認できず	胎土に小礫、石英を含む
59	151	5号住居	底部	土	坏	○		6.0			確認できず	確認できず	回転糸きり?	確認できず	確認できず	確認できず	黒色処理
60	142	5号住居	底部	須	坏			7.0			確認できず	確認できず	回糸?	確認できず	確認できず	ロクロナデ	
61	147	5号住居	底部	土	坏			6.0			確認できず	確認できず	ヘラナデ	確認できず	内黒処理	内黒処理	内黒処理
62	150	5号住居	底部		坏	○											
63	153	5号住居	底部	土	甕						確認できず	底部付近ケズリ	不明	確認できず	確認できず	不明	
64	149	5号住居	底部	土	甕?			7.4			確認できず	確認できず	ケズリ	確認できず	確認できず	爪あと?	にふい橙色胎土に小礫、石英を含む
65	145	5号住居	底部	土	甕			8.4			確認できず	確認できず	木葉痕	確認できず	確認できず	無調整	胎土に小礫を含む
66	146	5号住居	底部	土	甕						確認できず	確認できず	木葉痕	確認できず	確認できず	確認できず	胎土に小礫、石英を含む
67	144	5号住居	底部	土	甕			10.0			確認できず	確認できず	不明	確認できず	ヘラナデ	無調整	胎土に小礫、石英を含む
68	155	5号住居		須	硯(甕の底部)	○		14.0			確認できず	確認できず	ロクロ痕	確認できず	確認できず	一部みがき	
69	210	5号住居	胴部破片	土	甕						確認できず	ヘラケズリ	確認できず	確認できず	ハケメ?	確認できず	
70	204	5号住居	胴部	須	甕	○					確認できず	擬格子状タタキ	確認できず	確認できず	重弧状文当て具痕ヘラナデ	確認できず	
71	242	5号住居	口縁部~体部	土	長胴甕	○		18.0			ロクロナデ	無調整	確認できず	ロクロナデ	無調整	確認できず	
72	205	5号住居	胴部	須	甕	○					確認できず	平行タタキ後、ヘラナデ	確認できず	確認できず	青海波紋	確認できず	
73	243																
74	244				土錘												
75	245				土錘												
76	254	6号住居	完形	土	坏	○		8.5	5.1		ヨコナデ	ナデ(表面の凸凹が激しい)	糸きり痕が見えない	黒色処理	黒色処理みがき	黒色処理	器面の老朽が激しく調整が不確か

登録No	旧No	出土地点	部 位	分類	器 種	ロクロ	非ロクロ	口径	底径	器高	口外面	胴外面	底外面	口内面	胴内面	底内面	備 考
77	258	6号住居	口縁部		坏	○											
78	257	6号住居	底部		甕												
79	253	6号住居	体部下～底部	土	甕	○			6.5		確認できず	ヘラケズリ	無調整	確認できず	無調整	無調整	胎土が荒く、小礫を含む
80	256	6号住居	底部		甕				7.8		確認できず	確認できず	不明	確認できず	確認できず	ナデ	
81	252	6号住居	口縁部～底部	土	長胴甕	○			9.6		ヨコナデ	ヘラケズリ斜めタタキ	無調整	ロクロナデ	カキ目	指なで	
82	250	6号住居	底部	土	長胴甕			21.0	9.0	31.0	ロクロナデ	ヘラケズリ	確認できず	ヘラナデ・ ロクロナデ	ヘラナデ	確認できず	
83	249	6号住居	口縁部～底部	土	長胴甕	○		22.0	11.0	33.0	ロクロナデ	タタキ後にケズリ、ロクロ ナデ	無調整	ロクロナデ	ヘラナデ・ロクロナデ	指なで	
84	255	6号住居	口縁部	土	甕	○		22.6		31.0		斜め叩きの後ロクロナデ調 整	確認できず	ロクロナデ	ロクロナデ	確認できず	口唇部と口縁部の境に稜あり
85	251	6号住居	口縁部～体部	土	甕	○		23.0			ロクロナデ	ロクロナデ・タタキ(体 部上面)	確認できず	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラナデ	確認できず	
86	280	7号住居検出面	口縁部～底部	土	坏	○		15.0	8.0		面が磨滅してい て調整が	不明	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
87	278	7号住居埋土中	口縁部	須	甕	○				3.5	ロクロナデ	ロクロナデ	確認できず	カキメ	カキメ	確認できず	
88	284	7号住居検出面	体部下～底部	土	甕?						確認できず	ヘラケズリ	木葉痕	確認できず	ナデ	ナデ	
89	285	7号住居検出面	底部	土	甕?						確認できず	確認できず	木葉痕	確認できず	確認できず	ヘラケズリ	
90	348	住居状埋土中	口縁部～胴部	土	坏	○											
91	349	住居状埋土中	胴部	須	?	○						格子状タタキ目痕			ヨコナデ		
92	350	住居状埋土中	胴部	須	?	○						平行タタキ目痕			当て具痕名称不明		
93	309	18号土坑	完形	土	坏			11.0	5.0	3.0							
94	310	15号土坑	口縁部～胴部	土	坏						ロクロナデ	ロクロナデ		ロクロナデ			口縁部煤付着
95	317	15号土坑	底部	土	甕?				7.0		確認できず	確認できず	静止ヘラ	確認できず	確認できず	確認できず	内外面黒色処理
96	316	15号土坑	底部	土	甕?						確認できず	確認できず	静止ヘラ	確認できず	確認できず	確認できず	
97	318	P 48	胴部下～底部	須	坏						確認できず	ロクロナデ	静止ヘラ	確認できず	ロクロナデ	ロクロナデ	
98	322	P 58	口縁部～底部	土	坏	○					ロクロナデ	ロクロナデ	回糸無	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	
99	323	P 58	口縁部	須	長頸瓶												
100	334	P 26			土錘												
101	335	1号溝	口縁部	土	坏	○						確認できず		内黒処理	内黒処理	確認できず	
102	336	2号溝埋土中	胴部	須	甕						ヘラケズリ、ナデ	確認できず	確認できず	確認できず	ナデ	確認できず	
103	337	3号溝埋土上	口縁部	土	坏	○					確認できず	確認できず	確認できず	内黒処理	内黒処理	確認できず	
104	340	3号溝埋土上	底部	土	坏	○					確認できず	確認できず	確認できず	確認できず	確認できず	内黒処理	
105	341	3号溝埋土上	底部	土	坏	○					確認できず	確認できず	? 回糸	確認できず	確認できず		
106	343	5号土坑	口縁部	土	坏	○								内黒、ミガキ			
107	344	7号土坑	底部～胴部	土	甕	○											
108	347	7号土坑	口縁部～胴部	土	甕	○						ケズリ			煤付着		
109	351	周溝埋土上	口縁部	土	甕?	○									ナデ		
110	352	周溝埋土上	口縁部	須	坏	○											
111	353	周溝埋土上	口縁部	土	坏?	○											
112	355	周溝埋土上	胴部	須	甕?	○					平行タタキ目	確認できず	確認できず	確認できず		確認できず	
113	366	遺構外	口縁部	須	大甕	○					波状タタキ	平行タタキ、灰軸(自然軸)、 灰が付着	確認できず		黒色処理	確認できず	
114	367	遺構外	胴部	須	大甕	○					平行タタキ				ハケメ		
115	368	遺構外	口縁部	須	甕	○						確認できず	確認できず		確認できず	確認できず	
116	369	遺構外	胴部～底部	須	坏	○					確認できず	確認できず	回糸無	確認できず			

## ま と め

### 遺 構

本宿迎畑遺跡では、竪穴住居跡（平安時代）7棟、住居状1棟、土坑18基（平安時代、不明のもの）、円形周溝1条（平安時代）、溝跡3条（平安時代）、陥し穴状遺構（縄文時代）4基、柱穴状小ピット58が検出された。竪穴住居跡を中心にまとめとしたい。

#### （1）竪穴住居跡について

7棟検出されたが、そのうち、2棟は、住居跡内（2号住居跡、4号住居跡）の床下から検出された。それぞれの状況は、次の通りである。

	1号住居跡	2号住居跡	3号住居跡	4号住居跡	5号住居跡	6号住居跡	7号住居跡
位 置	調査区東側 ⅢP,ⅢQ,ⅣP	調査区南東 V0~VQ,W0~WP	調査区南東 2号住居跡内の畦畔側	調査区中央 VH~VI,WH~WI	調査区中央 4号住居跡内	調査区南西 ⅦC	調査区北西 ⅣD~ⅣE
重複関係		3号住居跡と重複(新)	2号住居跡と重複(旧)	5号住居跡と重複(新)	4号住居跡と重複(旧)		
形 状	隅丸方形	隅丸長方形? (調査区外にのびる)	隅丸長方形? (調査区外にのびる)	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形 (調査区外にのびる)	隅丸方形
面 積	約12㎡	不 明	不 明	約30㎡	約16㎡	不 明	約12㎡
主 軸 方 向	N-50° -E	N-20° -W	E-20° -N(推測)	N-10° -W	N-10° -W	不 明	N-10° -N
床 面	貼り床あり	貼り床なし	貼り床なし	貼り床あり	貼り床なし	貼り床あり	貼り床なし
埋 土	黒褐色土主体の4層 自然堆積の様相	黒褐色土地山ブロック 混入の1層	黒褐色土地山ブロック 混入の3層人為堆積	黒褐色土主体の5層 自然堆積の様相	黒褐色土と褐色土の混合 土に明褐色土粒を含む1層	黒褐色土主体の3層 自然堆積の様相	黒褐色土主体に地山 ブロック、焼土粒混 入する4層
カ マ ド	燃烧部、袖のみ 北東壁	焼土のみ 北壁東側	焼土のみ 東側壁ぎわ	燃烧部袖のみ 北壁側ほぼ中央	燃土のみ 北壁側中央	燃烧部袖のみ 北壁中央	焼土のみ 東壁中央
柱 穴・土 坑	壁隅に4つの可能性	支柱穴と思われる ピットが北壁際に5つ		西壁際に支柱穴15		西側隅に柱穴状1つ	北東隅に土坑

〈カマド〉 カマドが検出されたのは、1号、4号、6号の3つの住居跡であったが、いずれも燃烧部・煙道部・煙だし部の3つが完全に検出されたものはなかった。以前からこの場所は畑や田圃の耕作等で攪乱を受けていたために残りが悪かったと思われる。1号竪穴住居跡のカマドは北東壁の中央に位置し、袖は地山ブロックによって構築されていた。4号竪穴住居跡のカマドは北壁の中央に位置し、袖は1号住居跡と同様に、地山ブロックによって構築されていた。6号竪穴住居跡は北壁中央に位置し、袖は1号、4号住居跡と同様に地山ブロックによって形成されていた。また、燃烧部は2つの河川礫を支にして、2つの底部のない甕をその上に置き支脚として使用している。

### 遺物について

#### （1）坏について

登録している坏は、破片も含めて40点である。そのうち酸化炎焼成（土師器系）坏は、21点。還元炎焼成（須恵器系）坏は、19点で、ほぼ同じ割合で出土している。

①酸化炎焼成（土師器系）坏について

破片も含めて21点を登録しているが、そのうち、内黒処理をしているものが7点である。

《内黒処理をしている坏》

底部の切り離し方法が確認できるものは1点のみで、回転糸切り離しの再調整のものである。

《内黒処理を施していない坏》

14点で、そのうち底部の切り離しが確認できたものは3点のみで、回転ヘラ切り離しの再調整のものが1点。静止糸切り離しのものが1点。回転糸切り離しの無調整が1点である。

②還元炎焼成（須恵器系）坏について

破片も含めて19点を登録しているが、そのうち底部の切り離し方法が確認できたものは12点。そのうち回転糸切り離し無調整のものは4点。回転ヘラ切り再調整のものが7点。静止糸切り離しが1点である。

（2）甕について

甕は、破片も含めて54点を登録している。そのうち、酸化炎焼成（土師器系）は、41点で、還元炎焼成（須恵器系）は13点である。

①酸化炎焼成（土師器系）甕について

4（1号住居出土）は口縁部から体部上部にかけての破片で、頸部は丸みを帯びて内湾しており、口縁部はほぼ直線的に約40度で3cm程外傾し、口唇部で2mmほど内傾する。外面の調整ははっきりしないが、外面にタタキ目もみられる。推測であるが最大径は体部中央あたりになりそうである。

5（1号住居出土）は口縁部から体部上部にかけての破片で、外面に横ナデ調整がみられる。これも頸部は丸みを帯びて内湾しており、約50度で約2.5cmで外傾し、口唇部で7mmほど内傾する。

6（1号住居出土）は口縁部から体部中央にかけての破片で、外面に斜め並行タタキ目がみられる。

7（1号住居出土）は口縁部の破片である。頸部下は垂直に下がり、口縁部にかけてやや丸みをおびて1cm程外湾し、口唇部で垂直に約3mm程立ち上がる。

33（2号住居焼土P）は口縁部破片で、頸部は垂直に下がり、約60度で1cm伸びて外傾し、口唇部でやや内湾している。

34（2号住居埋土中）は頸部で約1cmほど内湾し、口縁部にかけて約50度外傾し、口唇部ではほぼ垂直に7mm程で立ち上がる。

53（4号住居出土）は口縁部から体部上部にかけての破片で、内面に部分的にハケメ調整がみられる。頸部は丸みを帯びて内湾しており、口縁部は約40度で外傾している。口唇部は約1cmほどで内湾している。

71（5号住居出土）は外面で横向きにヘラ削り調整がみられる。頸部は丸みを帯びて内湾し、口縁部で2cm程外傾する。口唇部で7mm程で内傾する。体部上部（頸部に近いところ）に最大径を持つ。

81（6号住居出土）は外面の体部上部に斜め並行タタキ目がみられ、体部下部には、上から下に向かってヘラ削り調整がみられる。内面は横向きに対してのハケメ調整が施されている。口唇部に最大径をもつ。

82（6号住居出土）は約50度で2cmほど外傾し、口唇部で約7mmほど内傾する。体部全体にヘラ削り調整が施されている。内面は頸部近くにヘラナデ調整がみられる。

83（6号住居出土）はタタキ目がみられ、外面下部にタタキ目を切るようにヘラ削り調整が施されている。内面は体部中央にかけてハケメ調整がみられる。頸部はくの字状にくびれており、口縁部と体部上面に最大径をもつ。

84（6号住居出土）もタタキ目が施されている。内面はハケメ調整が施されている。

85（6号住居出土）も外面にタタキ目がみられ、内面にはヘラナデ調整がみられる。

88・89は底部の破片で、木葉痕がみられる。

これらをまとめると以下のような特徴がみられる。

- (1) 外面は、須恵器系のタタキを模倣してタタキ目が見られるものが多い。全体もしくは下部にヘラ削り調整がみられる。
- (2) 頸部は丸みを帯びてくの字状にくびれており、口唇部で垂直もしくはやや内傾するものが多い。
- (3) 最大径を体部上面もしくは、口縁部に持つものが多い。
- (4) 内面は、ヘラナデ、ハケメ調整がみられる。

## ②還元炎焼成（須恵器系）甕について

7（1号住居出土）は口縁部から頸部にかけての破片で、ロクロ撫で調整がみられる。頸部はほぼ垂直に立ち上がり、口縁部で短く外傾し、口唇部は、ほぼ垂直に立ち上がる。

31・32（2号住居出土）は口縁部から頸部にかけての破片で、ロクロ撫で調整がみられる。いずれも頸部から口縁部にかけて外湾し、口唇部で短く内傾している。

36（2号住居出土）は胴部破片で、外面に並行タタキ目・ロクロ撫で調整がみられる。内面は無紋の当て具痕がみられる。

54（4号住居P2底面出土）は胴部破片で、外面に擬格子状タタキ目、内面に重弧状紋当て具痕がみられる。

55（5号住居出土）は底部の破片で、回転糸切り調整が施されている。

70（5号住居出土）は胴部破片で、外面に擬格子状タタキ目、内面に重弧状紋当て具痕がみられる。

72（5号住居出土）は胴部破片で、外面に並行タタキ目、内面に青海波紋当て具痕がみられる。

87（7号住居埋土中出土）は口縁部破片で、外面はロクロなで調整、内面は、カキメの調整が施されている。

91（住居状埋土中出土）は胴部破片で、格子状タタキ目痕がみられる。

92（住居状埋土中出土）は胴部破片で、並行タタキ目痕がみられる。

102（2号溝埋土中出土）は胴部破片で、外面にヘラケズリ調整がみられる。

113（遺構外出土）は口縁部から胴部にかけての破片で、外面の口縁部には波状タタキ、外面の胴部にかけて並行タタキ目が施されている。

114（遺構外出土）は胴部にかけての破片で、擬縄文のタタキ目がほどこされている。

115（遺構外出土）口縁部にかけての破片である。

以上のように外面調整は、並行タタキ目、格子状タタキ目、擬格子状タタキ目、擬縄文などのタタキ目がみられ、内面の当て具痕は青海波紋・重弧状紋・無紋当て具などの痕跡がみられる。

## (3) その他の出土遺物

土錘が2号住居埋土中から3点、5号住居埋土中から2点出土している。また、砥石が1号住居跡と2号住居跡から出土している。また、砥石が1号住居跡の埋土中から出土している。

本宿迎畑遺跡 写真図版



遠景



近景

写真図版1 空中写真



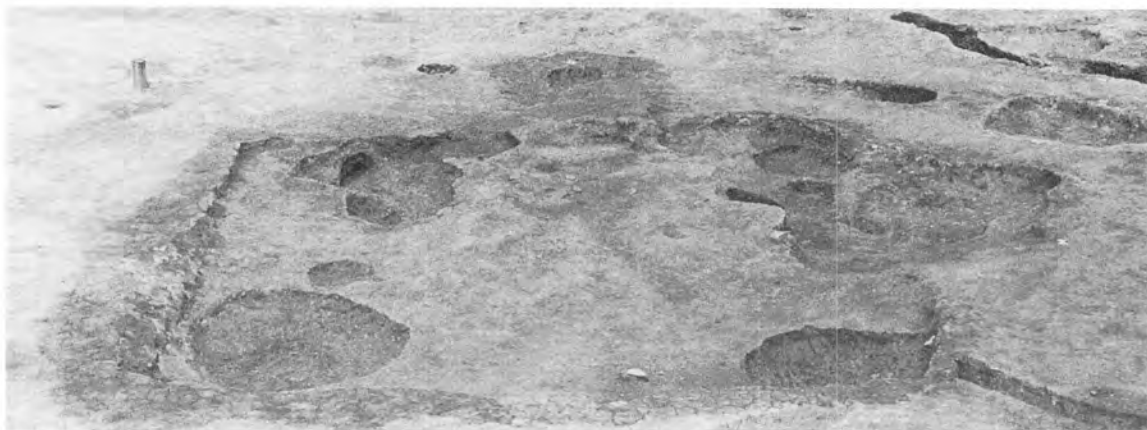


遺跡近景



基本土層

写真図版 2 調査区現況・基本土層



1号竖穴住居跡



断面



断面



カマド袖 断面



カマド断面

写真図版3 1号竖穴住居跡



2号竖穴住居跡



出土状況



出土状況

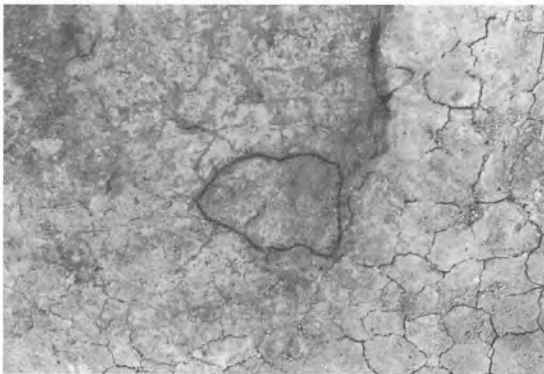


焼土

写真図版4 2号竖穴住居跡



3号竖穴住居跡



焼 土



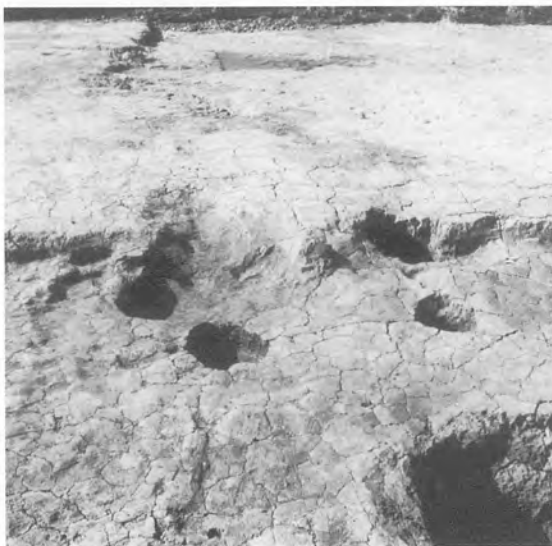
出土状況



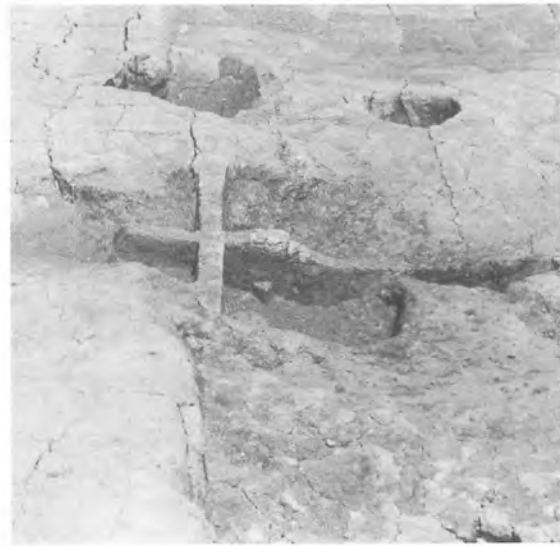
4号竪穴住居跡



焼土除去後完掘



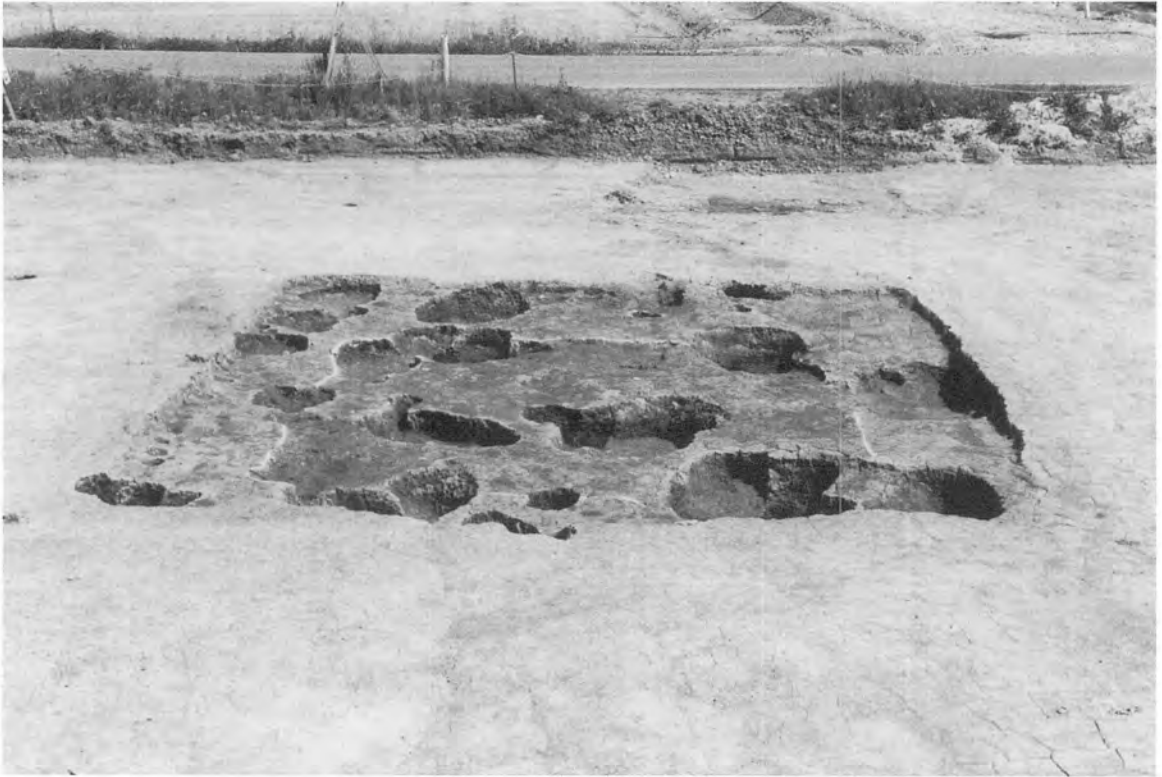
カマド袖



カマド断面

写真図版6 4号竪穴住居跡





4号・5号竪穴住居跡



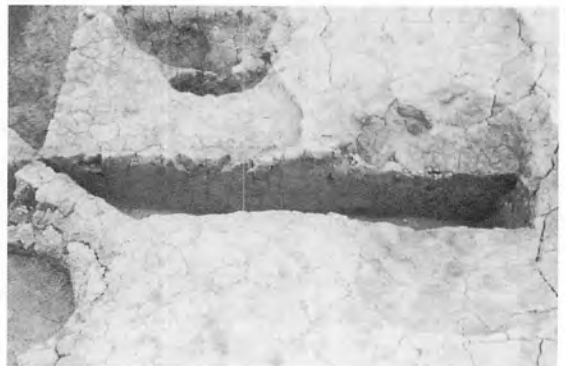
断面（西から）



断面（西から）



断面（南から）



断面（南から）

写真図版7 4号・5号竪穴住居跡



6号豎穴住居跡



断 面



貼床断面

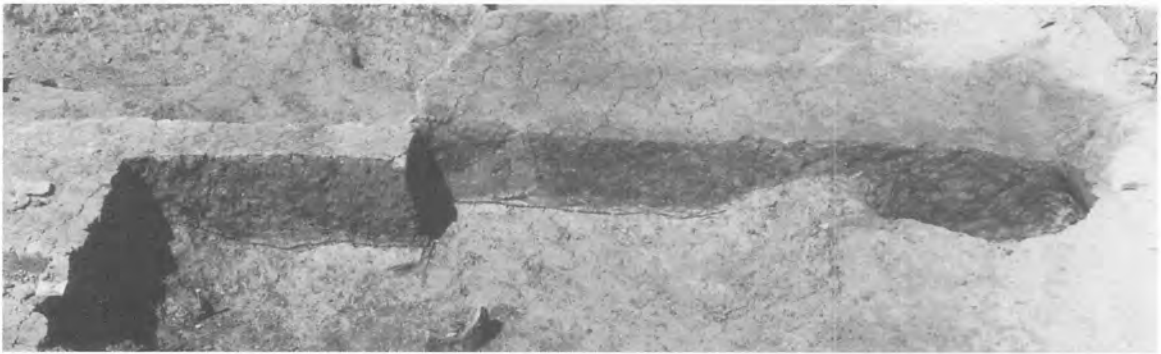


出土状況

写真図版 8 6号豎穴住居跡



7号竖穴住居跡



断 面



断 面



1号烧土



1号烧土断面

写真图版9 7号竖穴住居跡・1号烧土

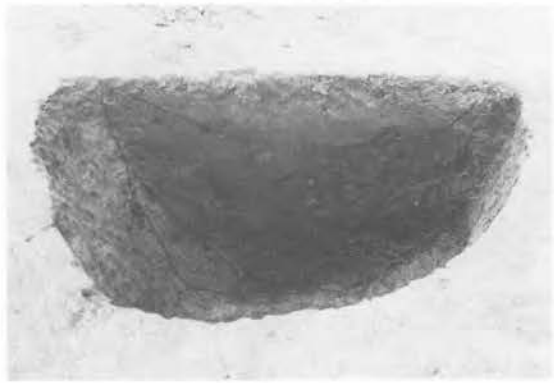




1号·2号·3号土坑



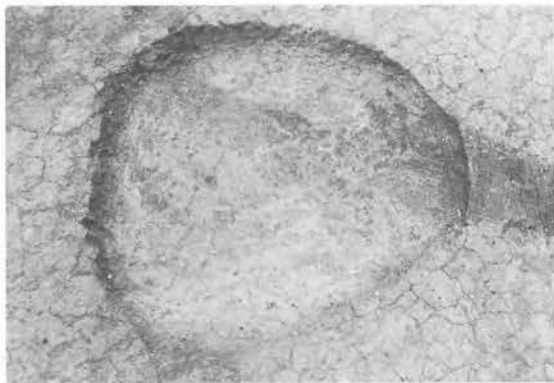
1号土坑断面



2号土坑断面



3号土坑断面



4号土坑



4号土坑断面



5号土坑

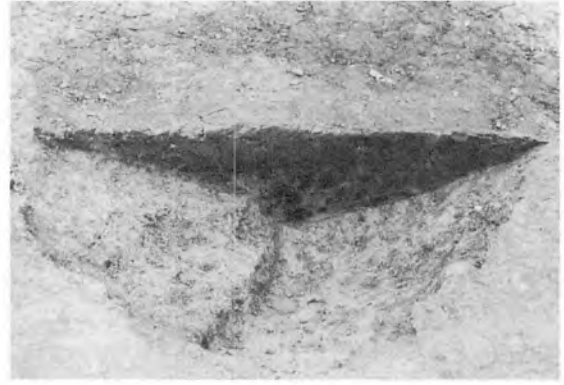


5号土坑断面

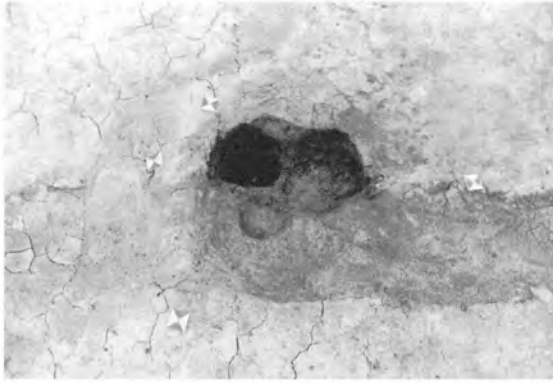
写真图版10 1号·2号·3号·4号·5号土坑



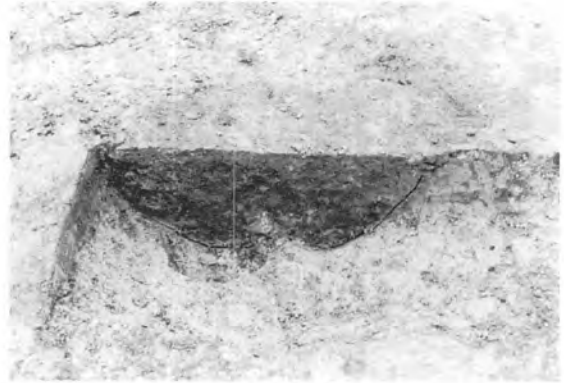
6号土坑



6号土坑断面



7号土坑完掘



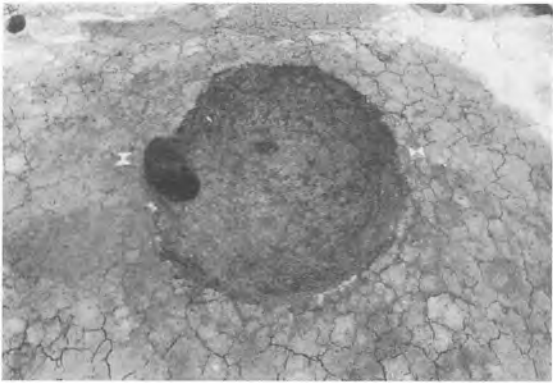
7号土坑断面



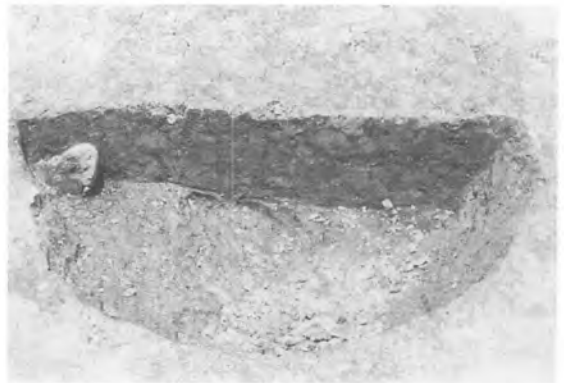
8号土坑



8号土坑断面

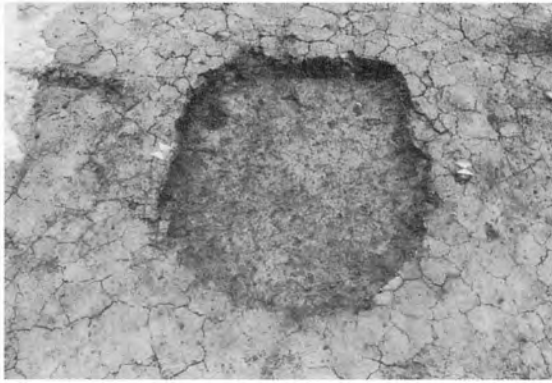


9号土坑



9号土坑断面

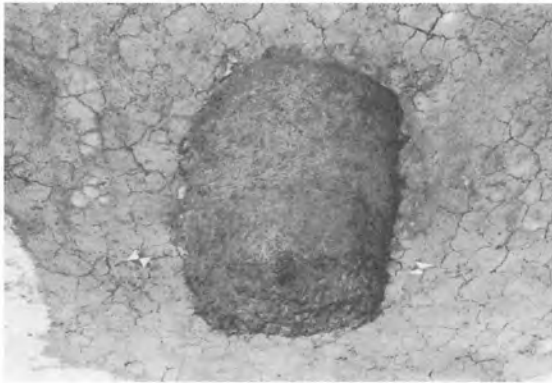
写真图版11 6号·8号·9号土坑



10号土坑



10号土坑断面



11号土坑



11号土坑断面



12号土坑



12号土坑断面



13号土坑



13号土坑断面

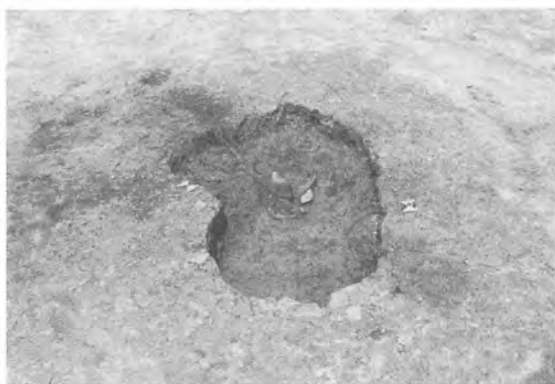
写真图版12 10号·11号·12号·13号土坑



14号土坑



14号土坑断面



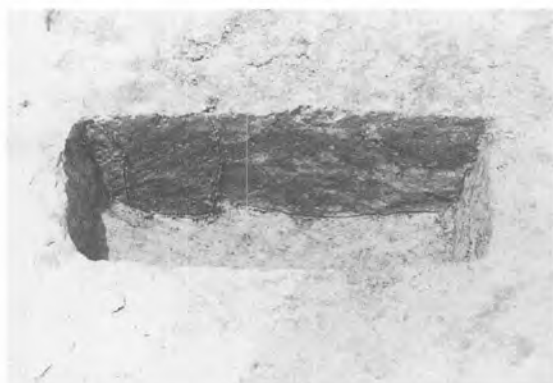
15号土坑



15号土坑断面



16号土坑



17号土坑断面



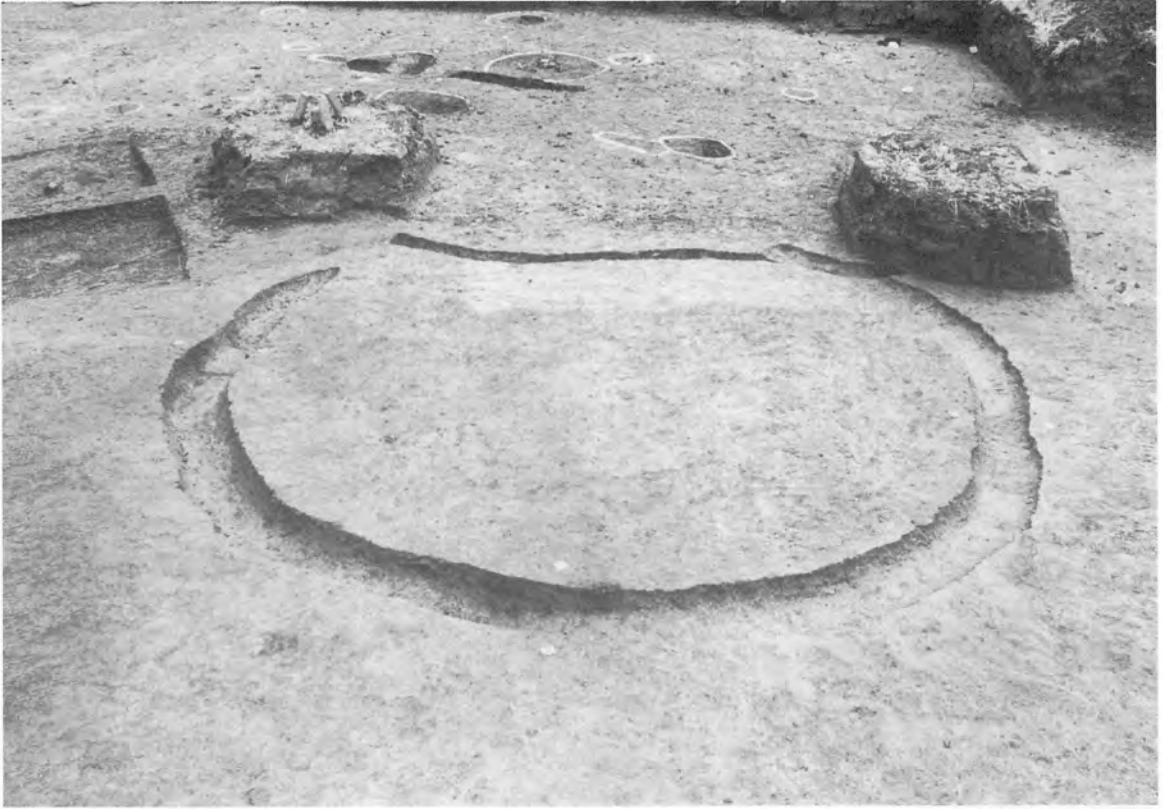
18号土坑



18号土坑断面

写真图版13 14号·15号·16号·17号·18号土坑





円形周溝



a 断面



c 断面



b 断面

写真図版14 円溝跡



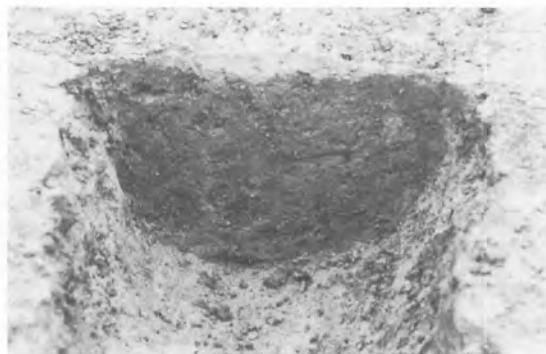
1号沟迹



2号沟迹



3号沟迹



2号沟迹断面



1号沟迹断面

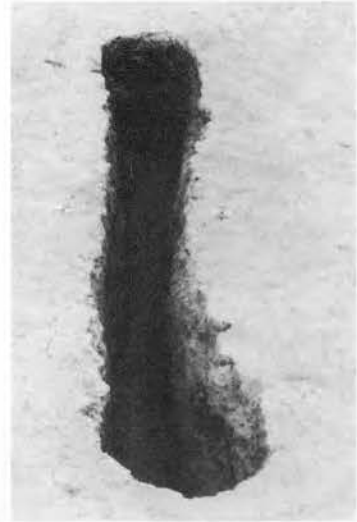


3号沟迹断面

写真图版15 1号・2号・3号沟迹



1号陥し穴



2号陥し穴



1号陥し穴断面



2号陥し穴



3号陥し穴



4号陥し穴

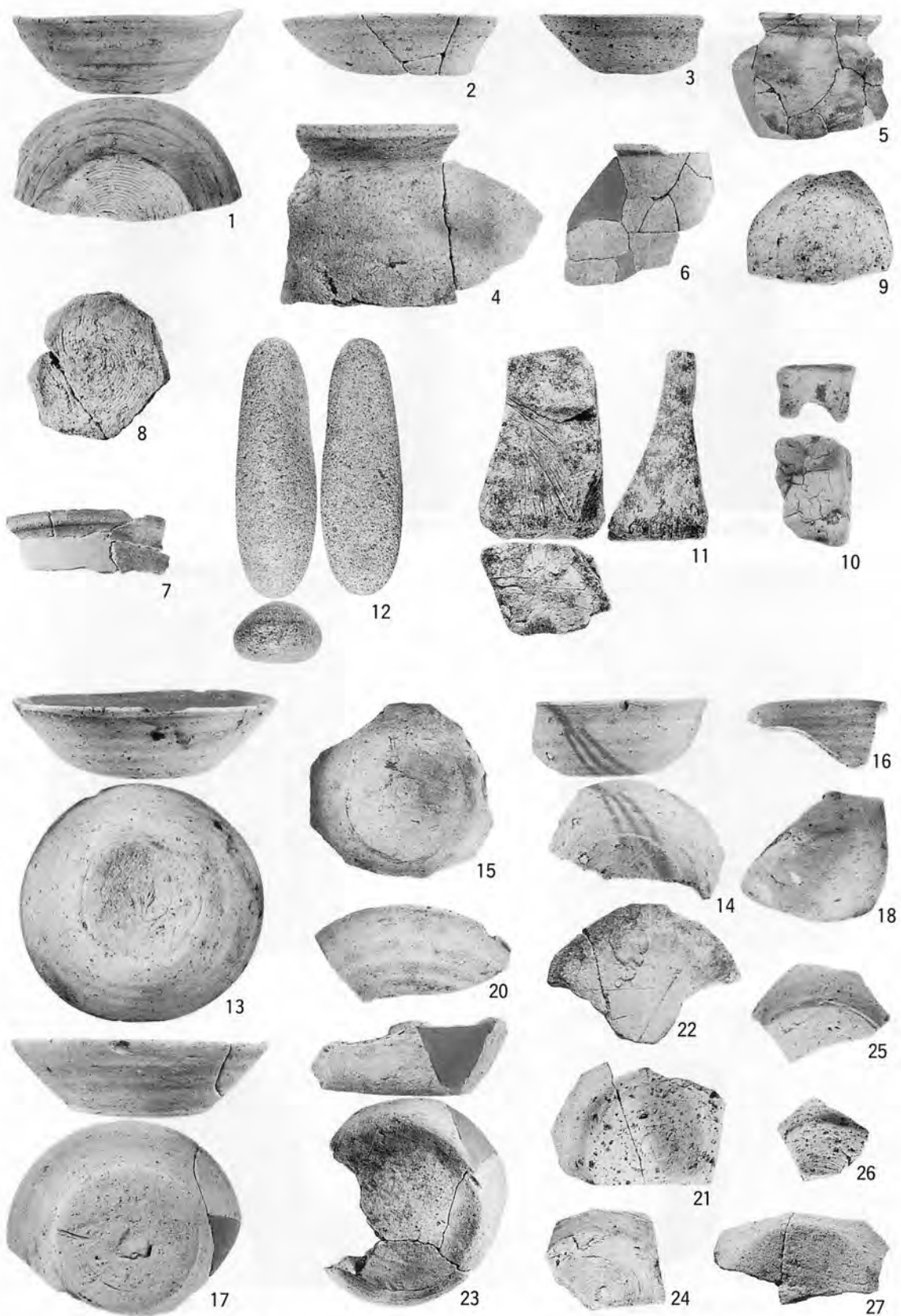


3号陥し穴断面



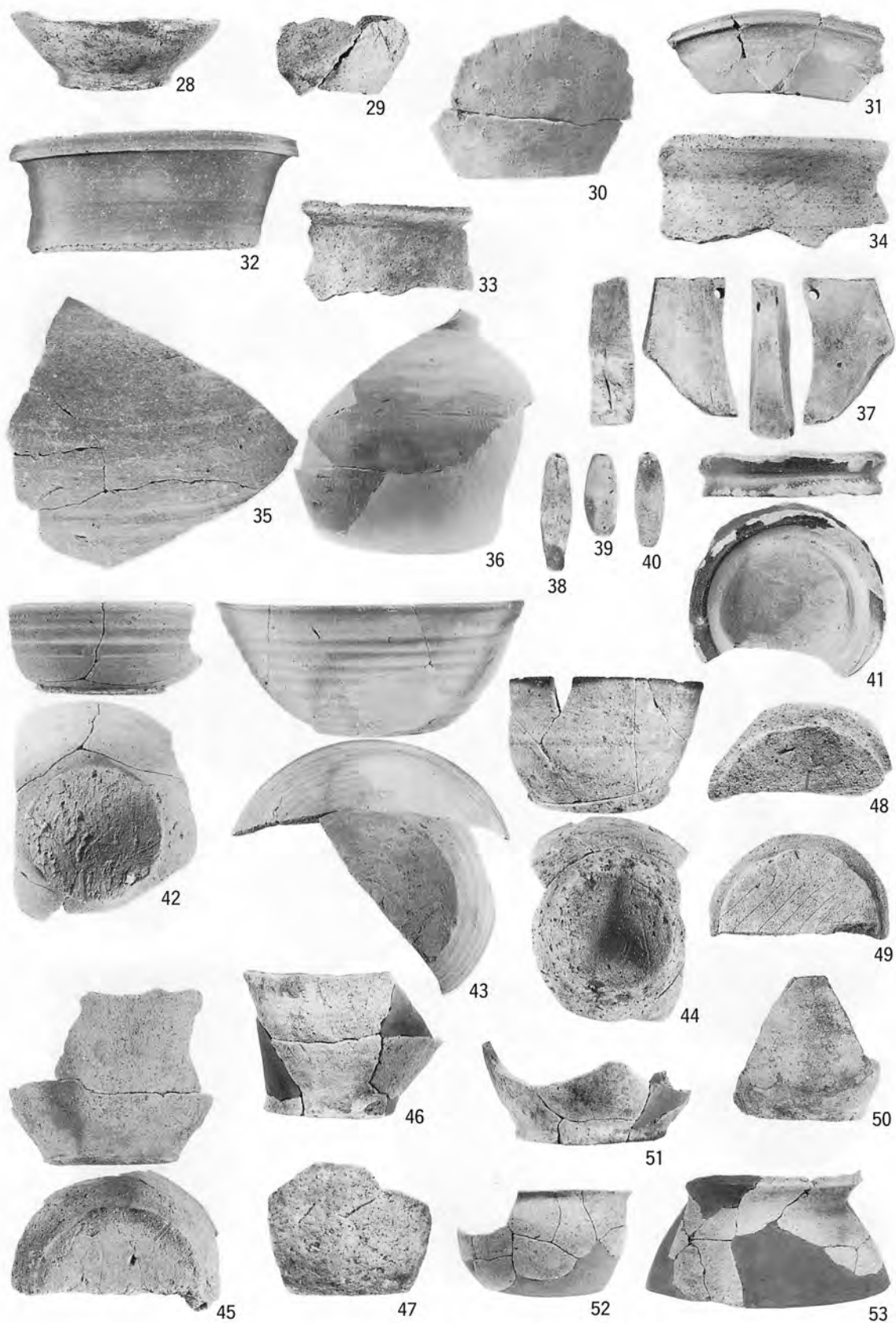
4号陥し穴断面

写真図版16 1号・2号・3号・4号陥し穴

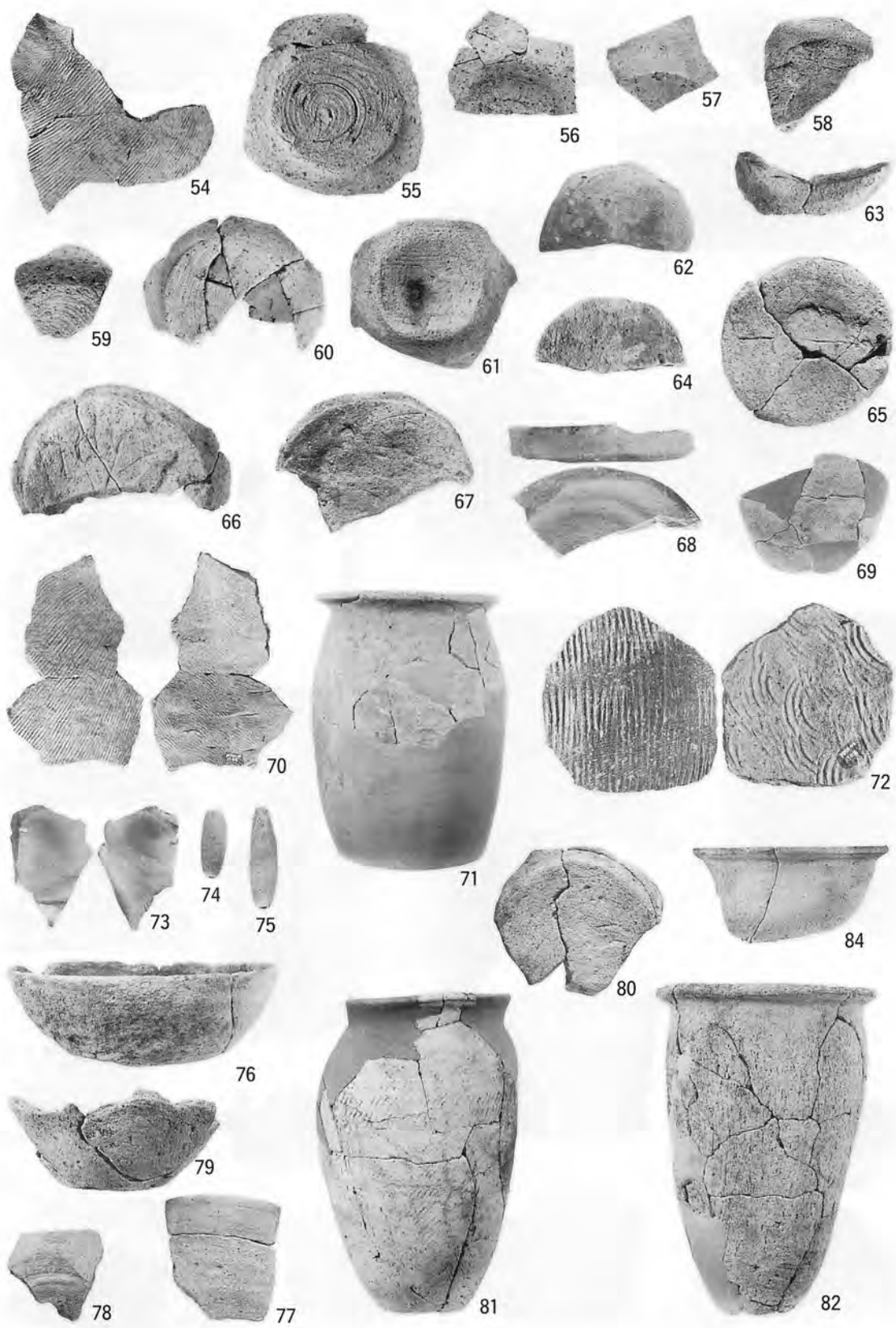


写真图版17 1号·2号竖穴住居出土遗物

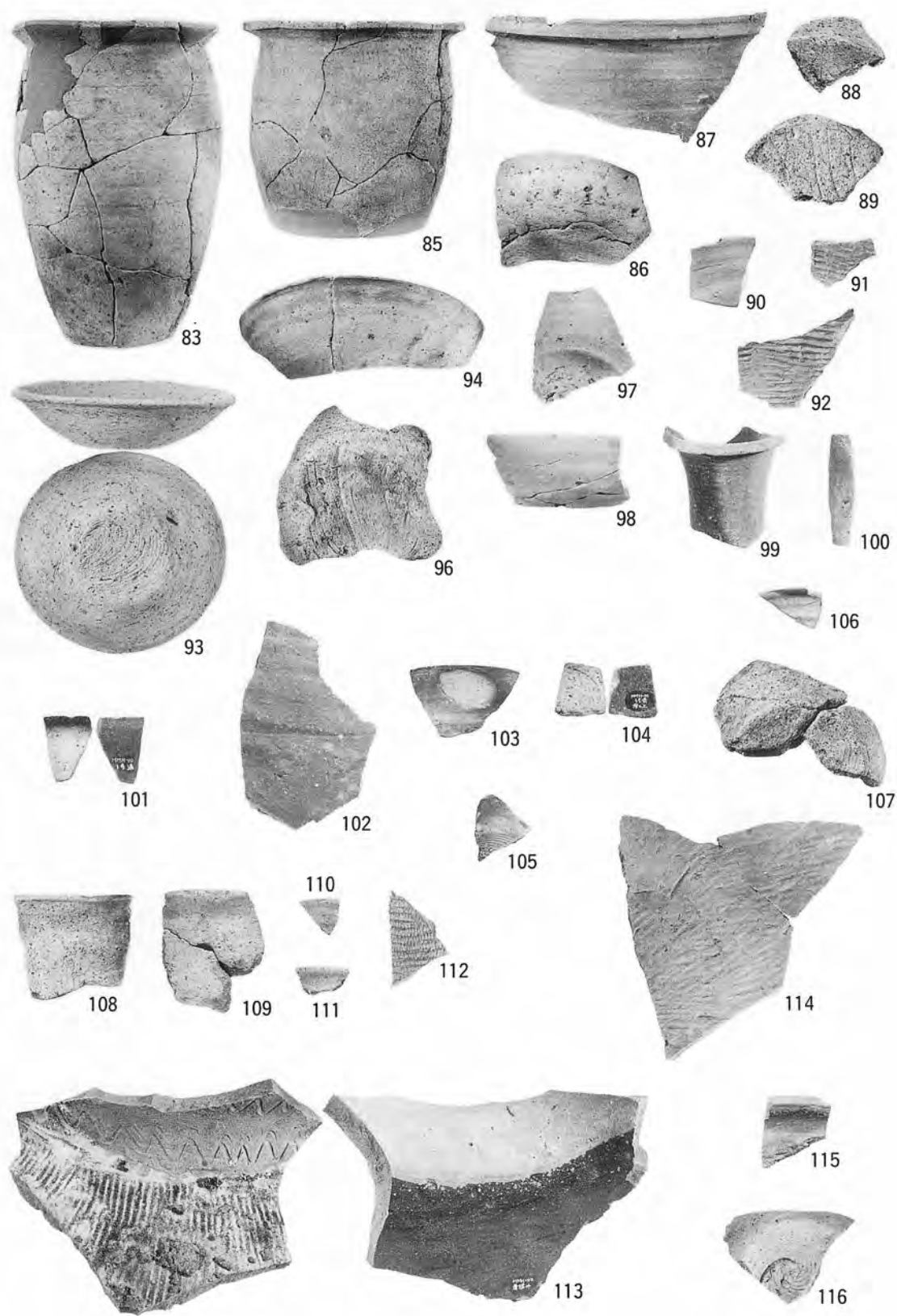




写真图版18 2号·3号·4号竖穴住居出土遗物



写真图版19 4号·5号·6号竖穴住居出土遺物



写真图版 20 6号·7号竖穴住居土坑遺構外出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	もとしゆくむかいはたいせきはつかつちようさほうこくしょ							
書名	本宿迎畑遺跡発掘調査報告書							
副書名	水沢ほ場整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第381集							
編著者名	金野 進							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL.019-638-9001							
発行年月日	西暦2002年3月 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もとしゆくむかいはたいせきしょうさ 本宿迎畑遺跡調査	いわてけんみずさわし 岩手県水沢市  あねたいあざもとしゆく 姉体字本宿	03204	ME37-1198	39度 05分 21秒	141度 10分 17秒	20000427 ～ 20000602	1,190	ほ場整備 事業関連
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
本宿迎畑遺跡	集落跡	平安時代     縄文時代	竪穴住居跡 7棟 住居状遺構 1棟 円形周溝 1条 溝跡 3条 土坑 18基 陥し穴状遺構 4基	土師器 (甕・坏) 須恵器 (甕・坏) 土製品 (土錘) 石製品(剥方石器) (磨り石、砥石)				
			近世～近代 (不明)	柱穴状小ピッド				

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長	伊 藤 民 也	副 所 長	高 橋 正 儀
[管 理 課]			
管 理 課 長	韭 沢 正 吾	嘱 託	高 橋 照 雄
管理課長補佐	山 崎 善 光	〃	佐々木 光 重
〃	山 岸 直 美	〃	加 藤 美代子
主 査	立 花 多加志	〃	湯 沢 邦 子
[調査第一課]		[調査第二課]	
調査第一課長	佐々木 勝	調査第二課長	高 橋 與右衛門
課 長 補 佐	佐々木 清 文	課 長 補 佐	中 川 重 紀
〃	高 橋 義 介	文化財専門員	金 子 佐知子
文化財専門員	小山内 透	文化財調査員	阿 部 眞 澄
文化財調査員	中 田 迪	〃	飯 坂 一 重
〃	飯 森 秀 文	〃	阿 部 徹
〃	赤 石 登	〃	濱 田 宏
〃	吉 田 充	〃	安 藤 由紀夫
〃	亀 大 二郎	〃	高 木 晃
〃	小 原 眞 一	〃	佐 藤 淳 一
〃	佐々木 信 一	〃	星 雅 之
〃	小笠原 健一郎	〃	菅 原 靖 男
〃	金 野 進	〃	半 澤 武 彦
〃	小 松 則 也	〃	杉 沢 昭太郎
〃	岩 淵 計	〃	溜 浩 二郎
〃	鳥 居 達 人	〃	中 村 直 美
〃	金 子 昭 彦	〃	西 澤 正 晴
〃	羽 柴 直 人	〃	八 木 勝 枝
〃	千 葉 正 彦	〃	(阿 部 勝 則)
〃	長 村 克 稔	期限付調査員	吉 川 徹
〃	星 幸 文	〃	北 田 勲
〃	佐 藤 あき子	〃	吉 田 里 和
〃	菊 池 貴 広	〃	原 美津子
〃	村 上 拓	〃	斎 藤 麻紀子
〃	本 多 準一郎	〃	駒 木 野 智 寛
〃	村 木 敬		
〃	北 村 忠 昭		
〃	高 瀬 克 範		
〃	丸 山 浩 治		
〃	島 原 弘 征		
〃	中 村 絵 美		
期限付調査員	小 林 弘 卓		
〃	江 藤 敦		
〃	菊 池 賢		
〃	井 上 信 介		
〃	川 又 晋		
〃	吉 田 真由美		
〃	坂 部 恵 造		
〃	木 村 ひかり		

---

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第381集

## 漆林Ⅱ遺跡・本宿迎畑遺跡発掘調査報告書

水沢ほ場整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成14年2月21日

発行 平成14年2月28日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

TEL(019)638-9001 FAX(019)638-8563

印刷 株式会社 長内印刷

〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ三丁目3-28

TEL(019)643-5343

